



福島県立美術館  
年報  
令和2年度  
2020



福島県立美術館  
年報  
令和2年度・2020

福島県立美術館年報  
令和2年度(2020)

目次

---

設置の目的と立地	2
沿革	3
令和2年度主要記事	4
第1節 委員会等	4
美術館運営協議会	
他館等との連携	
第2節 収集・保存	5
収蔵作品点数	
収集評価委員会	
令和2年度収蔵作品	
図書資料の収集	
保存管理	
第3節 展示事業	8
常設展	
企画展	
アンケート結果	
観覧者数一覧	
第4節 調査研究事業	40
第5節 普及事業	40
館内解説	
鑑賞講座	
創作プログラム	
美術館・学校教育連携事業	
友の会等との連携	
その他の事業	
第6節 工事関係	45
関係法規	46
予算	52
施設・設備	53
施設配置図	54
組織図・職員名簿	55
利用案内	56

## ◆設置の目的と立地



福島県立美術館は、すぐれた美術作品にふれることで人々の感受性が高まり、情操が養われ、憩いと喜びのなかに創造の手がかりが得られる場として、1984（昭和59）年7月に、隣接する福島県立図書館とともに設けられました。

この目的のために、収蔵作品の充実をはかり、貴重な文化財である美術品の保存につとめ、継続的な調査研究にもとづく展示・普及事業を積極的に展開するとともに、美術に関するさまざまな情報を提供します。

美術館は、福島市のシンボルであり、憩いの場として親しまれている信夫山のふもとにあります。福島駅からも近く、交通の便もよい場所にありながら、野鳥の声もきこえる静かで落ち着いた環境にあります。60,000㎡もの広大な敷地には、樹木や花々、広い芝生や日本庭園があり、散策や休息の場として親しまれています。

美術館と図書館は、多面的な機能と豊富な情報にもとづく、さまざまなサービスを提供することによって、見る・聴く・語る・作る・考える空間として活用していただくことをめざしています。

## ◆沿革

1977年	5月	文化を考える県民会議を設置			「移動美術館」開始（第1回は喜多方市美術館）
	6-8月	文化に関する県民意識調査を実施			
1978年	1月	文化を考える県民会議より「県の文化振興について」を県知事に報告	2000年	3月	『福島県立美術館所蔵作品選 ポケット・ミュージアム』発行
	7月	文化振興会議を設置		4月	第四代館長に酒井哲朗が就任(-2012年3月)
1979年	2月	文化振興会議より「文化振興策の具体策について」を県知事に報告		7月	空調機械工事（第一期）竣工、再開館（20日）
	3月	文化施設等整備基金条例制定	2001年	11月	19日以降休館となる（-2002年4月26日）
	4月	県教育庁文化課内に文化施設班を置く			空調機械工事（第二期）等着工
	6月	福島県立美術館基本構想検討委員会を設置（委員10人を委嘱）	2002年	3月	空調機械工事（第二期）、展示室改修工事竣工（県立図書館空調工事も竣工）
	12月	美術品等取得基金条例制定		4月	再開館（27日） レストラン「カフェ・ドゥ・ミュゼ ムスターシュ」開店（-2008年3月23日）
1980年	1月	「福島県立美術館建設基本構想について」を同委員会より知事に報告		10月	「美術館友の会（仮称）設立に向けて県民の意見を聴く会」を設置
	2月	美術館・図書館の建設地を福島市に決定 版画家斎藤清氏より県に自作227点が寄贈される	2003年	4月	高校生以下の常設展観覧料金を無料化 「福島県立美術館友の会設立発起人会」を開催、友の会発足
	4月	福島県立美術館収集評価委員会を設置（委員7人を委嘱） 美術館・図書館の建設地を福島大学経済学部跡地に決定	2004年	6月	「特定非営利活動法人 福島県立美術館協力会」発足
	5月	第1回収集評価委員会開催、ワイエス「松ぼっくり男爵」他の購入を決定		7月	「アートオブスター・ウォーズ展」開催、77,601人の観覧者を記録する
	12月	美術館基本設計を委託（大高建築設計事務所）		10月	開館20周年記念展「田園の夢」開催
1981年	7月	美術館実施設計を委託（大高建築設計事務所）	2005年	3月	『収蔵作品図録 1990-2005』発行
1982年	7月	美術館設計工事着工	2006年	5月	入館者通算200万人を記録する
1984年	3月	美術館本體工事完了 福島県立美術館条例を議決		8月	初の県立美術館・図書館連携事業として「アートな おはなしかい」を開催
	4月	福島県立美術館設置	2008年	10月	レストラン「ミュゼ・ドゥ・カナール」新装開店
	6月	福島県立美術館博物館所管の県有美術品365点を移管	2009年	7月	開館25周年記念展「福島県立美術館のすべて」「文化の力」「アルバム」展開催
	7月	開館（22日） 初代館長に原田實が就任（-1989年3月） 開館記念展第1部「戦後の名作に見る人間像」展開催 『所蔵品図録抄』を発行	2011年	3月	12日以降東日本大震災の被害により臨時休館となる（4月25日）
	10月	第1回運営協議会開催		4月	再開館（26日）
1986年	3月	『研究紀要第1号』発行		5月	入館者通算300万人を記録
1989年	4月	第二代館長に佐藤昌志が就任(-1990年3月)	2012年	2月	震災復旧工事のため1日以降休館となる（-4月6日）
1990年	3月	『収蔵作品図録 1984-1989』発行		4月	第五代館長に早川博明が就任(-2020年3月)
	4月	館長事務代行を教育長兼務とする（-1992年3月）	2013年	7月	「若沖が来てくれました」展開催、155,592人の観覧者を記録する
1992年	4月	第三代館長に長谷部満彦が就任（-2000年3月）	2014年	7月	開館30周年記念展「コレクション・クッキング」展開催
1994年	7月	開館10周年記念展「ルネサンスの絵画」「日本画の風景」開催	2015年	4月	6日以降休館となる（-2016年4月1日） 空調設備等改修工事着工
1995年	6月	入館者通算100万人を記録する	2016年	4月	再開館（2日） 名誉館長に酒井哲朗が就任
1998年	4月	「ピカソ回顧展」開催、67,125人の観覧者を記録する			「フェルメールとレンブラント」展開催、104,519人の観覧者を記録する
1999年	3月	屋根改修工事着工	2019年	4月	「東日本大震災復興祈念 伊藤若冲展」開催、116,344人の観覧者を記録
	8月	屋根改修工事のため23日以降常設展を休止（-2000年7月19日）	2020年	4月	第六代館長に長根由里子が就任 新型コロナウイルス感染拡大防止のため19日以降臨時休館となる（-5月15日）
	9月	通算100本目の企画展「生誕100年関根正二展」を開催		8月	改修工事のため31日以降休館となる（-2021年5月21日）
	10月	18日以降休館となる（-2000年7月19日） 空調機械改修工事（第一期）着工			

## ◆令和2年度主要記事（2020.4 - 2021.3）

## 第1節 委員会等

### 令和2（2020）年

- 4月 1日 長根由里子館長・小山田八重子事務長着任  
4月19日 新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休館（-5月15日）  
5月19日 「もうひとつの江戸絵画 大津絵展」開幕（-6月28日）  
6月29日 展示替にともなう臨時休館（-30日）  
7月 1日 「第Ⅱ期常設展」開幕（-8月30日）  
7月11日 「もうひとつの日本美術史—近現代版画の名作2020」展開幕（-8月30日）  
8月21日 常設展無料観覧日（県民の日）  
8月31日 改修工事にともなう休館（-2021年5月21日）  
9月12日 小峰城歴史館（白河市）にて「福島県立美術館の名画たち」展開幕（-11月8日）  
10月18日 喜多方市美術館にて「福島県立美術館 世界の名作展」開幕（-11月17日）  
12月 3日 美術館・図書館合同消防訓練

### 令和3（2021）年

- 1月15日 福島市子どもの夢を育む施設こむこむにて「2020学校連携共同ワークショップ参加校作品展」開幕（-24日）  
2月13日 福島県沖地震発生（震度6弱）  
2月25日 令和2年度運営協議会  
3月 3日 令和2年度収集評価委員会  
3月31日 荒木康子副館長兼学芸課長・玉木文夫専門員退任、高橋奈央子主査転任

### 1 美術館運営協議会

#### (1) 委員

- 山口 功 福島県中学校教育研究会美術部所属（平成25.1.1～）  
番匠あつみ 福島県高等学校教育研究会美術工芸部会所属（平成27.1.1～）  
大沼博文 公益財団法人福島県文化振興財団理事長（令和3.1.1～） ※会長  
坂本節子 福島県家庭教育インストラクター（平成25.1.1～） ※副会長  
齋藤勝正 福島県美術家連盟顧問（平成29.1.1～）  
半沢治久 日本放送協会福島放送局長（令和2.9.15～）  
岡部兼芳 はじまりの美術館館長（令和3.1.1～）  
笠原美智子 アーティゾン美術館副館長（令和3.1.1～）  
齋藤美保子 郡山女子大学短期大学部副学長・教授（平成27.1.1～）  
舟木藤弘 福島県立美術館友の会理事（平成29.1.1～）

#### (2) 協議会の開催

期日：令和3年2月25日(木)

内容：・令和2年度事業の概要について

- ・令和3年度事業計画（案）の概要について
- ・その他（福島県立美術館の運営等について）

### 2 他館等との連携

県内外の博物館施設および全国組織等との連携を図り運営・事業等に関する情報交換や研修等を実施した。

#### 〈加盟団体〉

- ・全国美術館会議（会員）
- ・日本博物館協会（会員）
- ・日本博物館協会東北支部（会員）
- ・東北地区博物館協会（会員）
- ・福島県博物館連絡協議会（理事）

## 第2節 収集・保存

優れた美術作品鑑賞の機会を提供し、文化財を保存継承するために、コレクション(収蔵作品)の収集活動を継続的に行っている。

令和2年度は17点の作品、および美術資料4件を寄贈により収蔵した。

### 1 収蔵作品点数(令和3年3月31日現在)

種別	購入点数	受贈点数	移管点数	合計
海外作品	421	29	0	450
日本画	75	170	116	371
洋画	99	720	96	920
素描・下絵	15	184	17	217
版画	376	732	40	1,148
写真	0	390	20	410
立体	14	83	48	145
工芸	76	49	33	158
書	0	3	36	39
合計	1,077点	2,360点	410点	3,858点
美術資料				69件

### 2 収集評価委員会

- (1) 委員
- 中山恵理 郡山市立美術館主任主査(令和元.12.1～)
  - 松下由里 群馬県立近代美術館次長兼学芸課長(令和元.12.1～) ※副委員長
  - 三上満良 元宮城県美術館副館長(平成23.12.1～)
  - 村田真宏 豊田市美術館長(平成23.12.1～) ※委員長
  - 水沢 勉 神奈川県立近代美術館長(令和元.12.1～)

- (2) 委員会の開催
- 期日：令和3年3月3日(木)
- 内容：・令和元年度収集作品の報告  
・令和2年度収集候補作品について

### 3 令和2年度収蔵作品

- (1) 美術作品及び美術資料の収集
- 国内：日本画
    - 荻生天泉 1点
    - 酒井三良 4点
    - 松林雪貞 2点
    - 山内神斧 1点
  - 国内：洋画
    - 大石源太郎 2点
    - 紺野三郎 1点
    - 野見山暁治 2点
    - 斑目秀雄 1点
  - 国内：素描・下絵 野見山暁治 1件
  - 国内：資料
    - 松林家関係資料 1件
    - 大石源太郎資料 1件

勝田蕉琴資料 1件  
関根正二資料 1件  
計17点 美術資料4件

### (2) 新収蔵作品一覧

1. 荻生天泉(1882-1946)  
《銀河瀧》1941(昭和16)年  
絹本墨画淡彩、軸 121.8×42.2cm  
深堀君恵氏寄贈



2. 酒井三良(1897-1969)  
《帰樵》1930(昭和5)年 再興17回院展  
紙本着色 74.0×90.8cm 坂本朝夫氏寄贈



3. 酒井三良(1897-1969)  
《雨はれ》1930(昭和5)年 再興17回院展  
紙本着色 74.0×92.8cm 坂本朝夫氏寄贈



4. 酒井三良(1897-1969)  
《そばの秋》1930(昭和5)年 再興17回院展  
紙本着色 73.5×82.2cm 坂本朝夫氏寄贈

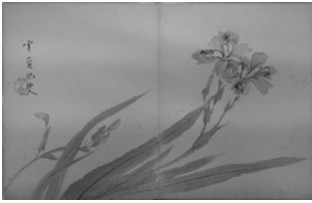


5. 酒井三良  
《雪暮》1930(昭和5)年 再興17回院展  
紙本着色 76.5×92.0cm 坂本朝夫氏寄贈



6. 松林雪貞 (1878-1969)

《雪貞画譜 (画帖 13 図)》1932 年  
紙本着色 21.1 × 33.3cm 松林 明氏寄贈



7. 松林雪貞 (1878-1969)

《雪貞女史遺墨 (画帖 7 図)》制作年不詳  
絹本着色 23.0 × 14.5cm 松林 明氏寄贈



8. 松林家関係資料 一括 (12 点)

(松林雪貞履歴書 1 点、棚倉藩松林家関係文書 7 点、松林花翁俳句資料 4 点) 松林 明氏寄贈

9. 山内神斧 (1886-1966)

《和蘭陀船》1916 (大正 5) 年頃  
麻布に着色、屏風二曲一隻 169.7 × 170cm 星野桂三氏寄贈



10. 大石源太郎 (1889-1978)

《黒岩春日神社》1911 (明治 44) 年 4 月  
カンヴァス・油彩、額 79.7 × 61cm 大石 尚氏寄贈



11. 大石源太郎

《湯野温泉の夜》1917 (大正 6) 年 5 月  
カンヴァス・油彩、額 53.4 × 41.5cm 大石 尚氏寄贈



12. 大石源太郎 (1889-1978)

《[風景]》大正期  
カンヴァス・油彩、額 116.8 × 80.8cm 大石 尚氏寄贈



13. 大石源太郎 (1889-1978)

《自画像》1917 (大正 6) 年 6 月  
カンヴァス・油彩 60.6 × 45.7cm 大石 尚氏寄贈



14. 紺野三郎 (1885-1918)

《大石源太郎像》1917 (大正 6) 年  
カンヴァス・油彩 45.7 × 33.6cm 大石 尚氏寄贈



15. 大石源太郎関係資料「アートクラブ関連資料一括」

(刊行物 3 冊、手記 12 冊、スケッチブック 93 冊、画稿等 240 件、市街図 1、野外スケッチ用イーゼル等) 大石 尚氏寄贈



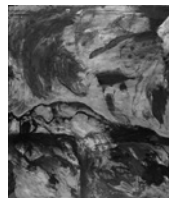
16. 野見山暁治 (1920-)

《白い山》1985 (昭和 60) 年  
カンヴァス・油彩 60.6 × 72.7cm 野見山暁治氏寄贈



17. 野見山暁治 (1920-)

《ある歳月》2011 (平成 23) 年 8 月  
カンヴァス・油彩 194 × 162cm 野見山暁治氏寄贈



## 18. 野見山暁治 (1920-)

《[震災スケッチブック]》2011(平成23)年  
紙・鉛筆、サインペン等 18.8 × 18.8cm (紙寸)  
野見山暁治氏寄贈



## 19. 斑目秀雄 (1911-1986)

《花を配せる裸婦》1949年 第17回独立展  
カンヴァス・油彩 64 × 90cm 石井恒雄氏寄贈



## 20. 勝田蕉琴資料

[ゴゴネンドラナト・タゴール宛はがき] 2通  
1906(明治39)年5月13日、5月22日  
紙・水彩、インク 各8.9 × 13.9cm (紙寸)  
山本達文氏寄贈



## 21. 関根正二資料

[雄山通季宛はがき] 4通  
1916(大正5)年～1919(大正8)年1月  
紙・水彩、インク 14.1 × 9.1cm / 14.1 × 9.1cm / 14.3 × 8.9  
cm / 14.2 × 9.0cm (紙寸) 雄山龍郎寄贈



## 4 図書資料の収集

収蔵図書数 62,166冊 (令和3年2月4日現在)

## 5 保存管理

美術品の状態を維持回復し、美術品の保管・展示の環境を良好に保つために、計画的に美術品の修復や館内の保存環境調査を実施している。

## (1) 保存環境調査の実施

時期：令和2年6月8日～22日、8月7日～21日(調査期間)  
[報告書は7/14、9/18提出]  
内容：展示室、収蔵庫、搬入口およびその他の館内外の虫菌害調査、酸アルカリ濃度測定等

## (2) 美術作品の修復

日本画については、酒井三良《左義長》、勝田蕉琴《安らかなる鳥の巣》を修復。洋画作については、森田恒友《漁村風景》を修復。このほかフェルナン・レジェ《サーカス》の額を交換。

## (3) 放射線測定

美術館施設内および敷地内の放射線測定を実施、測定結果を当館ホームページで公開している。なお、震災後10年が経過し、線量も落ち着いていることから、令和2年度より測定回数および箇所数を減じることとした。

時期：令和2年4月17日、5月15日、6月19日、7月22日、8月28日、11月20日、令和3年2月19日 計7回測定  
場所：美術館内および敷地内、計18か所(11月～8か所)  
測定機種：ALOKA TCS-172 (γ線)、ALOKA TGS-146 (β線)



## 第3節 展示事業

### 1 常設展

収蔵および寄託の美術作品を展示している。美術の多様な領域や数多くの作家を紹介するとともに、作品の状態の保全に配慮して通常、年4回(版画は年8回)展示替えを行っている。令和2年度は、改修工事による長期休館のため、展示替えは2回行った。

#### (1) 常設展示

##### ① 「第1期常設展」

会期：令和2年3月20日(金)祝～6月28日(日)

内容：・春の日本画：湯田玉水《春日遅々》、酒井三良《江南春色》  
・没後50年・角田磐谷：《漢織呉織之図》《屋後展望》など  
・佐藤潤四郎のガラス：《車》《金紅被硝子大皿》など  
・福島戦後の洋画：鎌田正蔵《作品黒》など  
・フランス美術の名品：コロエ《ヴィル・ダブレー》など  
・銅版画の魅力：長谷川潔《メキシコの鳩 静物画》など

出品リスト (\*は寄託作品)：

#### 展示室A

##### ◆春の日本画

尾竹 越堂 (1868-1931) 『[失題]』制作年不詳 紙本着色

相田 直彦 (1888-1946) 『山村風景』制作年不詳 絹本着色

寺崎 広業 (1866-1919) 『山水図』1911 (明治44)年 絹本金地墨画

湯田 玉水 (1879-1929) 『春日遅々』1922 (大正11)年 紙本墨画淡彩

酒井 三良 (1897-1969) 『江南春色』1940 (昭和15)年 紙本墨画淡彩

##### ◆没後50年・角田磐谷

角田 磐谷 (1889-1970) 『漢織呉織之図』1916 (大正5)年／『松川浦

の夕月』1948 (昭和23)年／『須賀川牡丹園』1948 (昭和23)年／『真

野溪谷』1948 (昭和23)年／『磐梯松原湖の朝』1948 (昭和23)年／『信

夫山の桜』1948 (昭和23)年／『屋後展望』1934 (昭和9)年 すべて

絹本着色

##### ◆佐藤潤四郎のガラス

佐藤 潤四郎 (1907-1988) 『車』1971 (昭和46)年／『金紅被硝子大皿』

1979 (昭和54)年／『玻璃花器』1979 (昭和54)年／『馬』制作年

不詳 すべてガラス

#### 展示室B

##### ◆福島戦後の洋画

白井 きよ子 (1906-1953) 『厨にて』1941 (昭和16)年 カンヴァス・油彩

丸樹 長三郎 (1900-1972) 『ジーズ・ラヴズ・ミー』1948 (昭和23)年 カンヴァス・油彩

織田 彩子 (1911-2004) 『ガラス器の静物』1952 (昭和27)年 カンヴァス・油彩

門馬 小二郎 (1911-1968) 『騎馬図』1965 (昭和40)年 カンヴァス・油彩

古川 盛雄 (1897-1983) 『花を飾りて』1957 (昭和32)年 カンヴァス・油彩

山川 忠義 (1903-1983) 『蜂の巣』1978 (昭和53)年 カンヴァス・油彩

渡辺 良雄 (1915-2010) 『梅の里』1973 (昭和48)年 カンヴァス・油彩

斑目 秀雄 (1911-1986) 『港 運河 (横浜風景)』1959 (昭和34)年

カンヴァス・油彩

斎藤 正夫 (1912-2000) 『トロワ・ガラス』1957 (昭和32)年 カンヴァス・油彩

鎌田 正蔵 (1913-1999) 『作品 黒』1958 (昭和33)年 カンヴァス・油彩

土橋 醇 (1910-1978) 『星空』1961 (昭和36)年 カンヴァス・油彩

佐藤 辰治 (1916-1963) 『古代の祈り』1962 (昭和37)年 カンヴァス・油彩

橋本章 (1919-2003) 『地平』1961 (昭和36)年 板・塗料、砂

吉井 忠 (1908-1999) 『寓話』1966 (昭和41)年 カンヴァス・油彩

鈴木 新夫 (1915-1980) 『働く人 (A)』1969 (昭和44)年 カンヴァス・油彩

松田 松雄 (1937-2001) 『風景(川のほとり)』1975 (昭和50)年 カンヴァス・油彩

若松 光一郎 (1914-1995) 『ポリフォニックな情景』1983 (昭和58)年 カンヴァス・和紙・カゼインカラー、墨、他

田口 安男 (1930-) 『夜をさぐる』1977 (昭和52)年 カンヴァス・油彩

稲川 敏之 (1931-2007) 『残照』1972 (昭和47)年 カンヴァス・油彩

梅宮 英亮 (1941-1994) 『公園のピエロ』1984 (昭和59)年 カンヴァス・油彩

深沢 軍司 (1943-) 『チカ子の空気・A』1984 (昭和59)年 麻布・油彩、アクリル

#### 展示室C

##### ◆フランス美術の名品

カミーユ・コロエ (1796-1875) 『ヴィル・ダブレー 林をぬけてコロエ家へ向かう池沿いの道』1873年 カンヴァス・油彩

カミーユ・ピサロ (1830-1903) 『エラニーの菜園』1899年 カンヴァス・油彩

クロード・モネ (1840-1926) 『ジヴェルニーの草原』1890年 カンヴァス・油彩

##### ◆エルンスト《博物誌》

マックス・エルンスト (1891-1976) 版画集《博物誌》1926年 紙・フロタージュ、コロタイプ

『一瞥』／『打ち明け話』／『傷跡』／『偶像』／『予防接種を受けたパン』／『ダイヤモンド婚』／『脱走者』／『すべてを忘れてしまうほど』

##### ◆アメリカの美術

ベン・シャーン (1898-1969) 『W. P. A. サンデー』1939年 紙・グアッシュ

シュ／『トム・ムーニーの母親に挨拶するジミー・ウォーカー』1932-33年 紙・グアッシュ

／『恐怖の夜の町』1951年 ボード・グアッシュ、テンペラ

／『これがナチの残虐だ』1942年 紙・オフセット

／『警告! …インフレーションは不況を意味する』1946年 紙・オフセット

／『これらあらゆる権利のために我々は闘いを開始したのだ』1946年 紙・リトグラフ

アンドリュー・ワイエス (1917-2009) 『ドイツ人の住むところ』1973年 紙・水彩

／『松ぼっくり男爵』1976年 ボード・テンペラ

／『そよ風』1978年 紙・水彩

／『農場にて』1988年 紙・水彩

#### 展示室D

##### ◆斎藤清の版画

斎藤 清 (1907-1997) 『青沼、裏磐梯、会津』1955 (昭和30)年

／『裏磐梯、会津』1955 (昭和30)年

／『たんぼ』1962 (昭和37)年

／『会

津の春』1974（昭和49）年／『慈愛（E）』1978（昭和53）年／『春の鶴ヶ城（A）』1988（昭和63）年／『かすみ 慈愛』1991（平成3）年／『地の幸』1989（平成元）年／『早春（2）』1991（平成3）年／『風』1997（平成9）年 すべて紙・木版

#### ◆銅版画の魅力

長谷川 潔（1891-1980）『セードルの実のある静物画』1960（昭和35）年 紙・メゾチント／『メキシコの鳩 静物画』1966（昭和41）年 紙・メゾチント

浜口 陽三（1909-2000）『西瓜』1954（昭和29）年 紙・メゾチント／『白菜』1960（昭和35）年 紙・メゾチント

駒井 哲郎（1920-1976）『鳥と果実』1959（昭和34）年 紙・アクアチント、エッチング／『調理場』1960（昭和35）年 紙・アクアチント

浜田 知明（1917-2018）『副校長D氏像』1956（昭和31）年 紙・エッチング／『詩人』1963（昭和38）年 紙・エッチング、アクアチント

秀島 由己男（1934-2018）『わらべ唄〈蜂と太郎〉』1976（昭和51）年 紙・雁皮紙貼・メゾチント／『静物〈桃と虫〉』1976（昭和51）年 紙・雁皮紙貼・メゾチント

#### 屋外・ホール彫刻

林 範親（1948-）『路地裏』1994（平成6）年 ナラ、ヒバ、古材・アクリル絵具

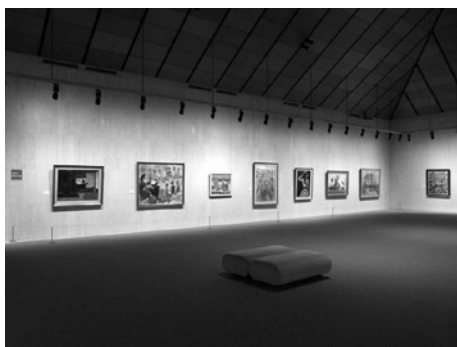
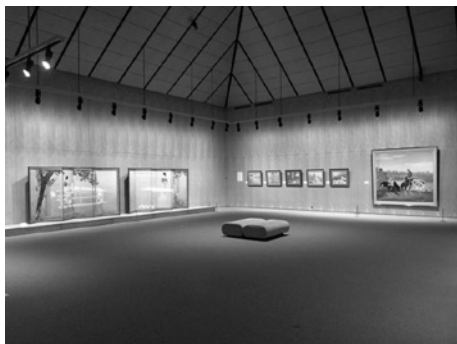
佐藤 忠良（1912-2011）『若い女・シャツ』1982（昭和57）年 ブロンズ

エミリオ・グレコ（1913-1995）『スケートをする女』1951年 ブロンズ

マリノ・マリーニ（1901-1980）『騎手』1956-57年 ブロンズ

井上 武吉（1930-1998）『My Sky Hole 89-2』1989（平成元）年 ステンレス・鏡面磨き

フェルナン・レジェ（1881-1955）『歩く花』1952-53年 原型作成 ブロンズ・エナメル塗装 \*



展示風景

#### ② 「第Ⅱ期常設展」

会期：令和2年7月1日(木)～8月30日(日)

内容：・日本画の名品：中島清之《胡瓜》、速水御舟《女二題》など  
・関根正二と近代の洋画：関根正二《姉弟》など  
・現代の彫刻：工藤哲己《危機の中の芸術家の肖像》など  
・フランス美術の名品：ルノワール《帽子を被る女》など  
・アメリカの美術：ベン・シャーン《恐怖の夜の町》など  
・福島版画家たち：斎藤清《会津の冬（坂下）》など

#### 出品リスト（\*は寄託作品）

##### 展示室A

###### ◆日本画の名品

横山 大観（1868-1958）『山間旅行之図』1901（明治34）年 紙本墨画 \*

川端 龍子（1885-1966）『螢』1931（昭和6）年 紙本墨画 \*

平福 百穂（1877-1933）『ふき』制作年不詳 紙本墨画淡彩、屏風二曲一隻

木下 春（1892-1973）『機織』1934（昭和9）年 紙本著色、屏風二曲一隻

中島 清之（1899-1989）『胡瓜』1923（大正12）年 絹本著色

橋本 関雪（1883-1945）『倪雲林』1917（大正6）年 絹本著色

速水 御舟（1894-1935）『女二題 其一』1931（昭和6）年／『女二題 其二』1931（昭和6）年 絹本著色／『女二題 其一（下絵）』1931（昭和6）年 紙本墨画淡彩 \*／『女二題 其二（下絵）』1931（昭和6）年 紙本墨画淡彩

酒井 三良（1897-1969）『雨はれ』1930（昭和5）年 紙本著色 \*／『そばの秋』1930（昭和5）年 紙本著色 \*

###### ◆没後10年・伊砂利彦

伊砂 利彦（1924-2010）『波』1960（昭和35）年頃／『朱松』1960（昭和35）年頃 軸・朦朧染め、屏風二曲一隻／『松一月待ち一』1965（昭和40）年／『瀬』1978（昭和53）年 和紙・型染め、屏風二曲一隻／『長唄娘道成寺より 序』／『長唄娘道成寺より 恋』／『長唄娘道成寺より 怨』1988（昭和63）年 和紙・型染め、屏風四曲三隻／『沖繩戦で逝きし人々にささげる鎮魂歌』1991（平成3）年 和紙・型染め、屏風二曲一双／『海に逝きし人々にささげる鎮魂歌』1992（平成4）年 和紙・型染め、屏風二曲一双

##### 展示室B

###### ◆関根正二と近代の洋画

萬 鉄五郎（1885-1927）『庫』1918（大正7）年 カンヴァス・油彩

恩地 孝四郎（1891-1955）『静物（レモン）』1920（大正9）年 カンヴァス・油彩

岸田 劉生（1891-1929）『静物（白き花瓶と台皿と林檎四個）』1918（大正7）年 カンヴァス・油彩

安井 曾太郎（1888-1955）『テーブルの上』1912（大正元）年 カンヴァス・油彩

関根 正二（1899-1919）『姉弟』1918（大正7）年 カンヴァス・油彩／『神の祈り』1918（大正7）年頃 カンヴァス・油彩

大下 藤次郎（1870-1911）『風景』制作年不詳 紙・水彩／三宅 克己（1874-1954）『風景』制作年不詳 紙・水彩

丸山 晩霞（1867-1942）『溪流（飛驒蒲田の激湍）』1912（大正元）年 紙・水彩

石井 柏亭（1882-1958）『裏磐梯』1952（昭和27）年 紙・水彩

赤城 泰舒（1889-1955）『土塀』1920（大正9）年 紙・水彩

渡部 菊二 (1907-1947) 『裏町』 1932 (昭和7) 年 紙・水彩  
北川 民次 (1894-1989) 『二十年目の悲しみの夜』 1965 (昭和40) 年  
カンヴァス・油彩

菅井 汲 (1919-1996) 『YARI』 1958 (昭和33) 年 カンヴァス・油彩  
村井 正誠 (1905-1999) 『風の人』 1968 (昭和43) 年 カンヴァス・  
油彩

百瀬 寿 (1944-) 『NE. Blue, Blue, Blue and Blue』 1993 (平成5) 年  
カンヴァス、パネル・岩絵具、紙

#### ◆現代の彫刻

工藤 哲己 (1935-1990) 『危機の中の芸術家の肖像』 1976 (昭和51)  
年 鳥かご、ミクストメディア

橋本章 (1919-2003) 『看守さん』 1978 (昭和53) 年 ミクストメディア  
入江 比呂 (1907-1992) 『胡座』 1984 (昭和59) 年 ミクストメディ  
ア／『三馬』 1990 (平成2) 年 石膏／『倒れる馬』 1990 (平成2)  
年 紙・アクリル

川島 清 (1951-) 『[表題不詳]』 1970年代後半 紙・アクリル、イン  
ク 石原コレクション／『Observation 42- 地下の落下物』 1990-2000(平  
成2-12) 年 鉄、鉛、木、鋳

原 裕治 (1948-2007) 『No.5』 1980 (昭和55) 年 紙・砂、アクリル  
石原コレクション

安藤 栄作 (1961-) 『コズミックボディー』 2011 (平成23) 年 木 \*  
／『宇宙動力』 2011 (平成23) 年 木 \*

高野 正晃 (1965-) 『ずっとここで生きてゆく』 2013 (平成25) 年  
FRP \*

#### 展示室C

##### ◆フランス美術の名品

カミュー・コロー (1796-1875) 『ヴィル・ダヴレー 林をぬけてコロー  
家へ向かう池沿いの道』 1873年 カンヴァス・油彩

カミュー・ピサロ (1830-1903) 『エラニーの菜園』 1899年 カンヴァス・  
油彩

ピエール＝オーギュスト・ルノワール (1841-1919) 『帽子を被る女』  
制作年不詳 カンヴァス・油彩

##### ◆アメリカの美術

ベン・シャーン (1898-1969) 『ニューヨーク市、8番街、33丁目、ニュー  
ヨーク中央郵便局』 1933-34年／『ニューヨーク市、おそらくロウワー・  
イースト・サイド、4番街』 1932-34年／『ニューヨーク市』 1932-35  
年／『ニューヨーク市、5番街と6番街の間、24丁目、共産党メーデー  
行進、第9区、芸術家組合デモのスケルトン・デヴィスとロッセル・  
スプリング』 1935年5月1日／『テネシー州、マーフリーズボロ』  
1935年10月／『アーカンソー州、オザークス、マリア・プランテーショ  
ン、救済受給者の子供』 1935年10月／『アーカンソー州、オザークス、  
小作農、マルホール家』 1935年10月／『オハイオ州、アーバナ、救済所』  
1938年8月／『オハイオ州中部、農産物品評会』 1938年8月 (以上8  
月31日まで展示)／『ニューヨーク市、14丁目』 1932-34年／『ニュー  
ヨーク市、おそらくロウワー・イースト・サイド、4番街』 1932-34年  
／『ニューヨーク市、東12丁目』 1932-35年／『ニューヨーク市、共  
産党のメーデー行進、演劇組合のデモ』 1935年5月／『ウェスト・ヴァー  
ジニア州、レッド・ハウス』 1935年10月／『ペンシルヴェニア州、ウェ  
ストモアランド郡、ヘクラとペザン・ユニティーの間、マスグローヴ家』  
1935年10月／『ペンシルヴェニア州、ウェストモアランド郡』 1937  
年夏 (後焼き)／『オハイオ州、メカニクスバーグ付近、ヴァージル・  
サクストン』 1938年7-8月／『オハイオ州、アーバナ、救済所』 1938  
年8月 (以上8月1日から展示) すべてオリジナル所蔵はハーバード  
大学附属フォッグ美術館 インクジェット・プリント／『農民にたずね

よ 1941年 ボード・グアッシュ／『スイミングプール』 1945年 ボー  
ド・テンペラ／『ラッキードラゴン』 1960年 綿布・テンペラ／『創  
造のアルファベット』 1963年 紙・グアッシュ／『詩篇133』 1963年 紙・  
リトグラフ

ジョン・スローン (1871-1951) 『ジェファーソンマーケット、ナイト』  
1911年 カンヴァス・油彩

レジナルド・マーシュ (1898-1954) 『回転ブランコ』 1931年 板・  
テンペラ

アンドリュー・ワイエス (1917-2009) 『松ぼっくり男爵』 1976年 ボー  
ド・テンペラ／『ガニング・ロック』 1966年 紙・水彩

#### 展示室D

##### ◆斎藤清の版画

斎藤 清 (1907-1997) 『少女』 1936 (昭和11) 年／『郷の稚児』 1938 (昭  
和13) 年／『憩い』 1938 (昭和13) 年／『北海の魚市』 1939 (昭和  
14) 年頃／『選炭』 1942 (昭和17) 年／『会津の冬 (坂下)』 1938-40 (昭  
和13-15) 年頃／『港・小樽』 1948 (昭和23) 年／『みろく』 1948 (昭  
和23) 年／『凝視 (猫)』 1948 (昭和23) 年／『直子』 1950 (昭和  
25) 年／『ヌード』 1950 (昭和25) 年 すべて紙・木版

##### ◆福島版画家たち

安部 直人 (1952-) 『腐食と侵食IV』 1980 (昭和55) 年 紙・エッチング・  
アクアチント／『まなざし』 1990 (平成2) 年 紙・ディープエッチ  
ング、メゾチント／『放散する球態』 1994 (平成6) 年 紙・ディープエッ  
チング、メゾチント

長谷川 雄一 (1945-) 『大地への接近 (7)』 1991 (平成3) 年／『大地  
949』 1994 (平成6) 年／『瑞天』 1997 (平成9) 年 すべて紙・木版  
山中 現 (1954-) 『浜辺の夢』 1989年 (平成元) 年／『星宿』 2009 (平  
成21) 年／『影について』 2009 (平成21) 年 すべて和紙・木版

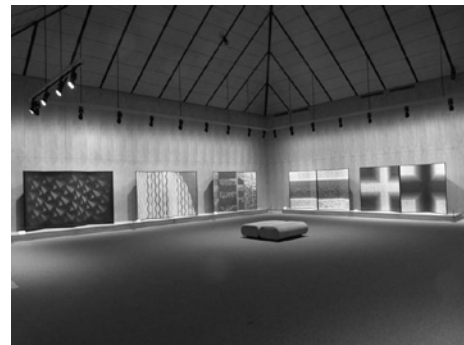
#### 屋外・ホール彫刻

林 範親 (1948-) 『路地裏』 1994 (平成6) 年 ナラ、ヒバ、古材・ア  
クリル絵具

佐藤 忠良 (1912-2011) 『若い女・シャツ』 1982 (昭和57) 年 ブロンズ  
エミリオ・グレコ (1913-1995) 『スケートをする女』 1951年 ブロンズ  
マリノ・マリニ (1901-1980) 『騎手』 1956-57年 ブロンズ

井上 武吉 (1930-1998) 『My Sky Hole 89-2』 1989 (平成元) 年 ステ  
ンレス・鏡面磨き

フェルナン・レジェ (1881-1955) 『歩く花』 1952-53年 原型作成 ブ  
ロンズ・エナメル塗装 \*



展示風景

## 2 企画展

### (1) ブダペスト国立工芸美術館名品展 ジャポニスムからアール・ヌーヴォーへ



A4 チラシ

会期：令和2年3月24日(火)～5月10日(日) 開催日数 43日  
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため4月18日(土)を  
もって展覧会中止。開催日数 23日

分野：近代西洋工芸

展示数：193点

観覧料：一般 1,300(1,100)円、大学生・専門学校生 1,100(900)円、小・中・高校生 650(500)円 \* ( )内は前売料金または20名以上の団体料金

観覧者数：3,394名

担当：橋本恵里、白木ゆう美

主催：ジャポニスム福島展実行委員会 [構成：福島県立美術館、福島中央テレビ、福島民友新聞社]

協賛：福島トヨタ自動車、佐藤燃料、福島県商工信用組合、JAグループ福島

関連事業：

・講演会「開幕記念講演会」→中止  
講師：ガブリエラ・バッラ氏（ブダペスト国立工芸美術館チーフ・キュレーター、本展監修者）

日時：3月24日(火) 14:00～15:30 美術館講堂

・講演会「海を渡った日本工芸とジャポニスム」→中止

講師：木田拓也氏（武蔵野美術大学教授、本展監修者）

日時：3月28日(土) 14:00～15:30 美術館講堂

・ゲストトーク「アール・ヌーヴォーとガラスーガラスアーティストの視点からー」→中止

講師：近岡令氏（ガラス作家）

日時：4月18日(土) 14:00～15:00 企画展示室

・ワークショップ「ガラスフェージングを楽しもう」→延期

講師：近岡令氏（ガラス作家）

日時：4月19日(日) 午前・午後

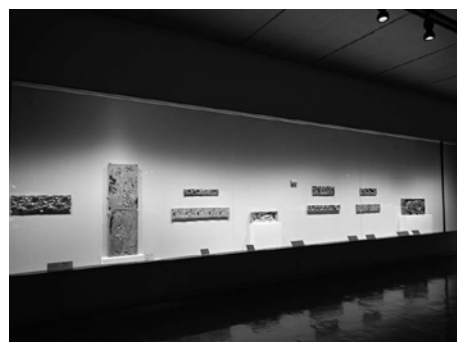
・庭園イベント「Folk Thing Made つくられたものと人と人」→中止

企画：FRIDAY SCREEN

日時：4月25日(土)、26日(日)

概要：

日本の美術がどのようにして西洋に影響を与えたか、そして日本美術を西洋がどのように解釈したか、その歴史を辿る内容。ジャポニスムとアール・ヌーヴォーをテーマに、ブダペスト国立工芸美術館の所蔵品から、ティファニー、ガレ、ドーム兄弟やラリックを含めた作品とともに、ジョルナイ陶磁器工房などハンガリーを代表する作品群を含めて約200点を紹介した。



展示風景

出品リスト：

[出品番号 (cat. no.) / 作品名 / 作者名 (デザイナー、絵付師等) / 製造所 (生産地) / 制作年 / 素材、技法 / 寸法 (cm)]

◆1章 自然への帰帰—歴史主義からジャポニスムへ

1 濃紫地金彩昆虫文蓋付飾壺 ミントン社 (イギリス、スタッフフォードシャー、ストーク=オン=トレント) 1872年 ファイアンスフィーヌ、透かし彫り、流し釉、金彩、浮彫 高33.3、径13.6

2 尾長猿文飾壺 マルク=ルイ=ソロン (?) ミントン社 (イギリス、スタッフフォードシャー、ストーク=オン=トレント) 1877年頃 磁器、パート=シュール=パート技法 (白泥漿絵付け)、色絵金彩 高12.8、径8

3 朱漆風花鳥文扁壺 サン=ドニ工房 (フランス、サン=ドニ) 1870年頃 ファイアンスフィーヌ、色絵、金彩 高23.7、径12.8

4.1-5 竹文ティーセット ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1886年頃 ファイアンスフィーヌ (ポーセリンファイアンス)、色絵、金彩

4-1: 盆 高1.6、径25

4-2: 蓋付ティーポット 高12、径9

4-3: 蓋付ミルク入れ 高10.8、径8.2

4-4: 砂糖皿 高2.4、径8

4-5: ティーカップ、受け皿 高6.5、径11.5 (カップ) 高2、径16 (受け皿)

5 菊花文花器 エミール・ガレ (フランス、ナンシー) 1896年頃 ガラス、型吹き成形、エナメル彩、金彩 高36、径27

6 滝に植物蝶文スツール 図案デザイン: ユーリア・ジョルナイ ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1896年 ファイアンスフィーヌ (ポーセリンファイアンス)、エオシン彩 高34、幅27.3

7 滝に花蝶文花器 図案デザイン: ユーリア・ジョルナイ ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1896年頃 ファイアンスフィーヌ (ポーセリンファイアンス)、エオシン彩 高7.3、径7.4

8 ブラシ用装飾陶板 図案デザイン: ユーリア・ジョルナイ ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1896年頃 ファイアンスフィーヌ (ポーセリンファイアンス)、エオシン彩 高0.9、幅6、長17.8

9.1-2 ブラシ用装飾陶板 図案デザイン: ユーリア・ジョルナイ ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1896年頃 ファイアンスフィーヌ (ポーセリンファイアンス)、色絵

9-1: 高0.6、幅3.5、長14.4

9-2: 高0.8、幅3.4、長14.1

10 葡萄に蝶蜻蛉文飾皿 ミントン社 (イギリス、スタッフフォードシャー、ストーク=オン=トレント) 1877年頃 ボーンチャイナ、透かし彫り、色絵、金彩、プラチナ彩 高2.5、径24.3

11 花に燕と蝶文飾皿 デジレ・ルロイ ミントン社 (イギリス、スタッフフォードシャー、ストーク=オン=トレント) 1877年頃 ボーンチャイナ、透かし彫り、パート=シュール=パート技法 (白泥漿絵付け)、金彩、浮彫 高2.3、径24

12 菊花に蝶文皿 ジョセフ=テオドール・デック (フランス、パリ) 1877-1878年 ファイアンスフィーヌ、高火度釉、釉彩、色絵、エナメル彩 高4.2、径30.2

13 花鳥文花器 ジョセフ=テオドール・デック (フランス、パリ) 1880年頃 ファイアンスフィーヌ、浮彫、色絵 高13.3、径20.6

14 浮彫孔雀文花器 ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1882年 ファイアンスフィーヌ (ポーセリンファイアンス)、浮彫、貼付、色絵、金彩 高21.8、径12.6

15 花枝にとまる鳥図花器 フランソワ・ロラン ロラン&フィス・ファイアンス製陶所 (フランス、ブル=ラ=レーヌ) 1872年頃 ファイ

アンスフィーヌ、轆轤成形、バルボティーヌ (泥漿) 高44.2、径24.8

◆2章 日本工芸を源泉として—触感的なかたちと表面

16 瓢形花器 ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1896年以前 ポーセリンファイアンス、流し釉、色絵、金彩 高24.3、径16

17 銀製葉形飾付き花器 花器: 日本の茶入 (瀬戸、17世紀) 台: ポール&アンリ・ヴェヴェール (フランス、パリ) 1899-1900年頃 陶器、銀、金メッキ 高11.3、径5.8

18 銀製台付き花器 グラティニー製陶所 (フランス、ヴェルサイユ近郊) 銀製台: リュシアン・ガイヤール (フランス、パリ) 1899-1900年 磁器、浮彫、高火度釉、銀、金メッキ 高9、径10

19 銀製葉形飾付き水差 グラティニー製陶所 (フランス、ヴェルサイユ近郊) 銀製飾り: リュシアン・ガイヤール (フランス、パリ) 1899-1900年 磁器、浮彫、高火度釉、銀、金メッキ 高8.8、径7

20 扁球形飾壺 ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1903年 ポーセリンファイアンス、鑄込み成形、結晶釉 高4.8、径12

21 結晶釉花器 ロールストランド磁器製造所 (スウェーデン、ストックホルム) 1903年頃 磁器、鑄込み成形、結晶釉 高14.3、径9.5

22 結晶釉飾壺 成型デザイン: ターデー・シコルスキ ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1900年 ポーセリンファイアンス、浮彫、結晶釉 高20.5、径12.8

23 結晶釉花器 ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1902年 ポーセリンファイアンス、結晶釉 高27、径12.2

24 結晶釉飾壺 ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1900年 ポーセリンファイアンス、鑄込み成形、結晶釉 高12.7、径15

25 夕景図花器 ドーム兄弟 (フランス、ナンシー) アンリ・ベルジェ 1902年頃 多層被せガラス、型吹き成形、ヴィトリフィカシオン、グラヴェール、エッチング 高18.5、径6.5

26 花器 ルイス・カンフォート・ティファニー (アメリカ合衆国、ニューヨーク) 1895-1898年 吹きガラス、オブティカル装飾、オパールセントガラス 高10、径14.5

27 黄釉花器 ロールストランド磁器製造所 (スウェーデン、ストックホルム) 1905年頃 磁器、鑄込み成形、単色釉 高17、径9

28 黄釉花器 ロールストランド磁器製造所 (スウェーデン、ストックホルム) 1905年頃 磁器、鑄込み成形、単色釉 高14.8、径12.8

29 黒褐色金属光沢結晶釉花器 ロールストランド磁器製造所 (スウェーデン、ストックホルム) 1898年以前 ファイアンスフィーヌ、結晶釉 高22、径12

30 茶粉釉六角形花器 イエネー・ファルカシュハージ=フィッセルヘレンド製陶所 (ハンガリー、ヘレンド) 1901年 磁器、高火度釉 高20.6、径9.8

31 瓢形花器 イエネー・ファルカシュハージ=フィッセルヘレンド製陶所 (ハンガリー、ヘレンド) 1901年 磁器、鑄込み成形、高火度流し釉 高22.2、径11.3

32 花器 ハーマン・アウグスト・ケーラー (デンマーク、ネストベズ) 1900年 炆器、ラスター彩 高27.5、径13.8

33 灰色紅色花器 ハーマン・アウグスト・ケーラー (デンマーク、ネストベズ) 1898年以前 炆器、轆轤成形、ひび焼きクラックル釉 高15.3、径10.7

34 下蕪形花器 イエネー・ファルカシュハージ=フィッセルヘレンド製陶所 (ハンガリー、ヘレンド) 1900年 磁器、高火度流し釉 高14、径8.7

35 花器 ヴィンツェ・ヴァルタ (ハンガリー、ブダペスト) 1905-

- 1910年 ファイアンスフィース、高火度アヴェンチュリン(砂金石) 釉 高6.6、径6.3
- 36 赤釉花器 ジョルナイ陶磁器製造所(ハンガリー、ペーチ) 1895-1898年 ポーセリンファイアンス、ラスター彩 高9.7、径6.9
- 37 赤エオシン彩花器 ヴィンツェ・ヴァルタ(ハンガリー、ブダペスト) 1910年 ファイアンスフィース、エオシン彩 高19、径9.7
- 38 色釉エナメル彩絵付花器 図案デザイン:ラヨシュ・マック ジョルナイ陶磁器製造所(ハンガリー、ペーチ) 1907年 炆器、轆轤成形、高火度色釉、色絵エナメル彩、金彩浮彫 高14.7、径8.2
- 39 色釉エナメル彩絵付花器 図案デザイン:ラヨシュ・マック ジョルナイ陶磁器製造所(ハンガリー、ペーチ) 1909年 炆器、轆轤成形、高火度色釉、色絵エナメル彩、金彩浮彫 高14.9、径8.6
- 40 浮彫結晶釉花器 テプリツェ=ツルノヴァニ製陶所(現チェコ共和国、テプリツェ=ツルノヴァニ) 1900年頃 ファイアンスフィース、鑄込み成形、浮彫、結晶釉、ヘリオシン釉 高17.7、径9
- 41 ラスター結晶釉花器 テプリツェ=ツルノヴァニ製陶所(現チェコ共和国、テプリツェ=ツルノヴァニ) 1900年頃 ファイアンスフィース、鑄込み成形、浮彫、ラスター彩、結晶釉、ヘリオシン釉 高20、径11.8
- 42 花形飾壺 成形デザイン:ジョージ・ブレンティス・ケンドリック グルービー製陶所(アメリカ合衆国、マサチューセッツ州、ボストン) 1898-1900年 炆器、轆轤成形、浮彫、酸エッチング 高15.2、径21.7
- 43 青春と老いを象徴する飾壺 アウグスト・ヘルマン・ノイド(スウェーデン、ストックホルム) 1896年 ファイアンスフィース、浮彫、鉛釉 高12、径11.8
- 44 流し釉花器 成形デザイン:アーノルド・クロー 釉薬・図案デザイン:ヴァルデマー・エンゲルハート ロイヤル・コペンハーゲン磁器製造所(デンマーク、コペンハーゲン) 1896-1897年 磁器、色素地、流し釉 高16.2、径14
- ◆3章 アール・ヌーヴォーの精華—ジャポニズムを源流として(1)花
- 45 楓実文花器 デザイン・制作:ニルス\_エミール・ルンドシュトロム ロールストランド磁器製造所(スウェーデン、ストックホルム) 1896-1898年 陶器、バルボティーヌ(泥漿)、鉛黄釉 高20.6、径15.7
- 46 花器 デザイン・制作:アンドレアス・シュナイダー(ノルウェー、クリスチャニア[現オスロ]) 1897年頃 陶器、浮彫、色釉 高26.7 径17.5
- 47 アニス花文花器 ジョルナイ陶磁器製造所(ハンガリー、ペーチ) 1902-1904年 ポーセリンファイアンス、色釉、酸エッチング 高26.6、径12.4
- 48 宿り木文花器 絵付:ユーリア・ジョルナイ ジョルナイ陶磁器製造所(ハンガリー、ペーチ) 1900年 ポーセリンファイアンス、エオシン彩 高34.5、径16.5
- 49 芥子花文花器 ビング・オー・グレンダール磁器製造所(デンマーク、コペンハーゲン) 1898年 磁器、釉下彩、色絵 高16.6、径6.6
- 50 芥子花文花器 デザイン・制作:ニルス・エミール・ルンドシュトロム ロールストランド磁器製造所(スウェーデン、ストックホルム) 1896-1898年 磁器、釉下彩 高20.3、径10.8
- 51 スイートピー文花器 ビング・オー・グレンダール磁器製造所(デンマーク、コペンハーゲン) 1902-1914年 磁器、釉下彩 高18、径6.2
- 52 カラー文花器 ビング・オー・グレンダール磁器製造所(デンマーク、コペンハーゲン) 1902-1914年 磁器、釉下彩 高17.2、径9.6
- 53 ジャスミン文花器 ビング・オー・グレンダール磁器製造所(デンマーク、コペンハーゲン) 1914-1915年 磁器、釉下彩 高23.6、径10.8
- 54 芥子文花器 ロールストランド磁器製造所(スウェーデン、ストックホルム) 1896-1898年 磁器、釉下彩 高17.8、径9
- 55.1-5 庭の花文デザート皿 ロイヤル・コペンハーゲン磁器製造所(デンマーク、コペンハーゲン) 1906年頃 磁器、釉下彩 すべて高2.5、径19.5
- 55-1 フリージア文皿
- 55-2 水仙文皿
- 55-3 スミレ文皿
- 55-4 百合文皿
- 55-5 朝顔文皿
- 56.1-3 樹枝文デザート皿 ロイヤル・コペンハーゲン磁器製造所(デンマーク、コペンハーゲン) 1906年頃 磁器、釉下彩 すべて高2.5、径19.5
- 56-1 樺枝文皿
- 56-2 菩提樹枝文皿
- 56-3 イタリアアカサマツ枝文皿
- 57 桃葉枝文壺 ロイヤル・コペンハーゲン磁器製造所(デンマーク、コペンハーゲン) 1900-1906年 磁器、釉下彩 高14.2、径17.6
- 58 林檎枝実に蜂文壺 ロイヤル・コペンハーゲン磁器製造所(デンマーク、コペンハーゲン) 1900-1906年 磁器、釉下彩、金彩 高16.6、幅12.4、奥行9.2
- 59 朝顔文花器 ビング・オー・グレンダール磁器製造所(デンマーク、コペンハーゲン) 1903年 磁器、釉下彩 高28.5、径12.8
- 60 オモダカ文花器 デザイン:アルゴット・エリクソン ロールストランド磁器製造所(スウェーデン、ストックホルム) 1895-1897年頃 磁器、釉下彩 高21.5、径11.8
- 61 時計草文花器 ビング・オー・グレンダール磁器製造所(デンマーク、コペンハーゲン) 1906年頃 磁器、釉下彩 高17、径9.5
- 62 野蔓葡萄枝文花器 絵付:ベルタ・ナタニエルセン ロイヤル・コペンハーゲン磁器製造所(デンマーク、コペンハーゲン) 1903-1906年 磁器、釉下彩 高14.7、径8.2
- 63 葡萄文花器 エミール・ガレ(フランス、ナンシー) 1904-1906年 多層被せガラス、型吹き成形、グラヴェール、エッチング 高20.8、径6.5
- 64 野蔓葡萄枝文花器 デザイン・制作:フランソワ=テオドール・ルグラ ルグラ・ガラス工場(フランス、サン=ドニ) 1900年頃 多層被せマーブルガラス、型吹き成形、ヴィトリフィカシオン、グラヴェール、エッチング 高15、径6
- 65 苺枝文花器 デザイン・制作:フランソワ=テオドール・ルグラ ルグラ・ガラス工場(フランス、サン=ドニ) 1900年頃 多層被せマーブルガラス、型吹き成形、ヴィトリフィカシオン、グラヴェール、エッチング 高5.1、径6
- 66 蔦蔓葡萄文花器 絵付:ユーリア・ジョルナイ ジョルナイ陶磁器製造所(ハンガリー、ペーチ) 1910年頃 ポーセリンファイアンス、エオシン彩、酸エッチング、金彩 高34、径15.6
- 67 葡萄新芽文花器 ジョルナイ陶磁器製造所(ハンガリー、ペーチ) 1898-1899年 ファイアンスフィース(ポーセリンファイアンス)、平面的なレリーフ装飾、エオシン彩 高61.2、径25.5
- 68 ヘーゼルナッツ枝文花器 エミール・ガレ(フランス、ナンシー) 1906年 多層被せガラス、型吹き成形、グラヴェール、エッチング 高25、径12.3
- 69 クレマチス文銀製台付花器 エミール・ガレ(フランス、ナンシー) 1900年頃 多層被せガラス、型吹き成形、グラヴェール、エッチング、銀製台付 高20.5、径21

- 70 瓜形クレマチス花瓶 エミール・ガレ (フランス、ナンシー) 1899年 多層被せガラス、型吹き成形、グラヴェール、エッチング 高11.7、径7
- 71 オダマキ文台付花器 エミール・ガレ (フランス、ナンシー) 1898年頃 多層被せガラス、型吹き成形、マルケトリー、銀箔挟み込み、ファイアポリッシュ、ブロンズ製台 高25.5、径11
- 72 高脚杯 エミール・ガレ (フランス、ナンシー) 1900年頃 多層被せマーブルガラス、型吹き成形、着色ミルクガラス 高24.6、径6.2
- 73 洋蘭文花器 エミール・ガレ (フランス、ナンシー) 1900年頃 多層被せガラス、型吹き成形、グラヴェール、エッチング 高42、径30
- 74 イヌサフラン文高脚杯 エミール・ガレ (フランス、ナンシー) 1898-1901年 無色透明ガラス、琥珀色ガラス、型吹き成形、アプリカシオン、マルケトリー、エナメル彩、エッチング 高35.5、径15.8
- 75 水辺風景図花器 ドーム兄弟 (フランス、ナンシー) 1910年頃 多層被せガラス、型吹き成形、グラヴェール、エッチング 高30、径12.7
- 76.1.2 チューリップ文植木鉢と小植木鉢 デザイン：パール・ホルティ  
エミール・フィッセル製陶所 (ハンガリー、ブダペスト) 1900年頃 磁器、鋳込み成形、浮彫、手びねり、釉下彩
- 76-1：チューリップ文植木鉢 高16.5、径20
- 76-2：チューリップ文小植木鉢 高8、径10
- 77 しおれた芥子花文花器 デザイン・制作：アルフ・ワランダー  
ロールストランド磁器製造所 (スウェーデン、ストックホルム) 1896-1897年 磁器、浮彫、色絵 高22.2、径13.2
- 78 水草文花器 ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1903年 炆器、エンボス装飾、エオシン彩 高33.7、径16.2
- 79.1.2 レリーフ飾水差 成型デザイン：シャンドル・アパーティ・アプト  
図案デザイン：ラヨシュ・マック ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1903年 炆器、浮彫、一部酸エッチング、エオシン彩
- 79-1：高59.7、径20.2
- 79-2：高58.5、径19.8
- 80 赤花文水差形花器 デザイン：ターデー・シコロスキ (?) ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1899年 ファイアンス  
フィーヌ (ポーセリンファイアンス)、平面レリーフ、エオシン彩 高20.5、径12.8
- 81 四耳花器 ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1902-1905年 耐火炆器、無施釉素地にエオシン彩 高22.5、径12.5
- 82 赤サンゴ文花器 ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1898年 ファイアンスフィーヌ (ポーセリンファイアンス)、エオシン彩 高12.7、径8.3
- ◆3章 アール・ヌーヴォーの精華—ジャポニズムを源流として (2) 表面の輝き
- 83.1.2 植物文容器 (化粧セットの一部) ルイス・カンフォート・ティファニー (アメリカ合衆国、ニューヨーク) 1913年頃 ファブリルガラス、型吹き成形、熔融緑色ガラスペースト
- 83-1：高6.6、径8.6
- 83-2：高6.4、径8.6
- 84 植物文栓付香水瓶 (化粧セットの一部) ルイス・カンフォート・ティファニー (アメリカ合衆国、ニューヨーク) 1913年頃 ファブリルガラス、型吹き成形、熔融緑色ガラスペースト 高10.5、径8
- 85 植物文花器 ルイス・カンフォート・ティファニー (アメリカ合衆国、ニューヨーク) 1913年頃 ガラス、型吹き成形、ミルフィオリ、ラス

- ター彩 高6.5、径5.3
- 86 花器 ルイス・カンフォート・ティファニー (アメリカ合衆国、ニューヨーク) 1913年頃 ファブリルガラス、型吹き成形、ラスタースター彩 高6.8、径5.4
- 87 花文瓢形花器 ルイス・カンフォート・ティファニー (アメリカ合衆国、ニューヨーク) 1913年頃 ファブリルガラス、型吹き成形、熔融彩色ガラスペースト 高26、径14.5
- 88 瓢形花器 ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1900年頃 ポーセリンファイアンス、ラスタースター彩 高10.2、径6.9
- 89.1.2 浮彫装飾容器 ルイス・カンフォート・ティファニー (アメリカ合衆国、ニューヨーク) 1913年頃 ファブリルガラス、型吹き自由成形、アップリケ、真珠貝の光沢を持つラスタースター彩
- 89-1：高5.4、径3.4
- 89-2：高5.6、径3.3
- 90 浮彫装飾容器 ルイス・カンフォート・ティファニー (アメリカ合衆国、ニューヨーク) 1913年頃 ファブリルガラス、型吹き自由成形、真珠貝の光沢を持つラスタースター彩 高4.8、径4
- 91 葉文飾容器 ルイス・カンフォート・ティファニー (アメリカ合衆国、ニューヨーク) 1900年頃 ファブリルガラス、型吹き成形、ラスタースター彩 高11.3、径8.8
- 92 変色ラスタースター彩飾瓶 ルイス・カンフォート・ティファニー (アメリカ合衆国、ニューヨーク) 1896-1913年 ファブリルガラス、型吹き成形、ラスタースター彩 高36.2、径19.2
- 93 蓋付飾壺 ガリレオ・キーニ キーニ社 (イタリア、フィレンツェ、フォルナーチ・サン・ロレンツォ、ムゲロ) 1910年頃 ファイアンスフィーヌ、色絵、ラスタースター彩 高12.3、径8.8

◆3章 アール・ヌーヴォーの精華—ジャポニズムを源流として (3) 伝統的な装飾モチーフ

- 94.1.2 花瓶 成型デザイン：シャンドル・アパーティ=アプト ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1903年 ポーセリンファイアンス、浮彫、エオシン彩
- 94-1：日本趣味文様花器 高37、径12
- 94-2：ハンガリー民芸文様花器 高35.6、径10.6
- 95 花煙帯文花器 ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1898年 ポーセリンファイアンス、エオシン彩 高7.3、径5.8
- 96 天空風景文花器 ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1898年 ポーセリンファイアンス、エオシン彩 高11.1、径6.5
- 97 マーガレット花煙帯文花器 ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1898年 ポーセリンファイアンス、エオシン彩 高15.3、径5.4
- 98 洋梨形蓋付容器 ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1900年頃 ポーセリンファイアンス、エオシン彩 高9.4、径7.8
- 99 花蔓日本趣味文花器 ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1890年頃 ポーセリンファイアンス、エオシン彩 高12.6、径4.9
- 100 風景図花器 ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1899-1900年 ポーセリンファイアンス、エオシン彩 高9.4、径5.9
- 101 六花葉文花器 ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1896年頃 ポーセリンファイアンス、エオシン彩 高6.9、径7.6
- 102 六花葉文水注 ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1896-1898年 ポーセリンファイアンス、エオシン彩 高7.5、径8.3
- 103 六花葉文小鉢 ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1900年頃 ポーセリンファイアンス、エオシン彩 高4.4、径7.5
- 104 六花蔓文小花器 ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1900年頃 ポーセリンファイアンス、エオシン彩 高7.7、径6.2
- 105.1-4 ステッキ握りと傘柄 ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、

- ペーチ) 1900年頃 ポーセリンファイアンス、エオシン彩  
 105-1: マーブル加工ステッキ握り 高 1.9、長 6.8  
 105-2: 黄黒色文ステッキ握り 高 1.9、長 6.8  
 105-3: 白色輪郭線文傘柄 高 6.3、幅 2.1  
 105-4: 無輪郭線文様傘柄 高 6.3、幅 2.1  
 106 菊花に蝶文飾壺 ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ)  
 1896年頃 ポーセリンファイアンス、エオシン彩 高 26.3、径 12.6  
 107 黄色のヤグルマギク文花器 ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1900年頃 ポーセリンファイアンス、エオシン彩 高 29.2、径 14.4  
 108 薄墨色ヤグルマギク文花器 ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1896年頃 ポーセリンファイアンス、エオシン彩 高 20.6、径 16  
 109 ヤグルマギク文植木鉢 ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1900年頃 ポーセリンファイアンス、エオシン彩 高 10.4、径 15.5  
 110 ヤグルマギク文花器 ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1900年頃 ポーセリンファイアンス、エオシン彩 高 17.7、径 5.6

#### ◆3章 アール・ヌーヴォーの精華—ジャポニズムを源流として(4) 鳥と動物

- 111 昆虫文花器 エミール・ガレ (フランス、ナンシー) 1889年以前 多層被せガラス、型吹き成形、グラヴェール、エッチング 高 16、径 15  
 112 蜻蛉文花器 エミール・ガレ (フランス、ナンシー) 1890年頃 二層被せ色ガラス、型吹き成形、グラヴェール、エッチング 高 28、径 14.5  
 113.1,2 鍬形虫飾付き書斎机用セット アンリ・ベルジェ、アルマリク・ワルター (フランス、ナンシー) 1910年代 ガラス、パート・ド・ヴェール  
 113-1: ペン置き 高 4.1、長 23.1  
 113-2: 文鎮 高 4.5、長 8.3、幅 5.8  
 114 水中世界に魚図植木鉢 ロイヤル・コペンハーゲン磁器製造所 (デンマーク、コペンハーゲン) 1900年頃 磁器、釉下彩 高 16.7、径 21.3  
 115 水中世界に魚図花瓶 ロイヤル・コペンハーゲン磁器製造所 (デンマーク、コペンハーゲン) 1905年頃 磁器、釉下彩 高 11.1、径 6.6  
 116 水中世界に魚図花瓶 ロイヤル・コペンハーゲン磁器製造所 (デンマーク、コペンハーゲン) 1905年頃 磁器、釉下彩 高 14、径 8.4  
 117 水草の間を泳ぐ魚図花器 ハーマン・アウグスト・ケーラー (デンマーク、ネストベズ) 1895-1898年 グレ (炆器)、ラスター彩 高 23.5、径 14.7  
 118 水草の間を泳ぐ魚図花器 成形デザイン: グンナー・ナイルンド  
 ロールストランド磁器製造所 (スウェーデン、リドシェーピング)  
 1930年代 炆器、酸エッチング、金彩 高 9.3、径 9.6  
 119 赤釉魚文花器 ビルキントン・タイル製陶所 (イギリス、マンチェスター近郊クリフトン・ジャンクション) 1905年頃 ファイアンスフィアヌ、ラスター彩 高 9.3、径 8.3  
 120 巻貝と水草の台付き魚置物 ビング・オー・グレンダール磁器製造所 (デンマーク、コペンハーゲン) 1899-1902年 磁器、釉下彩、色絵 高 11.6、幅 26.7、奥行 11.5  
 121.1,2 セラドン釉皿 ミントン社 (イギリス、スタッフォードシャー、ストーク=オン=トレント) 1878年 ファイアンスフィアヌ、転写絵、色絵、セラドン釉  
 121-1: 睡蓮に蜥蜴と貝図皿 高 2.9、径 25.8

- 121-2: 蛙図皿 高 3、径 25.6  
 122 桃に蜥蜴浮彫寶石箱 ガリレオ・キーニ キーニ社 (イタリア、フィレンツェ、フォルナーチ・サン・ロレンツォ、ムゲロ) 1903-1905年 ファイアンスフィアヌ、浮彫、色絵、ラスター彩、覆輪付き 高 7.3、幅 9.4、奥行 6.8  
 123 蛙浮彫水注 テブリツェ=ツルノヴァニ製陶所 (現チェコ共和国、テブリツェ=ツルノヴァニ) 1900年頃 ファイアンスフィアヌ、浮彫、ラスター彩 高 12.6、径 12.3  
 124 孔雀文花器 ルイス・カンフォート・ティファニー (アメリカ合衆国、ニューヨーク) 1898年以前 ファブリルガラス、型吹き成形、マルケトリー、虹彩、アヴェンチュリン彩 高 28、径 14.5  
 125 孔雀図ティーカップ 成型デザイン: J. コリアン・コーク 図案デザイン: サムエル・シェリンク ローゼンブルフ・ロイヤルポーセリン陶磁器工場 (オランダ、ハーグ) 1907年頃 卵殻手、転写絵、色絵 高 6.3、径 9.1  
 126 装飾皿 デザイン・制作: ガリレオ・キーニ キーニ社 (イタリア、フィレンツェ、フォルナーチ・サン・ロレンツォ、ムゲロ) 1910年頃 ファイアンス、轆轤成形、色絵、ラスター彩  
 126-1: 孔雀図飾皿 高 7.8、径 29  
 126-2: 雄鶏図飾皿 高 7.3、径 28.3  
 127 セイヨウカリンの枝に止まる異国の鳥図花器 ゲーザ・ニケルスキー ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1903年 ポーセリンファイアンス、レリーフ、エオシン彩 高 32.8、径 16.8  
 128 野鴨浮彫花器 ハーマン・アウグスト・ケーラー (デンマーク、ネストベズ) 1897年頃 炆器、ラスター彩 高 19.2、径 14.2  
 129 ツグミ デザイン: アルマリク・ワルター (フランス、ナンシー) 1910年代末 ガラス、パート・ド・ヴェール 高 10.2、長 9.4、幅 6.7  
 130 鷹 デザイン: ミハーイ・カパーシュ・ナジ ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1912年 磁器、高火度釉 高 44.2、幅 23.8、奥行 24.6  
 131 アフリカハゲコウ図花器 デザイン: アルトゥール・ラカトシュ エミル・フィッセル製陶所 (ハンガリー、ブダペスト) 1905年頃 ファイアンスフィアヌ、浮彫、透かし彫り、釉下彩、色絵、金彩 高 47.3、径 24.6  
 132 オウムとインコ文花器 シャーンドル・ヒダシ・ピッロー ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1911年 ポーセリンファイアンス、レリーフ、銅紅 (牛血紅) 釉、色絵 高 44.3、径 14  
 133 ヨークシャー豚像 ロイヤルドルトン社 (イギリス、ロンドン、ランベス/スタッフォードシャー、バースレム) 1905年頃 ファイアンスフィアヌ、鑄込み成形、フランベ釉 高 8.8、長 18.2、幅 10.9  
 134 スコッチテリア像 チャールズ・ジョン・ノーク ロイヤルドルトン社 (イギリス、ロンドン、ランベス/スタッフォードシャー、バースレム) 1904-1910年 ファイアンスフィアヌ、鑄込み成形、フランベ釉 高 9.7、長 17.8、幅 5.3  
 135 豹彫像付名刺皿 デザイン: ラヨシュ・マック ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1911年 ポーセリンファイアンス、色絵 高 23.7、長 38.7、幅 23.5  
 136 狩りをする雌ライオン像 シャーンドル・アパーティ・アプト ジョルナイ陶磁器製造所 (ハンガリー、ペーチ) 1908年 ピログラニット (焼成花崗岩)、型押し、鑄込み成形、エオシン彩、酸エッチング 高 35.5、長 61.5、幅 28.5

#### ◆4章 建築の中の装飾陶板—1900年パリ万博のビゴ・パビリオン

- 137 牡牛図フリーズ装飾陶板 (ビゴ・パビリオンの一部) デザイン: ポール・ジュヴー ビゴ社 (フランス、ロワール=エ=シェール県、メール) 1898-1900年 グレ (炆器)、型押し成形、浮彫、施釉 縦 50、



横106、厚11.5

138 リボン図フリーズタイル(ビゴ・パピリオンの一部) デザイン: アンリ・ヴァン・デ・ヴェルデ ビゴ社(フランス、ロワール=エ=シェール県、メール) 1898-1900年 グレ(炆器)、型押し成形、浮彫、施釉 縦13.5、横13.5 厚2(各パネルにつき) 全8枚

139 自転車に乗る人物図フリーズタイル(ビゴ・パピリオンの一部) デザイン:ピエール・ロシュ ビゴ社(フランス、ロワール=エ=シェール県、メール) 1898-1900年 グレ(炆器)、型押し成形、浮彫、施釉 縦19.5、横24、厚4.4(各パネルにつき) 全3枚

140 渦の中を泳ぐ女性図フリーズ装飾陶板(ビゴ・パピリオンの一部) デザイン:ピエール・ロシュ ビゴ社(フランス、ロワール=エ=シェール県、メール) 1898-1900年 グレ(炆器)、型押し成形、浮彫、施釉 縦23.5、横69.5、厚8.9

141 水中図フリーズタイル(ビゴ・パピリオンの一部) デザイン:G.ニコレ ビゴ社(フランス、ロワール=エ=シェール県、メール) 1898-1900年 グレ(炆器)、型押し成形、浮彫、施釉 縦19.4、横24、厚3.5(各パネル) 全4枚

142 蛙図フリーズタイル(ビゴ・パピリオンの一部) デザイン:アルフレッド=ジャン・アルー ビゴ社(フランス、ロワール=エ=シェール県、メール) 1898-1900年 グレ(炆器)、型押し成形、浮彫、施釉 縦17、横22、厚3.4(各パネルにつき) 全3枚

143 「鬼ごっこ」図フリーズタイル(ビゴ・パピリオンの一部) デザイン:ピエール・ロシュ ビゴ社(フランス、ロワール=エ=シェール県、メール) 1898-1900年 グレ(炆器)、型押し成形、浮彫、施釉 縦10.8、横18.5、厚2.3(各パネルにつき) 全4枚

144 草花図壁面カバー装飾陶板(ビゴ・パピリオンの一部) ビゴ社(フランス、ロワール=エ=シェール県、メール) 1898-1900年 グレ(炆器)、型押し成形、浮彫、施釉 縦80、横49.5、厚8(各パネルにつき) 全2枚

145 蔓葉図台座フリーズタイル(ビゴ・パピリオンの一部) ビゴ社(フランス、ロワール=エ=シェール県、メール) 1898年-1900年 グレ(炆器)、型押し成形、浮彫、施釉 縦20、横24.5、厚2.8(各パネルにつき) 全5枚

146 蔓花図フリーズタイル-建築用陶器 デザイン:ヤーノシュ・バッハ ジョルナイ陶磁器製造所(ハンガリー、ペーチ) 1911年 ピログラニット(焼成花崗岩)、型押し成形、浮彫、色釉 縦25、横41、厚5.6(各パネルにつき) 全2枚

#### ◆5章 ユーゲントシュティール-もうひとつのアル・ヌーヴォー

147 樹文花器(一対) ビレロイ&ボッホ製陶所(ドイツ、メトラッハ/ドレスデン) 1903年 炆器(グレ・クロモリット)、鑄込み成形、レリーフ、艶消し着色 高34.2、幅33.6、径18.3

148.1-3 オルガ・ブラウエ食器セット デザイン:ヨーゼフ・マリア・オルブリッヒ ビレロイ&ボッホ製陶所(ドイツ、メトラッハ/ドレスデン) 1906年頃 ファイアンスフィーヌ、レリーフ、染付

148-1:ソース鉢 高14、径19.6

148-2,3:平皿 高2.6、径24.3

149 植物文花器 ベルリン王立磁器製作所(ドイツ、ベルリン) 1910年頃 磁器、半透明色絵エナメル彩、金彩 高15.3、径8.8

150 エナメル彩花器 ベルリン王立磁器製作所(ドイツ、ベルリン) 1910年頃 磁器、色絵エナメル彩、金彩 高11.2、径6.1

151 花束文鉢 ベルリン王立磁器製作所(ドイツ、ベルリン) 1900-1905年 磁器、半透明エナメル彩、金彩 高5.5、径7.5

152 四つ葉クローバー文花器 ベルリン王立磁器製作所(ドイツ、ベルリン) 1900-1905年 磁器、半透明色絵エナメル彩、金彩 高13.5、径8

153 インク壺 ベルリン王立磁器製作所(ドイツ、ベルリン) 1913年 磁器、釉下彩 高5.3、径14.8

154 蓋付飾壺 デザイン:ジョルジュ・ド・フル(フランス、パリ) 1900年 磁器、釉下彩 高12.3、径8.3

155 高台付鉢 デザイン:カミュー・ノド カミュー・ノド社(フランス、パリ) 1899年頃 軟質磁器、透かし彫り、エナメル彩、金彩 高3、径10.3

156.1-4 洋蘭文ティーセット ウッツシュナイダー社(フランス、サルグミーヌ) 1910年頃 ファイアンスフィーヌ、浮彫、転写、色絵、金彩

156-1:蓋付ティーポット 高18.5、径21.7

156-2:蓋付砂糖壺 高13.8、径13.8

156-3:生クリーム入れ 高9、径10.7

156-4:ティーカップ、受け皿(4脚) 高6.3、径10.3(カップ) 高1.8、径14.3(受け皿)

157.1-3 ネックレス デザイン:シャンドル・アパーティ・アプト ジョルナイ陶磁器製造所(ハンガリー、ペーチ) 1902年 ポーセリンファイアンス、セラドン釉、エオシム彩(裏面)、レリーフ、金彩

157-1:平板ビーズ(3ピース) 高2、幅1.5(うち2個) 高1.8、幅1.2(うち1個)

157-2:ペンダントトップ 高3.3、幅2.8

157-3:ビーズ(2ピース) 径0.5

#### ◆6章 アル・デコとジャポニスム

158 ナーイアス図飾皿 ルネ・ラルリック(フランス、ヴィンゲン=シュール=モデル) 1920年頃 オパールセントガラス、型押し成形、浮彫 高5.8、径36.5

159 網にかかった魚文鉢 エドワード・ハルド オレフォスガラス工場(スウェーデン、スモーランド地方、オレフォス) 1924年 型吹きガラス、二層色被せ 高12.5、径18.2

160 ガラス水差 ドーム兄弟(フランス、ナンシー) 1910年頃 ガラス、型吹き成形、ヴィトリフィカシオン、アプリケーション、エッチング 高19、径11.7

161 蝶文鉢 ガブリエル・アルジー=ルソー(フランス、パリ)

1915年頃 パート・ド・ヴェール 高7.8、径11.7

162 フローティングペイント鉢 ドーム兄弟(フランス、ナンシー) 1925-1930年 ガラス、型吹き成形、フローティングペイント、ヴィトリフィカシオン 高6.4、径10.9

163 多層間金箔封入小鉢 ドーム兄弟(フランス、ナンシー) 1925-1930年 二層被せガラス、アンテルカレル(装飾挟み込み)、金箔挟み込み 高6.5、径10.8

164 金箔付花瓶 ドーム兄弟(フランス、ナンシー) 1925-1930年 吹きガラス、やや気泡の入った青みがかったオパリン多層ガラス、アンテルカレル(装飾挟み込み)、金箔挟み込み 高12.1、径6.5

165 花枝文花瓶 ジョセフ・エクベル グスタフスベリ社(スウェーデン、グスタフスベリ) 1913年 ファイアンスフィーヌ、鑄込み成形、レリーフ、艶消し色釉 高34.7、径18

## (2) もうひとつの江戸絵画 大津絵展



A4 チラシ

会期：令和2年5月19日(日)～6月28日(日) 開催日数36日  
 分野：江戸絵画  
 展示数：148点  
 観覧料：一般・大学生1,000(800)円、高校生500(400)円、小・中学生300(200)円 \* ( )内は前売料金または20名以上の団体料金  
 観覧者数：1,967名  
 担当：堀 宜雄、増淵鏡子

主催：福島県立美術館  
 共催：福島民報社、テレビユー福島  
 企画協力：公益財団法人日動美術財団  
 特別協力：公益財団法人日本民藝館

## 関連事業：

・特別対談「大津絵を愛した人たち ～富岡鉄斎から柳宗悦へ～」  
 →中止

講師：山下裕二氏（美術史家・明治学院大学教授）、  
 尾久彰氏（古美術研究者・日本民藝館前学芸部長）

日時：5月23日(日) 14:00～15:30 美術館講堂

・ゲストトーク「画家が収集した大津絵の魅力」→中止

講師：森谷美保氏（美術史家・本展監修者）

日時：6月13日(日) 14:00～15:30 企画展示室

・ギャラリー対談「山内神斧と吾八の時代」

→YouTubeでの動画配信に変更

講師：軸原ヨウスケ氏（アウトオブ民藝研究者）、  
 堀 宜雄（専門学芸員）

日時：5月31日(日) 14:00～15:30 企画展示室

・ギャラリートーク →YouTubeでの動画配信に変更

講師：堀 宜雄（専門学芸員）

日時：①5月24日(日) ②6月19日(金)

各14:00～15:00 企画展示室

・関連イベント「勝手に！大津絵ふきだしグランプリ！」

概要：エントランスホールの一 corner で、セレクトされた作品イメージにふきだしをつけて楽しむ企画。優秀なふきだしには「ナイス！」シールも。たくさんの「ナイス！」を獲得したグランプリの他、館長賞、担当学芸員賞、監視員賞を選出し、当館ブログ

で結果を公表した。

・関連ワークショップ「大津絵、描いちゃう？」→中止  
 講師：軸原ヨウスケ氏（デザイナー、アウトオブ民藝研究者）  
 日時：5月30日(日) 10:00～16:00 美術館実習室

・関連展示「山内神斧と吾八の時代」

会期：5月19日(日)～6月28日(日)

分野：近代日本画、資料

展示数：58点（作品・資料をあわせて）

概要：山内神斧（1886-1966）は大阪生まれの日本画家、玩具愛好家。大正時代に福島県会津地方に滞在して制作を行い、画会を催している。このため、喜多方をはじめ会津地方には彼の日本画作品がのこされている。大津絵展を機会に、山内神斧の画業とその後の小美術店「吾八」での活動や、主婦之友時代の仕事など、多方面にわたる活動を紹介した。

## 概要：

江戸時代、東海道を行きかう旅人相手に「おみやげ品」として売り出されたものが「大津絵」である。大津の逢坂峠から追分宿あたりで売られ、はじめは現世利益の仏画などだったが、次第に「藤娘」や「鬼念仏」といった世俗的な画題に人気が集まり、明治維新とともに街道みやげの役割を終えたといわれている。ところが、チープで単純素朴な絵に心奪われた人々が、明治以降ひそかにコレクションに加え、大津絵は美術品として注目されるようになる。コレクターは明治末の浅井忠、富岡鉄斎にはじまり、大正期の山内神斧、柳宗悦、そして戦後の小糸源太郎など。この展覧会は、そんな大津絵に魅せられたコレクター群像をひもときながら、日本民藝館をはじめとする名品約140点を味わう、美術館初の試みであった。

コロナ禍で開催そのものが危ぶまれたが、当館（5/19-6/28）、巡回先の東京ステーションギャラリー（9/19-11/8）の二会場とも、休館なく開催できた。ちょうど第1波～3波の谷間になったためである。密を避けるため積極的な広報はとれなかったが、それでも楽しみに来館した観客が多かったことは特筆される。また、当館独自の試みとして、大津絵コレクターとして知られた山内神斧の特集展示「山内神斧と吾八の時代」を併催し、こちらも識者の注目を集めた。



展示風景



「山内神斧と吾八の時代」展示風景

出品リスト：

[番号 / 画題 / 員数 / 寸法 (縦×横cm) / 来歴 / 所蔵 / 備考]

◆第1章 ～受容の萌芽～ 秘蔵された大津絵

- I -1 瓢箪鯉 一幅 62.8 × 21.7 富岡鉄斎⇒柳宗悦 日本民藝館 鉄斎筆、軸書「鐵斎清玩」。柳筆、箱表書「瓢箪鯉」、軸書「大津絵／瓢箪鯉／宗悦清玩／表装 宗悦案／青華軸 憲古作」。
- I -2 大黒 一面 31.7 × 22.7 富岡鉄斎⇒小糸源太郎 笠間日動美術館 『古筆大津絵』収録。
- I -3 恵比寿 一面 31.7 × 22.7 富岡鉄斎⇒小糸源太郎 笠間日動美術館 『古筆大津絵』収録。
- I -4 雷と太鼓 一面 31.7 × 22.7 富岡鉄斎⇒小糸源太郎 笠間日動美術館 『古筆大津絵』収録。
- I -5 鬼の行水 一面 31.7 × 22.7 富岡鉄斎⇒小糸源太郎 笠間日動美術館 『古筆大津絵』収録。
- I -6 鬼の三味線 一面 31.7 × 22.7 富岡鉄斎⇒小糸源太郎 笠間日動美術館 『古筆大津絵』収録。
- I -7 五人男 (雁金文七) 一面 31.7 × 22.7 富岡鉄斎⇒小糸源太郎 笠間日動美術館 『古筆大津絵』収録。
- I -8 煙草のむ女 一面 31.7 × 22.7 富岡鉄斎⇒小糸源太郎 笠間日動美術館 『古筆大津絵』収録。
- I -9 提灯釣鐘 一面 31.7 × 22.7 富岡鉄斎⇒小糸源太郎 笠間日動美術館 『古筆大津絵』収録。
- I -10 瓢箪駒 一面 31.7 × 22.7 富岡鉄斎⇒小糸源太郎 笠間日動美術館 『古筆大津絵』収録。
- I -11 酒吞猫 一面 31.7 × 22.7 富岡鉄斎⇒小糸源太郎 笠間日動美術館 『古筆大津絵』収録。
- I -12 梅に鶯 一面 31.7 × 22.7 富岡鉄斎⇒小糸源太郎 笠間日動美術館 『古筆大津絵』収録。
- I -13 鶏 一面 31.7 × 22.7 富岡鉄斎⇒小糸源太郎 笠間日動美術館 『古筆大津絵』収録。
- I -14 藤娘 一面 31.7 × 22.7 富岡鉄斎⇒小糸源太郎 笠間日動美術館 『古筆大津絵』収録。
- I -15 提灯釣鐘 一幅 50.3 × 20.3 浅井忠⇒柳宗悦 日本民藝館 柳筆、箱表書「提灯釣鐘」、軸書「浅井 忠旧蔵／大津絵／灯提〔ママ〕釣鐘／表具 宗悦案／瑠璃軸 リーチ作」。
- I -16 太夫 一幅 58.0 × 22.2 (浅井忠)⇒中井浩水⇒山内金三郎⇒芹沢銈介 静岡市立芹沢銈介美術館 『大津絵集』(1912、中井浩水蔵)。『大津絵撰集』(1926、山内金三郎蔵)。『民芸手帖』(1960.3)、山内「私の愛蔵している懐月堂風の美人を描いた大津絵も、(浅井忠)先生の旧蔵であった」により浅井忠旧蔵と推定。
- I -17 鬼の行水 一幅 66.2 × 23.3 浅井忠⇒澤部清五郎 星野画廊 軸書「浅井黙語先生旧蔵／大津絵 雷」。
- I -18 不動尊 一幅 71.5 × 34.9 黒川真頼⇒柳宗悦 日本民藝館 柳筆、箱表書「大津絵 不動尊」、蓋裏「柳宗悦 民藝館ノ為ニ之ヲ求ム 黒川真頼舊蔵」。
- I -19 塔 一幅 60.5 × 22.8 渡辺霞亭⇒柳宗悦 日本民藝館 柳筆、箱表書「大津絵 塔」、裏書「表具 宗悦案」、軸書「大津絵／塔」「霞亭舊蔵」「表具宗悦案」。
- I -20 五人男 (雁金文七) 一幅 46.5 × 21.3 渡辺霞亭⇒山村耕花⇒米浪庄式 日本民藝館『山村 耕花 売 目 録』(1940)。箱裏、朱文角印「霞亭珍玩」、朱文丸印「山村」。
- I -21 鬼の行水 一幅 63.2 × 22.6 渡辺霞亭⇒山村耕花⇒大原孫三郎⇒大原總一郎⇒柳宗悦 日本民藝館『蒐集物語』(柳

宗悦、1956)「鬼の行水」。柳筆、箱表書「大津絵 鬼の行水」、墨書「大津絵 鬼の行水/表装 宗悦案/陶軸 寛次郎作」。

I -22 文読む女 一幅 63.3×23.2 渡辺霞亭⇒米浪庄式 日本民藝館『大津絵撰集』(1926、渡辺霞亭蔵)。三越呉服店新美術部による札「大津画/美人図」「大阪/渡邊露亭氏御所蔵」付属。

I -23 傘さす女 一幅 32.1×22.8 渡辺霞亭⇒山口吉郎兵衛⇒山内金三郎⇒芹沢銈介 静岡市立芹沢銈介美術館『大津絵撰集』(1926、渡辺霞亭蔵)。山内筆、箱表書「大津絵 若衆」、裏書「霞亭文庫/旧蔵山口吉郎兵衛氏/より藪本を通じて入手」、朱印「霞亭文庫」、朱印「山内口蔵」。

I -24 狐と馬 一幅 61.1×22.8 水落露石⇒米浪庄式 日本民藝館『大津絵集』(1912、水落露石蔵)。

I -25 外法梯子剃一幅 63.3×24.0 水落露石⇒米浪庄式 日本民藝館『大津絵集』(1912、水落露石蔵)。

I -26 阿弥陀三尊来迎 一面 88.3×38.7 林若樹⇒三浦直介⇒米浪庄式 日本民藝館『日本美術工芸』(1946.2、林若樹蔵)。『古大津絵集 五月庵蔵』(1935、三浦直介蔵)。

I -27 外法梯子剃一幅 57.8×21.7 林若樹⇒柳宗悦 日本民藝館軸書「大津繪外方」、朱文長方印「若樹文庫」。

I -28 槍持奴 一幅 60.4×21.8 (浅井忠)⇒岡本月村⇒山内金三郎⇒三浦直介⇒(三宅忠一)⇒米浪庄式 日本民藝館『大津絵集』(1912、岡本月村蔵)。

『壽々』(1925.12)、山内は岡本月村旧蔵の全大津絵を入手と記述。『これくしょん』(1968.10)、米浪が山内から三浦へ渡った経緯を記述。『民芸手帖』(1960.3)、山内「工芸館に所蔵されている。又兵衛風の奴の槍持も浅井忠の旧蔵であったものが廻り廻ったのではないか」により浅井忠旧蔵と推定。

I -29 傘さす女 一幅 60.3×22.5 鹿田静七⇒中井浩水⇒米浪庄式 日本民藝館『大津絵集』(1912、鹿田静七蔵)。箱表書「大津繪 傘美人」、裏書「画趣 春雨に長き裳をいそぐべし」「浩水」。

I -30 相撲 一幅 55.1×22.6 中井浩水⇒山口吉郎兵衛⇒米浪庄式 日本民藝館『大津絵集』(1912、中井浩水蔵)。『美術・工芸』(1942. 4、山口吉郎兵衛蔵)。

#### ◆第II章 ～ブーム到来～ 画家たちの大津絵コレクション

II -1 鬼の念仏 一面 60.2×22.0 山内金三郎⇒小糸源太郎 笠間日動美術館 『これくしょん吾八版』通巻72号大津絵小展(1960年)「吾八で永年集めていた大津絵」として掲載。

II -2 鷹匠 一幅 53.5×22.2 (山内金三郎)⇒米浪庄式 日本民藝館『日本美術工芸』(1946.2)で山内が所蔵者名を表記せずに紹介。

II -3 頼光 一幅 63.9×23.9 (山内金三郎)⇒米浪庄式 日本民藝館『日本美術工芸』(1946.2)で山内が所蔵者名を表記せずに紹介。

II -4 為朝 一幅 64.0×24.0 山内金三郎⇒米浪庄式 日本民藝館山内筆、箱表書「大津絵 為朝」、裏書「昭和二十四年五月 神斧」。

II -5 鍾馗 一幅 62.6×23.2 (山内金三郎)⇒米浪庄式 日本民藝館『茶わん』(1949.5)で山内が所蔵者名を表記せずに紹介。

II -6 槍持奴 一幅 63.7×24.1 北野恒富 個人(大津市歴史博物館寄託) 箱表書「奴」、蓋裏「恒富観?」。

II -8 鬼の念仏 一幅 58.2×22.4 山村耕花 大津市歴史博物館 『大津絵撰集』(1926、山村耕花蔵)。

II -9 槍持奴 一幅 60.2×22.4 山村耕花⇒小糸源太郎 笠間日動美術館 箱側面「風俗画/初期大津絵/鎗持奴」朱書「山村耕花氏遺愛品/浮世絵」No.783。

II -10 大黒 一幅 63.3×24.0 山村耕花⇒米浪庄式 日本民藝館『大津絵撰集』(1926、山村耕花蔵)。

II -11 塔 一幅 61.5×24.5 山村耕花 個人 『大津絵撰集』(1926、山村耕花蔵)。

II -12 女虚無僧 一幅 48.8×21.4 山村耕花⇒米浪庄式 日本民藝館『山村耕花売立目録』(1940)。

II -13 文読む女 一幅 59.5×22.8 山村耕花⇒柳宗悦 日本民藝館柳筆、箱蓋表「大津絵 文読む女」、箱裏「山村耕花舊蔵/昭和七年五月/為民藝館入手/改装/宗悦」、軸書「大津絵/文読む女/装 宗悦」。

II -14 座頭 一幅 65.8×23.3 山村耕花⇒米浪庄式 日本民藝館『山村耕花売立目録』(1940)。

II -15 鶏 一幅 32.2×22.2 山村耕花⇒柳宗悦 日本民藝館『山村耕花売立目録』(1940)。

II -16 神馬 一幅 22.8×31.7 長野草風⇒米浪庄式 日本民藝館『デッサン』(1926.10、長野草風蔵)。

II -17 牛 一紙 31.8×23.0 長野草風 個人?クリストフ・マルケ(パリ展では個人)『デッサン』(1926.10、長野草風蔵)。

II -18 鹿と狩人 一幅 31.7×23.2 長野草風⇒米浪庄式 日本民藝館『デッサン』(1926.10、長野草風蔵)。

II -19 春駒 一面 21.2×15.3 田村春暁⇒吉川観方 福岡市博物館 『大津絵撰集』(1926、田村春暁蔵)収録。福岡市博物館『平成7年度収集 所蔵品目録13』「旧吉川観方コレクション」(1998)収録。

II -20 鷹 一面 21.0×15.4 田村春暁⇒吉川観方 福岡市博物館 『大津絵撰集』(1926、田村春暁蔵)。福岡市博物館『平成7年度収集 所蔵品目録13』「旧吉川観方コレクション」(1998)。

II -21 鷲 一面 21.2×15.3 田村春暁⇒吉川観方 福岡市博物館 『大津絵撰集』(1926、田村春暁蔵)。福岡市博物館『平成7年度収集 所蔵品目録13』「旧吉川観方コレクション」(1998)。

II -22 傘さす女 一面 64.0×21.2 梅原龍三郎⇒(益田孝)⇒益田義信⇒小糸源太郎 笠間日動美術館 『初期肉筆浮世絵』(1926、梅原龍三郎蔵)。『工藝』(1951.1)「大津絵展観目録」に「傘さす女 益田義信氏蔵」。

II -23 長刀弁慶 一面 65.0×23.0 梅原龍三郎 個人 『美術フォーラム21』(2017)嶋田華子「梅原龍三郎と大津絵コレクション 一素朴美を求めて」。

II -24 女虚無僧 一面 梅原龍三郎 個人 『美術フォーラム21』(2017)嶋田華子「梅原龍三郎と大津絵コレクション 一素朴美を求めて」。

II -25 酒呑奴 一面 梅原龍三郎 個人 『美術フォーラム21』(2017)嶋田華子「梅原龍三郎と大津絵コレクション 一素朴美を求めて」。

II -26 鬼の念仏 一面 73.5×22.0 三浦直介⇒梅原龍三郎 個人 『古大津絵集 五月庵蔵』(1935、三浦直介蔵)。『美術フォーラム21』(2017)嶋田華子「梅原龍三郎と大津絵コレクション 一素朴美を求めて」。

- II-27 女虚無僧 一幅 59.6×21.7 三浦直介⇒柳宗悦 日本民藝館『浮世絵新聞』(1929.12、三浦直介蔵)。柳筆、箱表書「女虚無僧」、軸書「大津繪 女虚無僧/表具 宗悦案/陶軸 寛次郎作」。
- II-28 座頭 一幅 52.0×19.8 三浦直介⇒大阪某氏⇒池田金太郎⇒大原総一郎⇒柳宗悦 日本民藝館『三浦直介愛蔵 時代人形屏風大津絵展観図録』(1937)。『柳宗悦選集 第十卷 大津絵』(1955)「挿絵小註」に「池田金太郎旧蔵」。『工藝』(1943.12)「寄附報告」に「大原総一郎寄附」。柳筆、軸書「大津繪 座頭/表装 宗悦案/陶軸 寛次郎作」。
- II-29 奴の行水 一幅 57.4×23.1 三浦直介⇒米浪庄式 日本民藝館『古大津絵集 五月庵蔵』(1935、三浦直介蔵)。
- II-30 表紙大津絵画帖二冊 各33.7×23.5 三浦直介⇒山内金三郎⇒米浪庄式 日本民藝館『壽々』(1925.12)に山内が来歴を記述。
- II-31 鬼の念仏 一面 50.8×21.3 吉川観方 福岡市博物館福岡市博物館『平成7年度収集 所蔵品目録13』「旧吉川観方コレクション」(1998)。
- II-32 傘さす女 一面 52.5×19.4 吉川観方 福岡市博物館福岡市博物館『平成7年度収集 所蔵品目録13』「旧吉川観方コレクション」(1998)。
- II-33 釣鐘弁慶 一面 60.2×24.0 吉川観方 福岡市博物館福岡市博物館『平成7年度収集 所蔵品目録13』「旧吉川観方コレクション」(1998)。
- II-34 大黒外法の梯子剃 一幅 58.0×23.0 吉川観方 京都府京都文化博物館 京都府立京都学・歴史学「京の記憶アーカイブ」より。
- II-35 為朝 一面 64.1×23.7 吉川観方 福岡市博物館『大津絵撰集』(1926、吉川観方蔵)。
- II-36 鍾馗 一面 63.0×23.7 吉川観方 福岡市博物館福岡市博物館『平成7年度収集 所蔵品目録13』(1998)。
- II-37 鷹匠 一幅 63.0×23.5 吉川観方 京都府京都文化博物館 京都府立京都学・歴史学「京の記憶アーカイブ」より。
- II-38 鷹 一面 63.7×24.5 吉川観方 福岡市博物館『大津絵撰集』(1926、吉川観方蔵)。
- II-39 花売娘 一面 65.0×24.6 吉川観方 福岡市博物館『大津絵撰集』(1926、吉川観方蔵)。
- II-40 傘さす女 一幅 58.2×22.0 吉川観方 福岡市博物館福岡市博物館『平成7年度収集 所蔵品目録13』「旧吉川観方コレクション」(1998)。
- II-41 座頭 一面 61.0×23.6 吉川観方 福岡市博物館福岡市博物館『平成7年度収集 所蔵品目録13』「旧吉川観方コレクション」(1998)。
- II-42 座頭 一面 69.0×24.7 吉川観方 福岡市博物館福岡市博物館『平成7年度収集 所蔵品目録13』「旧吉川観方コレクション」(1998)。
- II-43 鬼の念仏 一幅 63.6×24.4 吉川観方 福岡市博物館福岡市博物館『平成7年度収集 所蔵品目録13』「旧吉川観方コレクション」(1998)。
- II-44 大津絵画卷一卷 33.1×599.1 吉川観方 福岡市博物館『大津絵撰集』(1926、吉川観方蔵)。

## ◆第三章 ～民画として確立～ 柳宗悦と民藝の人々

- III-1 阿弥陀仏 一幅 31.5×18.2 柳宗悦 日本民藝館 柳筆、箱表書「古大津絵 阿弥陀如来」、軸書「大津絵 阿弥陀如来/宗悦装」。
- III-2 阿弥陀三尊来迎 一幅 70.2×28.0 柳宗悦 日本民藝館 柳筆、箱表書「古大津絵 来迎三尊佛」、軸書「古大津絵 来迎三尊佛/宗悦」。
- III-3 雨宝童子 一面 59.8×23.5 柳宗悦 日本民藝館 『大津絵図録』(1960)。
- III-4 勝軍地藏 一面 60.8×23.7 柳宗悦 日本民藝館 『大津絵図録』(1960)。
- III-5 青面金剛 一面 53.3×24.0 柳宗悦 日本民藝館 『初期大津絵』(1929)。
- III-6 愛染明王 一幅 86.2×38.2 柳宗悦 大和文華館 『初期大津絵』(1929)。
- III-7 達磨大師 一面 59.8×22.8 柳宗悦 日本民藝館 『初期大津絵』(1929)。
- III-8 達磨と遊女 一幅 60.2×22.2 柳宗悦 日本民藝館 柳筆、箱表書「大津絵 一休と地獄大夫 達磨と遊女」、軸書「大津絵/一休と地獄大夫 達磨と遊女/表具 宗悦案」。
- III-9 鬼の念仏 一幅 58.4×21.8 柳宗悦 日本民藝館 『大津絵撰集』(1926、柳宗悦蔵)。柳筆、箱表書「大津絵 鬼の念佛」裏書「表装 宗悦案」。
- III-10 鬼の三味線 一幅 62.0×22.0 柳宗悦 日本民藝館 柳筆、箱表書「大津絵 鬼の三味線」、軸書「大津絵 鬼の三味線/表具 宗悦案」。
- III-11 長刀弁慶 一幅 62.8×22.3 柳宗悦 日本民藝館 柳筆、箱表書「大津絵 辨慶」、軸書「大津絵 弁慶/宗悦清玩/表具 宗悦案」。
- III-13 藤娘 一幅 61.5×22.6 柳宗悦 日本民藝館 柳筆、箱表書「大津絵 藤娘」、裏書「宗悦清玩」、軸書「大津絵 藤娘/宗悦清玩具/表具 宗悦案/陶軸 浜田庄司作」。
- III-14 藤娘 一幅 56.3×23.1 柳宗悦⇒内田六郎 浜松市美術館 『大津絵撰集』(1926、柳宗悦蔵)。
- III-15 太夫 一幅 48.0×22.0 柳宗悦 日本民藝館 柳筆、箱表書「大津絵 太夫」、裏書「宗悦清玩」、軸書「大津絵 太夫/表具宗悦案」。
- III-16 鷹匠 一幅 48.2×21.2 柳宗悦 日本民藝館 箱表書「大津絵 鷹匠」、柳筆、軸書「鷹匠/表具 宗悦案/陶軸 憲吉作」。
- III-17 隼 一幅 61.8×23.3 柳宗悦 日本民藝館 柳筆、箱表書「大津絵 鷹隼」、裏書「表具 宗悦案」、軸書「大津絵 鷹隼/宗悦清玩/表装 宗悦案」。
- III-18 鷺 一幅 62.1×22.3 森井利喜⇒柳宗悦 日本民藝館『デッサン』(1926.10、森井利喜蔵)。『大津絵撰集』(1926、柳宗悦蔵)。柳筆、箱表書「大津絵 鷺」、裏書「宗悦清玩」、軸書「大津絵 鷺/宗悦清玩/表装 宗悦案/青華軸富本憲吉」。
- III-19 座頭 一幅 46.0×22.3 濱忠次郎⇒野島康三⇒小糸源太郎 笠間日動美術館 『大津絵撰集』(1926、濱忠次郎蔵)。『大津絵』(1932、野島康三蔵)。
- III-20 立花 一幅 59.3×21.1 渡辺霞亭⇒山口吉郎兵衛滴翠美術館寄託 『大津絵撰集』(1926、渡辺霞亭蔵)。『美術・工藝』(1942、4、山口吉郎兵衛蔵)。

Ⅲ-21	頼光	一幅	62.7 × 23.8	山口吉郎兵衛 滴翠美術館寄託	り／聿水荘主人の懇望にて譲れり他は米國沙港美術館へ／一括譲渡せり」 「あしや東山 吉庵」朱文方印「吉庵清賞」。
Ⅲ-22	大黒外法の相撲	一幅	59.1 × 24.2	山口吉郎兵衛 滴翠美術館寄託	Ⅲ-44 鬼の念仏(看板) 一面 81.3 × 30.0 × 1.7 北大路魯山人 笠間日動美術館 北大路魯山人旧宅に所蔵。
Ⅲ-23	花売娘	一幅	61.3 × 23.5	山口吉郎兵衛 滴翠美術館寄託	Ⅲ-45 雷と太鼓 一面 54.3 × 31.6 × 5.9 北大路魯山人 笠間日動美術館 北大路魯山人旧宅に所蔵。
Ⅲ-24	鍾馗	一幅	31.3 × 21.7	山口吉郎兵衛 滴翠美術館寄託	Ⅲ-46 槍持鬼奴 一幅 53.3x19.7 秦秀雄 個人? クリストフ・マルケ(パリ展では個人) 箱側面「大津絵 百十三」朱印「秦」。
Ⅲ-25	瓢箪駒	一幅	31.7 × 23.9	山口吉郎兵衛 滴翠美術館寄託	◆第四章 ~昭和戦後期の展開~ 知られざる大津絵コレクター
Ⅲ-26	大黒	一幅	31.2 × 22.9	山口吉郎兵衛 滴翠美術館寄託	IV-1 天神 一面 29.0 × 15.5 小絲源太郎 笠間日動美術館 『大津絵の美』(1975、小絲源太郎所蔵)。
Ⅲ-27	長刀弁慶	一幅	32.7 × 24.5	山口吉郎兵衛 滴翠美術館寄託	IV-2 荷持奴 一幅 58.8 × 22.4 小絲源太郎 笠間日動美術館
Ⅲ-28	瓢箪鯉	一幅	60.6 × 22.0	水落露石⇒高林兵衛⇒内田六郎 浜松市美術館 『大津絵集』(1912、水落露石蔵)。軸書「表具 心月案」、箱側面「紅日書楼蔵」。	IV-3 太夫 一幅 60.1 × 21.9 小絲源太郎 笠間日動美術館
Ⅲ-29	鍾馗	一幅	61.8 × 22.7	高林兵衛⇒内田六郎 浜松市美術館 軸書「表具 心月案」、箱側面「紅日書楼蔵」。	IV-4 傘さす女 一幅 62.4 × 23.2 小絲源太郎 笠間日動美術館
Ⅲ-30	頼光	一幅	60.7 × 23.3	内田六郎⇒小絲源太郎 笠間日動美術館 『大津絵図録』(1960、内田六郎蔵)。	IV-5 鷹匠 一幅 63.3 × 23.3 小絲源太郎 笠間日動美術館
Ⅲ-31	阿弥陀仏	一面	54.8 × 23.0	内田六郎 浜松市美術館『工藝』(1951.1、内田六郎蔵)。	IV-6 長刀弁慶 一幅 62.4 × 23.1 小絲源太郎 笠間日動美術館
Ⅲ-32	酒呑猫	一面	60.6 × 22.0	内田六郎 浜松市美術館『大津絵図録』(1960、内田六郎蔵)。軸装を改装、箱側面「紅日書楼蔵」。	IV-7 藤若衆 一幅 31.5 × 22.2 小絲源太郎 笠間日動美術館
Ⅲ-33	荷持奴	一面	62.6 × 22.3	内田六郎 浜松市美術館『大津絵図録』(1960、内田六郎蔵)。	IV-8 狐女(三味線弾きの女) 一幅 33.3 × 23.0 小絲源太郎 笠間日動美術館
Ⅲ-34	鷹	一幅	60.8 × 22.2	内田六郎 浜松市美術館箱側面「紅日書楼蔵」。	IV-9 鷹 一幅 31.2 × 23.3 小絲源太郎 笠間日動美術館
Ⅲ-35	長刀弁慶	一幅	64.3 × 23.6	柳宗悦⇒内田六郎 大津市歴史博物館 『大津絵図録』(1960、内田六郎蔵)。箱表書「大津絵 辨慶」、墨書「大津絵／弁慶 宗悦清玩 表装 宗悦案／辰砂軸 リーチ作」。箱側面「紅日書楼蔵」。	IV-10 塔 一幅 32.2 × 23.1 小絲源太郎 笠間日動美術館
Ⅲ-36	長刀弁慶	一幅	60.0 × 21.8	内田六郎 個人? クリストフ・マルケ(パリ展では個人) 箱側面「紅日書楼蔵」。	IV-11 鷹匠 一面 31.7 × 22.7 小絲源太郎 笠間日動美術館
Ⅲ-37	為朝	一幅	59.4 × 20.9	内田六郎 浜松市美術館箱側面「紅日書楼蔵」。	IV-12 外法梯子剃一面 31.7 × 22.7 小絲源太郎 笠間日動美術館
Ⅲ-38	花売り娘	一幅	31.9 × 23.5	内田六郎⇒小絲源太郎 笠間日動美術館 箱書「紅日書楼蔵」。	IV-13 筑摩祭 一面 59.5 × 23.3 長谷川仁 笠間日動美術館
Ⅲ-39	若衆	一面	28.6 × 21.9	内田六郎 浜松市美術館『大津絵図録』(1960、内田六郎蔵)。	IV-14 雷と奴 一幅 30.8 × 21.5 中村直勝 大和文華館
Ⅲ-40	鬼の三味線	一面	62.0 × 23.3	内田六郎 浜松市美術館軸装を改装、箱側面「紅日書楼蔵」。	IV-15 青面金剛 一面 61.9 × 27.5 芹沢銈介 静岡市立芹沢銈介美術館
Ⅲ-41	五人男伊達二曲一隻	各 59.5 × 20.5	山本為三郎 アサヒビル大山崎山荘美術館 『工藝』(1931.2)に収録。	IV-16 十三仏 一面 57.0 × 29.0 芹沢銈介 静岡市立芹沢銈介美術館	
Ⅲ-42	青面金剛	一面	48.2 × 23.0 (35.2 × 18.3)	宮又一⇒小絲源太郎 笠間日動美術館 『美術・工芸』(1942. 4、宮又一蔵)。	IV-17 天狗と象 一幅 32.9 × 23.4 芹沢銈介 静岡市立芹沢銈介美術館
Ⅲ-43	山伏	一幅	62.2 × 23.2	宮又一⇒(山口吉郎兵衛)⇒米浪庄式 日本民藝館『美術・工芸』(1942. 4、宮又一蔵)。箱蓋裏「此幅亡兄伊勢一庵の旧蔵にして特に愛蔵の一幅なり」	IV-18 桃に鳩 一幅 32.8 × 22.8 芹沢銈介 静岡市立芹沢銈介美術館
					IV-19 地蔵尊 一面 61.0 × 23.3 米浪庄式 日本民藝館 『大津絵図録』(1960、米浪庄式蔵)収録。
					IV-20 若衆 一幅 57.1 × 21.6 植村平兵衛⇒ 中井浩水⇒米浪庄式 日本民藝館中井筆、箱書「この幅は植村／以文堂翁の旧蔵／品といふ／清信の画にある花乃顔(かんばせ)や 浩水」。
					IV-21 槍持奴 一幅 62.0 × 22.7 濱和助⇒米浪庄式 日本民藝館『大津絵集』(1912、濱和助蔵)。

- IV-23 天狗と象 一幅 64.5 × 24.2 吉川観方⇒米浪庄式 日本民藝館『大津絵撰集』(1926、吉川観方蔵)。
- IV-24 牛 一幅 70.4 × 23.7 米浪庄式 日本民藝館
- IV-25 酒呑猫 一幅 59.3 × 21.2 米浪庄式 日本民藝館
- IV-26 青面金剛 一幅 38.6 × 18.2 水谷良一⇒棟方志功 日本民藝館軸書「水谷良一先醒ヨリ受拜ス/大津繪初期青面金剛佛 棟方志功所存」。
- IV-27 鷹 一幅 59.2 × 22.4 白洲正子 大津市歴史博物館 『名品訪問 生活の中の古美術鑑賞』(1962、白洲正子蔵)。
- IV-28 青面金剛 一幅 34.0 × 17.9 麻生三郎 神奈川県立近代美術館(麻生三郎コレクション)『麻生三郎とそのコレクション』(2009)。
- IV-29 鬼の念佛 一幅 60.0 × 23.6 麻生三郎 神奈川県立近代美術館(麻生三郎コレクション)『麻生三郎とそのコレクション』(2009)。
- IV-30 鬼の念佛 一幅 61.3 × 23.0 麻生三郎 神奈川県立近代美術館(麻生三郎コレクション)『麻生三郎とそのコレクション』(2009)。
- IV-31 鬼の念佛 一幅 51.7 × 23.7 麻生三郎 神奈川県立近代美術館(麻生三郎コレクション)『麻生三郎とそのコレクション』(2009)。
- 参考1 『古筆大津絵』(表紙、裏表紙、帙、収納箱) 笠間日動美術館 『富岡文庫御蔵書入札目録』(1938) 223頁。表紙、裏表紙、収納箱に鉄斎の署名、蔵書印。
- 参考2 山内金三郎編『大津絵集』 山内金三郎発行 1912年4月 一冊 23.3 × 14.4 個人
- 参考3 森井利喜『大津絵撰集』 大津絵会発行、1926年 一冊 34.1 × 24.2 東京ステーションギャラリー
- 参考4 吉川観方編『大津絵』 更生閣書房発行、1936年 一冊 36.1 × 24.3 東京ステーションギャラリー
- 参考5 柳宗悦『初期大津絵』 工政会出版部発行、1929年 一冊 22.5 × 16.2 福島県立美術館
- 参考6 小糸源太郎書簡山内神斧宛 14.0 × 9.0 東京ステーションギャラリー
- 参考7 米浪庄式アルバム 一冊 18.2 × 24.5 個人蔵 1951.10. 17-18、柳宗悦、河井寛次郎、ウィリス女史、大阪民藝館、米浪庄式邸訪問写真 福島未陳作品
- II-7 外法梯子剃一幅 60.8 × 24.3 星野空外 国立歴史民俗博物館 軸書「大津絵 星野空外蔵」。
- III-12 槍持奴 一幅 64.0 × 23.5 柳宗悦⇒内田六郎 町田市立博物館 『大津絵撰集』(1926、柳宗悦蔵)。
- IV-19 瓢箪鯨 一面 33.0 × 23.5 田河水泡 町田市立博物館 田河水泡(本名:高見澤忠太郎) 寄贈品。

## 関連展示「山内神斧と吾八の時代」出品リスト:

[No./作家名/作品名/制作年/寸法/材質技法/形状/所蔵]

## ◆絵画作品・書簡

- 1 山内神斧 夕月 1915 150.5 × 60.3 紙 本著色 軸 個人蔵
- 2 山内神斧 和蘭陀船 1916頃 169.7 × 170.0 麻布著色 屏風二曲一隻 星野画廊
- 3 山内神斧 六歌仙 1917 各 137.5 × 51.5 絹 本著色 軸(双幅) 個人蔵
- 4 山内神斧 豊神酒 1917 126.0 × 49.5 絹 本著色 軸 喜多方市美術館寄託
- 5 山内神斧 梅花春屋 1917-19 126.0 × 49.5 絹 本著色 軸 喜多方市美術館寄託
- 6 山内神斧 雪景三題 1917 各 137.5 × 51.5 紙 本墨画淡彩 軸(三幅対) 喜多方市美術館
- 7 山内神斧 陶村 1918 126.8 × 41.6 絹 本著色 軸 個人蔵
- 8 山内神斧 梅花小禽 1918 123.6 × 42.1 絹本著色 軸 個人蔵
- 9 山内神斧 素菱鳴尊 1919 126.5 × 41.6 絹本著色 軸 個人蔵
- 10 山内神斧 寒山拾得 1919 131.3 × 33.1 各 紙本著色 軸(双幅) 喜多方蔵座敷美術館
- 11 山内神斧 大津街道 1917 124.5 × 42.4 絹本著色 軸 喜多方蔵座敷美術館
- 12 山内神斧 藤娘 1918頃 139.1 × 39.6 紙本著色 軸 喜多方蔵座敷美術館
- 13 山内神斧 鬼の念仏 1918頃 139.1 × 39.6 紙本著色 軸 喜多方蔵座敷美術館
- 14 山内神斧 風神雷神 1917-20 23.0 × 23.7 各 紙本著色 团扇 喜多方蔵座敷美術館
- 15 山内神斧 造兵の裏 1918 45.7 × 53.3 絹本著色 額 個人蔵
- 16 山内神斧 道頓堀 1919頃 21.0 × 18.0 絹本著色(色紙) 個人蔵
- 17 諸家 大寶恵 14.0 × 19.0 喜多方蔵座敷美術館
- 18 諸家 画帖 33.2 × 24.2 喜多方蔵座敷美術館
- 19 諸家 色紙帖 24.0 × 21.0 喜多方蔵座敷美術館
- 20 山内神斧 田代与三久宛書簡 書簡 個人蔵

## ◆版画

- 21 山内神斧『寿々』 二の四 1915 28.1 × 20.0 紙・木版手彩色 冊子 個人蔵
- 22 山内神斧『寿々』 I・II 1917 28.1 × 19.6 紙・木版 冊子 個人蔵
- 23 山内神斧『寿々』 I・II(復刻版) 1994 28.1 × 19.6 紙・木版 冊子 個人蔵
- 24 山内神斧『寿々』 第三輯 1920 30.0 × 19.2 紙・木版 冊子 個人蔵
- 25 山内神斧『寿々』 第三期 1922-1924 24.2 × 16.4 紙・木版(自刻自摺) 冊子 個人蔵
- 26 山内神斧『寿々』 第四期 1925-1926 23.8 × 16.5 紙・木版 冊子 個人蔵
- 27 山内神斧『寿々』 第五期 1935-1938 30.0 × 24.0 紙・プロセス印刷に手彩色 冊子 個人蔵
- 28 山内神斧 瓶(『HANGA』第2輯) 1924 18.8 × 12.5 紙・木版 シート 個人蔵

## ◆装丁

- 29 山内神斧 里見弴『三人の弟子』1917.5.15 春陽堂 個人蔵  
 30 山内神斧 里見弴『毒草』1920.8.10 春陽堂 個人蔵  
 31 山内神斧 上山草人『煉獄』1918.10.20 新潮社 個人蔵  
 32 山内神斧 谷崎潤一郎『月と狂言師』特装版 1949.7 梅田書房  
 筆耕、挿図（謄写版に手彩色）個人蔵

## ◆編集雑誌（第二次・第三次吾八の雑誌ほか）

- 33 『これくしよん』戦前版 1937.4～1943.6 64号 編集発行  
 人は4号まで。その後は今村秀太郎が担当、64号で休刊を刊行。  
 個人蔵  
 34 『これくしよん』梅田版 1947.2～1957.2 102冊 謄写版 個  
 人蔵  
 35 『これくしよん』吾八版 1958.10～1986.11 100冊 31号  
 は追悼山内金三郎 個人蔵  
 36 『阪急美術』個人蔵  
 37 『汎究美術』個人蔵  
 38 『美術・工藝』個人蔵  
 39 『日本美術工藝』個人蔵  
 40 『主婦之友』1917～1936 ※1922-36 が正社員在籍期間 個  
 人蔵

## ◆山内神斧資料

- 41 晩年のポートレイト 個人蔵  
 42 妻・キクと 個人蔵  
 43 『神斧傑作集』個人蔵  
 44 写真アルバムー1 個人蔵  
 45 写真アルバムー2 個人蔵  
 46 梶田半古塾回覧雑誌『白光』第二巻 1906・明治39 個人蔵

## ◆神斧日記

- 47 神斧日記1 1907.9.1～12.31 個人蔵  
 48 神斧日記2 1916.6.16～1917.5.18 個人蔵  
 49 神斧日記3 1918.9.23～1921.7.24 個人蔵  
 50 神斧日記4 1921.10.18～1927.2.12 個人蔵  
 51 山内金三郎『甘辛画譜』特装版 1956・昭和31 個人蔵  
 52 御所人形「毛裁えの狛」個人蔵  
 53 ドイツ製 着せ替え人形 個人蔵  
 54 吾八扱いのこけし 公財 東邦銀行教育・文化財団附属 原郷  
 のこけし群 西田記念館蔵  
 中ノ沢系 岩本善吉作こけし『これくしよん』25号掲載  
 弥治郎系 佐藤伝喜作こけし『これくしよん』31号掲載  
 弥治郎系 佐藤春二作こけし『これくしよん』42号掲載  
 津軽系 盛秀太郎作こけし『これくしよん』49号掲載

## ◆追加資料

- 55 山内神斧 挿画 淡島寒月翁 1933・昭和8『梵雲菴雑話』書物  
 展望社 個人蔵  
 56 吾八商店扱い 菓子皿 明治頃 個人蔵  
 57 北山清太郎 撮影 吾八の内部 1913.4『現代の洋画』13号  
 日本洋画協会出版部 福島県立美術館  
 58 山内神斧 挿画 高瀬川 1918.6『太陽』第24巻8号 博文館  
 個人蔵



(3) もうひとつの日本美術史——近現代版画の名作 2020



A4 チラシ

会期：令和2年7月11日(土)～8月30日(日) 開催日数 44日  
分野：版画、資料  
展示数：作品 368点、資料 31点  
観覧料：一般・大学生 1,000(800)円、高校生 500(400)円、小・中学生 300(200)円 \* ( )内は 20名以上の団体料金  
観覧者数：3,205名  
担当：紺野朋子、荒木康子、坂本篤史

主催：福島県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会、福島民友新聞社、福島中央テレビ

関連事業：

- ・講演会「日本『近現代』美術を『版画』表現で再考する」  
講師：山野英嗣氏（和歌山県立近代美術館館長）  
日時：7月23日(木) 14:00～15:30 美術館講堂  
参加者数：42名
- ・担当学芸員によるギャラリートーク  
→スライドトークに変更し、講堂で実施  
講師：紺野朋子（主任学芸員）  
日時：①7月18日(土) ②8月8日(土) 各 14:00～15:30  
参加者数：①15名 ②19名

概要：

版画は、日本の美術の歴史を語る上で欠かせないものであり、海外から見た日本の美術を特色づける重要な表現でもある。しかし、近代以降、日本国内においては、美術表現としての立場を獲得するまでには長い時間がかかった。

1970年代から80年代にかけて日本各地に公立の美術館が次々に設置され、各館は地域の風土とそこで生み出される表現に向き合いながら、現在まで研究・収集活動を続けてきた。本展覧会は、戦後75年、また21世紀に入って20年を経た2020年という節目の年に、地方都市にあるふたつの県立美術館である福島県立美術館と和歌山県立近代美術館のコレクションを中心に、版画という文脈において、地方から見えるもうひとつの近現代日本美術史を編み直す試みとして開催した。



展示風景



講演会（7/23）

## 出品リスト：

[出品番号 / 作家名 / 作品名 / 制作年 / 技法 (カラー台) / 所蔵]

## ◆第1章 「版画」前夜—印刷のなかの美術

- 1-1 鈴木 蓄齋 [画] 明治暴勇聚 明治 10 年代  
木版 西宮 K 氏コレクション
- 1-2 鈴木 蓄齋 [画] 「蝙蝠傘 綿フラン子ル卸商 南為太郎」  
引札 1887(明治 20) 頃 木版 西宮 K 氏コレクション
- 1-3 林 基春 [画] 「づつう膏 浪花の梅」 絵びら 明  
治 20 年代 木版 西宮 K 氏コレクション
- 1-4 北野 恒富 [画] 引札見本 明治 30 年代 木  
版 西宮 K 氏コレクション
- 1-5 小林 清親 [画] 「東京昇栄舎大勉強」 絵びら 明  
治 20 年代 リトグラフ 西宮 K 氏コレクション
- 1-6 星野 茂三郎 [印刷] 貴顕令嬢 1889(明治 22) リ  
トグラフ、手彩 西宮 K 氏コレクション
- 1-7 荒川 藤兵衛 [画・製版] 入谷之朝顔 1889(明 治  
22) リトグラフ 西宮 K 氏コレクション
- 1-8 結城 正明 [刻] ヒポクラテス像 1877(明 治  
10) エッチング、エングレーヴィング 西宮 K 氏コレ  
クション
- 1-9 森 琴石 (響泉堂) [画・刻] 有馬温泉炭酸水改良建築  
并市街写真絵図 1883(明治 16) エッチング 西  
宮 K 氏コレクション
- 1-10 志村 千郷 [画・刻・印刷] 一枝堂明治 17 年略暦  
1883(明治 16) エッチング 西宮 K 氏コレクション
- 1-11 合田 清 (生巧館) [画・刻] 独逸皇帝フレデリッキ三  
世之肖像 『毎日新聞』第 5253 号附録 1888(明治 21)  
木口木版 西宮 K 氏コレクション
- 1-12 合田 清 (生巧館) [画・刻] 昇竜図 『東京朝日新  
聞』第 2125 号附録 1892(明治 25) 木口木版 西宮 K 氏コレ  
クション
- 1-13 岡村 政子 [画・推定] 露国の帝室 『時事新報』第 3021  
号附録 1891(明治 24) リトグラフ 西宮 K 氏コレ  
クション
- 1-14 岡村 政子 [画] / 酒井鈴子 [石画] 忠臣義士 1891(明 治  
24) リトグラフ 西宮 K 氏コレクション
- 1-15 岡村 政子 [画] [新聞を読む女性] 『時事新報』第  
5000 号附録 1897(明治 30) リトグラフ 西  
宮 K 氏コレクション
- 1-16 蔵画館 [版元] 聖皇武拾五年詔勅及憲法文集  
1892(明治 25) リトグラフ 西宮 K 氏コレクション
- 1-17 浅井 忠 [画] 桜狩 <十二月之内>  
『時事新報』第 3934 号附録 1894(明治 27) リトグラフ  
西宮 K 氏コレクション
- 1-18 北澤 楽天 [画] やまとひめとブリタニヤ  
『時事新報』第 6689 号附録 1902(明治 35) リトグラフ  
西宮 K 氏コレクション
- 1-19 和田 英作 [画] 朝日 『大阪朝日新聞』第 12494  
号附録 1916(大正 5) リトグラフ 西宮 K 氏コレ  
クション
- 1-20 和田 英作 [画] [大正天皇と三国元首]  
『大阪朝日新聞』第 12555 号附録 1917(大正 6) リトグラフ  
西宮 K 氏コレクション
- 1-21 高橋 由一 [画] / 玄々堂 『三県道路完成記念帖』 栃  
木県 1885(明治 18) リトグラフ、手彩 / 絹 個  
人蔵
- 1-22 高橋 由一 [画] / 玄々堂 『三県道路完成記念帖』 福  
島県 1885(明治 18) リトグラフ、手彩 / 絹 個  
人蔵
- 1-23 高橋 由一 [画] / 玄々堂 『三県道路完成記念帖』 山  
形県 1885(明治 18) リトグラフ、手彩 / 絹 個  
人蔵
- 1-24 中丸精 十郎 (金峯) 「ギゼー」大石塚井二「スフィンク  
ス」ノ図『輿地誌略』巻 8(3 篇上) 1875(明治 8)  
エッチング 西宮 K 氏コレクション
- 1-25[左] 梅村翠山 (慶岸堂) [左] / 松田 緑山 (二代玄々堂) [右] 西  
伏克尼 (秘魯) ノ岩石ノ図 [左] / 丹克尼河 (秘魯) ノ洞門ノ景 [右] 『輿  
地誌略』巻 11 下 (4 篇中) 1877(明治 10) エッチング  
[左] / リトグラフ [右] 西宮 K 氏コレクション
- 1-26a 亀井 至一 [画] / 玄々堂 『観古図説 陶器之部』 3  
挿画 1877(明治 10) リトグラフ 西宮 K 氏コレ  
クション
- 1-26b 亀井 至一 [画] / 玄々堂 『観古図説 陶器之部』 3  
挿画 1877(明治 10) リトグラフ 西宮 K 氏コレ  
クション
- 1-26a,b 亀井 至一 [画] / 玄々堂 『観古図説 陶器之部』 3  
挿画 1877(明治 10) リトグラフ 西宮 K 氏コレ  
クション
- 1-27 森 琴石 (響泉堂) [画・刻] 江州琵琶湖之景  
『和漢対照挿画 明治新用文大成』上 1881(明治 14)  
エッチング 西宮 K 氏コレクション
- 1-28 森 琴石 (響泉堂) [画・刻] 撰津住吉之図 『和  
漢対照挿画 明治新用文大成』下 1881(明治 14) エッチング  
西宮 K 氏コレクション
- 1-29[右] 森 琴石 (響泉堂) [画・刻] 一心寺之図 [左] / 茶白山  
之図 [右] 『明治新刻 大坂名所独案内』上 1882(明治 15)  
エッチング 西宮 K 氏コレクション
- 1-29[左] 森 琴石 (響泉堂) [画・刻] 『明治新刻 大坂名所独案  
内』上 1882(明治 15) エッチング 西宮 K 氏コレ  
クション
- 1-30[右] 森 琴石 (響泉堂) [画・刻] 耶蘇教天主堂 [左] / 商船  
学校之図 [右] 『明治新刻 大坂名所独案内』下 1882(明 治  
15) エッチング 西宮 K 氏コレクション
- 1-30[左] 森 琴石 (響泉堂) [画・刻] 『明治新刻 大坂名所独案  
内』下 1882(明治 15) エッチング 西宮 K 氏コレ  
クション
- 1-31 松本 楓湖 [画] 平重盛父清盛乃非謀を諫止す『幼學  
綱要』1 1882(明治 15) 木版 西宮 K 氏コレクション
- 1-32 松本 楓湖 [画] 魏の鄧哀王冲巨象乃斤重を稱礼  
『幼學綱要』6 1882(明治 15) 木版 西宮 K 氏コレ  
クション
- 1-33 小柴 英 [製版] 会津城中烈婦和歌ヲ残ス之図『佳人之  
奇遇』2 1885(明治 18) リトグラフ 西宮 K 氏コレ  
クション
- 1-34 作画者不詳『普通読本』1 編上 挿画 1887(明 治  
20) 第 3 版 (初版 1886) 木版 西宮 K 氏コレ

クシオン

1-35 浅井忠 [画] / 生巧館 [製版] 『帝国読本』 巻2 扉絵  
1893 (明治 26) 再版 (初版 1892) 木口木版 西  
宮K氏コレクション  
1-36 二世 五姓田 芳柳 [画] / 生巧館 [製版] 『帝国読本』 巻  
6 扉絵 1893 (明治 26) 再版 (初版 1892) 木口木版  
西宮K氏コレクション

◆第2章 版画に向かう画家たち—『方寸』の時代

2-1 山本 鼎 漁夫 『明星』 辰歳第7号所収  
1904 (明治 37) 木版 和歌山県立近代美術館  
2-2 山本 鼎 野鷲 1912 (大正元) 木版  
和歌山県立近代美術館  
2-3 山本 鼎 プルターニユの小湾 1913 (大正 2)  
木版 和歌山県立近代美術館  
2-4 青木 繁 [画] / 山本 鼎 [刻] 繡斧 蒲原有明『春  
鳥集』所収 1905 (明治 38) 木口木版 福島県立美術  
館  
2-5 戸張 孤雁 千住大橋の雨 1913 (大正 2)  
木版 和歌山県立近代美術館  
2-6 石井 柏亭 木場 1914 (大正 3) 木版  
和歌山県立近代美術館  
2-7 織田 一磨 洲崎之景 <東京風景> 1916 (大正 5)  
リトグラフ 和歌山県立近代美術館  
2-8 織田 一磨 上野廣小路 <東京風景> 1916 (大正 5)  
リトグラフ 和歌山県立近代美術館  
2-9 織田 一磨 道頓堀 <大阪風景> 1917 (大正 6)  
リトグラフ 和歌山県立近代美術館  
2-10 織田 一磨 京町橋夜景 <大阪風景> 1919 (大正 8)  
リトグラフ 和歌山県立近代美術館  
2-11 南 薫造 (伊上凡骨 [復刻]) 魚見 『美術新報』 第  
11 巻第 3 号所収 1912 (明治 45) 木版 福  
島県立美術館  
2-12 南 薫造 舟おろし 1910-13 (明治 43- 大正 2) 木  
版 和歌山県立近代美術館  
2-13 南 薫造 [風景] 1910-13 (明治 43- 大正 2) 木  
版 和歌山県立近代美術館  
2-14 富本 憲吉 壺 (竹林月夜) 1920 (大正 9) 頃  
木版、手彩 和歌山県立近代美術館  
2-15 太田 三郎 銭湯 1914 (大正 3) 木版  
和歌山県立近代美術館  
2-16 太田 三郎 カフェーの女 『現代の洋画』 第 23 号「版  
画号」所収 1914 (大正 3) 木版 和歌山県立近  
代美術館  
2-17 岡本 帰一 夕の街路 『現代の洋画』 第 23 号「版画号」所  
収 1914 (大正 3) 木版 和歌山県立近代美術館  
2-18 清宮 彬 花 『フェウザン』 第 4 号 表紙  
1913 (大正 2) 木版 和歌山県立近代美術館  
2-19 バーナード・リーチ 天壇 1916 (大正 5)  
エッチング 個人蔵  
2-20 岸田 劉生 怒れるアダム <天地創造> 1914 (大正 3)  
1975 (昭和 50) 刷 エッチング 福島県立美術館  
2-21 岸田 劉生 築地風景 1912 (明治 45 / 大正元) 木

版 和歌山県立近代美術館  
2-22 竹久 夢二 港屋絵草紙店 1914 (大正 3)  
木版 千葉市美術館  
2-23 竹久 夢二 新富座当り狂言 雁治郎の忠兵衛 福助の梅川  
1914 (大正 3) 木版 千葉市美術館  
2-24 竹久 夢二 小春 1914 (大正 3) 木版 千  
葉市美術館  
2-25 竹久 夢二 治兵衛 1914 (大正 3) 木版 千  
葉市美術館  
2-26 藤島 武二 [画] / 伊上 凡骨 [刻] 靴なほし 『明星』 第 13  
号 挿画 1901 (明治 34) 木版 個人蔵  
2-27 藤島 武二 [画] 『明星』 第 14 号 表紙 1901 (明 治  
34) リトグラフ 個人蔵  
2-28 石井 柏亭 休業 『方寸』 第 2 巻 第 4 号 挿画  
1908 (明治 41) リトグラフ 和歌山県立近代美術館  
2-29 山本 鼎 真昼 『方寸』 第 3 巻 第 4 号 挿画  
1909 (明治 42) 木版 和歌山県立近代美術館  
2-30 石井 柏亭 サイダア (空壇買ひの娘) 『方寸』 第 3 巻  
第 6 号 挿画 1909 (明治 42) リトグラフ 和  
歌山県立近代美術館  
2-31 織田 一磨 十字花 『方寸』 第 3 巻 第 7 号 挿画  
1909 (明治 42) リトグラフ 和歌山県立近代美術館  
2-32 森田 恒友 『方寸』 第 3 巻 第 9 号 表紙装画 1909 (明 治  
42) 木版 和歌山県立近代美術館  
2-33 浅井 忠 [画] 『時事漫画 非美術画報』 巻 2 表紙  
1904 (明治 37) リトグラフ 個人蔵  
2-34a 鹿子木 孟郎 [画] 百年後に於ける桂太郎君の銅像  
『時事漫画 非美術画報』 巻 3 1904 (明治 37) リトグラフ  
個人蔵  
2-34b 鹿子木 孟郎 [画] 百年後に於ける寺内正毅君の掛物  
『時事漫画 非美術画報』 巻 3 1904 (明治 37) リトグラフ  
個人蔵  
2-34 鹿子木 孟郎 [画] 『時事漫画 非美術画報』 巻 3  
a. 百年後に於ける桂太郎君の銅像 b. 百年後に於ける寺内正  
毅君の掛物 1904 (明治 37) リトグラフ 個  
人蔵  
2-35a 浅井 忠 鹿 『黙語図案集』 1908 (明 治  
41) 木版 個人蔵  
2-35b 浅井 忠 大原女 『黙語図案集』 1908 (明 治  
41) 木版 個人蔵  
2-36a 河合 卯之助 『鳳梨』 第 1 号 表紙 1914 (大正 3)  
木版 和歌山県立近代美術館  
2-36b 松宮 實 景風 『鳳梨』 第 1 号所収 1914 (大正 3)  
木版 和歌山県立近代美術館  
2-36 河合 卯之助 (表紙) / 松宮 實 (挿画) 『鳳梨』 第 1 号  
表紙 / 景風 1914 (大正 3) 木版 和歌山県立近  
代美術館  
2-37 河合 卯之助 『黙鐘』 第 1 巻 第 6 号 表紙  
1915 (大正 4) 木版 和歌山県立近代美術館  
2-38a 河合 卯之助 図案私集『伊羅保』 表紙  
1916 (大正 5) 木版 和歌山県立近代美術館  
2-38b 河合 卯之助 あきのあざみ 図案私集『伊羅保』  
1916 (大正 5) 木版 和歌山県立近代美術館

- 2-38c 河合 卯之助 るりとらのをに文鳥 図案私集『伊羅保』 1916(大正5) 木版 和歌山県立近代美術館
- 2-38 河合 卯之助 図案私集『伊羅保』 a. 表紙 b. あきの・あざみ c. るりとらのをに文鳥 1916(大正5) 冊子(書籍)/木版 和歌山県立近代美術館
- 2-39 南 薫造 『白樺』第3巻第5号表紙 1912(明治45) 木版 和歌山県立近代美術館
- 2-40 バーナード・リーチ 『白樺』第4巻第6号表紙 1913(大正2) 木版 和歌山県立近代美術館
- 2-41 富本 憲吉 『とりで』第2号表紙 1913(大正2) 木版 和歌山県立近代美術館
- 2-42 岡本 帰一 『とりで』第8号表紙 1913(大正2) 木版 和歌山県立近代美術館
- 2-M1 『現代の洋画』第23号「版画号」1914(大正3) 冊子(雑誌) 和歌山県立近代美術館
- ◆第3章 自己を刻む—創作版画という青春
- 3-1 香山 小鳥 深川の冬 1912(大正元) 木版 個人蔵
- 3-2 香山 小鳥 愁 1913(大正2) 木版 和歌山県立近代美術館
- 3-3 田中 恭吉 病める夕べ 回覧雑誌『密室』VIII所収 1913(大正2) 木版 和歌山県立近代美術館
- 3-4 田中 恭吉 焦心 私輯『月映』II所収 1914(大正3) 木版 和歌山県立近代美術館
- 3-5 田中 恭吉 五月の呪 私輯『月映』IV所収 1914(大正3) 木版 和歌山県立近代美術館
- 3-6 田中 恭吉 冬虫夏草 公刊『月映』III所収 1914(大正3) 木版(機械刷り) 和歌山県立近代美術館
- 3-7 藤森 静雄 『月映』III ポスター 1914(大正3) 木版 和歌山県立近代美術館
- 3-8 藤森 静雄 よる 私輯『月映』III所収[推定] 1914(大正3) 木版 和歌山県立近代美術館
- 3-9 藤森 静雄 [かげ] 1914(大正3) 木版 和歌山県立近代美術館
- 3-10 藤森 静雄 夜のうた 私輯『月映』II所収 1914(大正3) 木版 和歌山県立近代美術館
- 3-11 藤森 静雄 [灯のまえ] 1914(大正3) 木版 和歌山県立近代美術館
- 3-12 恩地 孝四郎 キリストとマリア 私輯『月映』III所収[推定] 1914(大正3) 木版 和歌山県立近代美術館
- 3-13 恩地 孝四郎 [望と怖] 1914(大正3) 頃 木版 和歌山県立近代美術館
- 3-14 恩地 孝四郎 裸形のくるしみ III 私輯『月映』V所収 1914(大正3) 木版 和歌山県立近代美術館
- 3-15 恩地 孝四郎 裸形のくるしみ IV 私輯『月映』V所収 1914(大正3) 木版 和歌山県立近代美術館
- 3-16 恩地 孝四郎 抒情『あかるい時』公刊『月映』V所収 1915(大正4) 木版(機械刷り) 和歌山県立近代美術館
- 3-17 長谷川 潔 ダンスB 1914(大正3) 木版 和歌山県立近代美術館
- 3-18 長谷川 潔 トラピスト修道院礼拝堂 1915(大正4) 木版 個人蔵
- 3-19 長谷川 潔 牧神の午後(ステファン・マラルメの牧歌) 1916(大正5) 木版 個人蔵
- 3-20 永瀬 義郎 抱擁 1915(大正4) 木版 和歌山県立近代美術館
- 3-21 永瀬 義郎 [風景] 1916(大正5) 木版 個人蔵
- 3-22 廣島 新太郎 泊船 1920-22(大正9-11) 頃 木版 和歌山県立近代美術館
- 3-23 廣島 新太郎 夕暮小景 1922(大正11) 木版 個人蔵
- 3-24 長谷川 潔 仮面を持てる女 『仮面』第3巻第6号表紙 1914(大正3) 木版 和歌山県立近代美術館
- 3-25 永瀬 義郎 をんな 『仮面』第3巻第9号表紙 1914(大正3) 木版 和歌山県立近代美術館
- 3-26 長谷川 潔 ある踊の印象 『水襖』第2巻第6号表紙 1915(大正4) 木版 和歌山県立近代美術館
- 3-27 恩地 孝四郎 公刊『月映』VI表紙 1915(大正4) 木版 和歌山県立近代美術館
- 3-28 恩地 孝四郎 公刊『月映』VII表紙 1915(大正4) 木版 和歌山県立近代美術館
- 3-29 長谷川 潔 『日本版画倶楽部 第1回 版画展目録』表紙 1916(大正5) 木版 個人蔵
- ◆第4章「日本」の版画を求めて—新版画という挑戦
- 4-1 石井 柏亭[画]/伊上 凡骨[刻] よし町<東京十二景> 1910(明治43) 木版 和歌山県立近代美術館
- 4-2 石井 柏亭[画]/伊上 凡骨[刻] 赤さかく東京十二景 1916(大正5)頃 木版 和歌山県立近代美術館
- 4-3 川端 龍子[画] 木曾の秋 1915(大正4) 木版 和歌山県立近代美術館
- 4-4 鶴田 吾郎[画] 泊船 1915(大正4) 木版 和歌山県立近代美術館
- 4-5 坂本 繁二郎[画]/伊上 凡骨[刻] 神の湊—玄海灘を遠望 <日本風景版画 第六輯 筑紫之部> 1918(大正7) 木版 和歌山県立近代美術館
- 4-6 坂本 繁二郎[画]/伊上 凡骨[刻] 水縄山—小森野より望む <日本風景版画 第六輯 筑紫之部> 1918(大正7) 木版 和歌山県立近代美術館
- 4-7 橋口 五葉[画] 化粧の女 1918(大正7) 木版 和歌山県立近代美術館
- 4-8 橋口 五葉[画] 髪梳ける女 1920(大正9) 木版 和歌山県立近代美術館
- 4-9 橋口 五葉[画] 神戸之宵月 1920(大正9) 木版 和歌山県立近代美術館
- 4-10 橋口 五葉[画] 京都三条大橋 1920(大正9) 木版 和歌山県立近代美術館
- 4-11 川瀬 巴水[画] 塩原畑下り 1918(大正7) 木版 千葉市美術館
- 4-12 川瀬 巴水[画] 塩原しほがま 1918(大正7) 木版 千葉市美術館
- 4-13 伊東 深水[画] 三井寺 <近江八景> 1917(大正6)



5-44	村山 知義 『マヴォ』3 表紙デザイン / 高見澤路直《ラシヤメンの像》	1924(大正 13)	リノカット、コラーージュ	個	14)	木版	和歌山県立近代美術館	
	人蔵				6-3	稲垣 知雄	関東大震災直後の如水館	1924(大正 13)
5-M1	戸張 孤雁 『創作版画と版畫の作り方』	1922(大正 11)		冊子(書籍)	6-4	前川 千帆	地下鉄〈新東京百景〉第3輯第22号	1931(昭和6)
	和歌山県立近代美術館				6-5	藤森 静雄	七月・花火の両国(隅田川)〈大東京十二景〉	1933(昭和8)
5-M2	永瀬 義郎 『版画を作る人へ』	1922(大正 11)		冊子(書籍) 個人蔵	6-6	武藤 六郎	東京駅 〈武藤六郎版画集〉第1輯	1932(昭和7)
5-M3	小泉 癸巳男 『木版畫の彫り方と刷り方』	1932(昭和7)第6版(初版1924)		冊子(書籍)	6-7	武藤 六郎	清洲橋 〈武藤六郎版画集〉第1輯	1933(昭和8)
	和歌山県立近代美術館				6-8	山口 進	永代橋 〈帝都復興二十五景〉	1930(昭和5)
5-M4	平塚 運一 『版画の技法』	1927(昭和2)		冊子(書籍)		木版	和歌山県立近代美術館	
	和歌山県立近代美術館				6-9	平川 清蔵	[クレーン]	1932(昭和7)頃
5-M5	旭 正秀 『創作版畫の作り方』	1927(昭和2)		冊子(書籍) 個人蔵		リノカット	和歌山県立近代美術館	
5-M6	西田 武雄 『エッチングの描き方』	1930(昭和5)		冊子(書籍) 個人蔵	6-10	藤牧 義夫	「新版畫集團第2回展」ポスター	1933(昭和8)
5-M7	田辺 至 『エッチングの技法』	1930(昭和5)		冊子(書籍) 個人蔵		木版	和歌山県立近代美術館	
5-M8	旭 正秀 『版画の手ほどき』	1930(昭和5)		冊子(書籍) 個人蔵	6-11	水船 六洲	「新版畫第2回展」ポスター	1933(昭和8)
5-M9	平塚 運一・織田 一磨・田辺 至 『創作版畫 木版・石版・エッチングの作り方』	1931(昭和6)		冊子(書籍) 個人蔵		木版	和歌山県立近代美術館	
5-M10	川西 英 『たやすい版畫の作り方』	1931(昭和6)		冊子(書籍) 個人蔵	6-12	小野 忠重	死を回る人々	1933(昭和8)
5-M11	旭 正秀 『版畫実習読本』	1932(昭和7)		冊子(書籍) 和歌山県立近代美術館		木版	和歌山県立近代美術館	
5-M12	武藤 完一 『エッチング技法』	1938(昭和13)		冊子(書籍) 個人蔵	6-13	小野 忠重	工場街	1935(昭和10)
5-M13	小野 忠重 『新理念 版畫の技法』	1942(昭和17)		冊子(書籍) 個人蔵		木版	和歌山県立近代美術館	
5-M14	今 純三 『版畫の新技法』	1943(昭和18)		冊子(書籍) 個人蔵	6-14	清水 正博	数寄屋橋より	1933(昭和8)
5-M15	大宮 昇 『繪畫と印刷』	1944(昭和19)		冊子(書籍) 個人蔵		木版	和歌山県立近代美術館	
5-M16	『版畫 CLUB』第1年第1号	1929(昭和4)		冊子(雑誌)	6-15	清水 正博	橋	1935(昭和10)
	和歌山県立近代美術館					木版	和歌山県立近代美術館	
5-M17	『日本創作版畫協會 第6回展覽会目録』				6-16	大久保 一	陸橋	1932(昭和7)
	表紙掲載作品: 石井鶴三	1924(大正 13)		冊子		木版	和歌山県立近代美術館	
	和歌山県立近代美術館				6-17	大久保 一	[車軸の折れた馬車(鉄西風景)]	1933(昭和8)頃
5-M18	『日本創作版畫協會 第7回展覽会目録』					木版	和歌山県立近代美術館	
	表紙掲載作品: 恩地孝四郎	1927(昭和2)		冊子	6-18	徳力 富吉郎	太秦の牧場	1921(大正10)頃
	和歌山県立近代美術館					木版	和歌山県立近代美術館	
5-M19	『日本創作版畫協會 第8回展覽会目録』				6-19	徳力 富吉郎	道頓堀の夜	1938(昭和13)
	1928(昭和3)			冊子		木版	和歌山県立近代美術館	
	和歌山県立近代美術館				6-20	麻田 辨次	燕子花其他	1930(昭和5)
5-M20	『日本創作版畫協會 第9回展覽会目録』					木版	和歌山県立近代美術館	
	表紙掲載作品: 平塚運一	1929(昭和4)		冊子	6-21	麻田 辨次	花	1936(昭和11)
	和歌山県立近代美術館					木版	和歌山県立近代美術館	
◆第6章 版畫の東西—震災、都市、モダニズム					6-22	亀井 藤兵衛	鱒	1927(昭和2)
6-1	平塚 運一 ニコライ会堂〈東京震災跡風景〉	1923(大正 12)		木版		木版	和歌山県立近代美術館	
6-2	平塚 運一 あさくさ〈東京震災跡風景〉	1925(大正 14)		木版	6-23	亀井 藤兵衛	黒い家の風景	1928(昭和3)
	和歌山県立近代美術館					木版	和歌山県立近代美術館	
					6-24	亀井 藤兵衛	静まれる四条街頭	1935(昭和10)頃
						木版	和歌山県立近代美術館	
					6-25	高橋 太郎	玉乗り	1928(昭和3)
						個人蔵		
					6-26	武田 新太郎	[ステーション売店]	1935(昭和10)頃
						木版	和歌山県立近代美術館	
					6-27	武田 新太郎	[豚]	1936(昭和11)
						木版	和歌山県立近代美術館	
					6-28	長永 治良	虫相撲	1932(昭和7)
						木版	和歌山県立近代美術館	

6-29	長永 治良	ガラス器と果物	1933(昭和8)	木版	和歌山県立近代美術館	7-1	長谷川 潔	アレキサンドル三世橋とフランスの飛行船	1930(昭和5)	メゾチント	福島県立美術館
6-30	前田 藤四郎	ショウインドー(装飾窓)				7-2a	長谷川 潔	『竹取物語』1933(昭和8)		エングレーヴィング、ドライポイント	和歌山県立近代美術館
1931(昭和6)		リノカット			和歌山県立近代美術館	7-2b	長谷川 潔	かぐや姫の生い立ち 『竹取物語』	1933(昭和8)年	エングレーヴィング、ドライポイント	和歌山県立近代美術館
6-31	前田 藤四郎	時計	1932(昭和7)		和歌山県立近代美術館	7-2	長谷川 潔	『竹取物語』	1933(昭和8)		和歌山県立近代美術館
6-32	川西 英	サーカス	1933(昭和8)	木版	和歌山県立近代美術館	7-3	三木 辰夫	ギャンプリング	1933(昭和8)頃		和歌山県立近代美術館
6-33	北村 今三	秋色の阪神パーク <新日本百景>				7-4	今 純三	風景	1936(昭和11)		ドライポイント
1939(昭和14)		木版			和歌山県立近代美術館	7-5	今 純三	松尾鉱山精錬場	1938(昭和13)		エッチング
6-34	春村 ただを	[風景]	1928(昭和3)	木版	和歌山県立近代美術館	7-6	武藤 完一	蘇州風景	1940(昭和15)		エッチング、ドライポイント
6-35	川上 澄生	クイン 『HANGA』第1号表紙				7-7	武藤 完一	支那の裏町	1942(昭和17)		エッチング
1924(大正13)		木版			和歌山県立近代美術館	7-8	武藤 完一	造船所	1950(昭和25)		エッチング
6-36	深澤 索一	土蔵のある風景 『HANGA』第3号表紙				7-9	関野 準一郎	河畔	1936(昭和11)		エッチング
1924(大正13)		木版			和歌山県立近代美術館	7-10	関野 準一郎	埠頭裏	1937(昭和12)		エッチング
6-37	徳力 富吉郎	『大衆版画』第1輯表紙				7-11	神原 浩	銀汀(波切風景)	1936(昭和11)		エッチング、アクアチント
1931(昭和6)		木版			和歌山県立近代美術館	7-12	曾我尾 武治	船の修理所	1936(昭和11)		エッチング
6-38a	麻田 辨次	井上雪子 『大衆版画』第2輯表紙				7-13	高羽 敏	石仏と子供	1942(昭和17)		エッチング
1931(昭和6)		木版			和歌山県立近代美術館	7-14	高羽 敏	草	1943(昭和18)		ドライポイント
6-38b	武田 新太郎	『黄楊』創刊号表紙	1933(昭和8)	木版	和歌山県立近代美術館	7-15	西田 武雄	岡崎夫人像	1937(昭和12)頃		エッチング、ドライポイント
6-39	北村 今三	駅構内の風景 『黄楊』創刊号所収				7-16	笠木 實	のぶ	1940(昭和15)		エッチング、ドライポイント
1933(昭和8)		木版			和歌山県立近代美術館	7-17	駒井 哲郎	河岸	1935(昭和10)		エッチング
6-40	西村 眞琴	『さとぼろ』第1巻第5号表紙	1925(大正14)	木版	個人蔵	7-18	駒井 哲郎	足場	1942(昭和17)		[1975(昭和50)年刷] エッチング
6-41	高久 彌太郎	『さとぼろ』第2巻第4号表紙				7-19	織田 一磨	井ノ頭の池	1931(昭和6)		リトグラフ
1926(大正15)		木版			個人蔵	7-20	田辺 至	裸婦	1933(昭和8)		リトグラフ
6-42	栗山 茂	オセアニヤ土蛮画 『ゆうかり』第3輯表紙				7-21	田坂 乾	西便門外(北京)	1938(昭和13)		リトグラフ
1931(昭和6)		木版			和歌山県立近代美術館	7-22	村井 正誠	ポウトレ・アラブ	1930(昭和5)頃		リトグラフ
6-43	仲村 岳	『ゆうかり』第14輯表紙	1933(昭和8)	木版	和歌山県立近代美術館	7-23	梅原 龍三郎	座裸婦 <裸婦十題>	1930(昭和5)		木版、ステンシル
6-44	田川 憲一	酔ひどれ船『版画長崎』第5輯所収				7-24	安井 曾太郎	外房風景 <安井曾太郎版画集>	1932(昭和7)		木版
1935(昭和10)		木版			和歌山県立近代美術館						輝開
6-45	棟方 志功	佛婦裸体 『青森版画』創刊号表紙									
1939(昭和14)		木版			和歌山県立近代美術館						
6-46	伊東 健乃典	瓦斬タンク 『九州版画』第24号表紙	1941(昭和16)	木版	和歌山県立近代美術館						
6-47	藤牧 義夫	都会風景 『新版画』第3号所収	1932(昭和7)	木版	和歌山県立近代美術館						
6-48	藤牧 義夫	『新版画』第4号 都市田園診断号表紙	1932(昭和7)	木版	和歌山県立近代美術館						
6-49	藤牧 義夫	鉄の橋 『新版画』第10号 第3回展覧会開催記念号所収	1933(昭和8)	木版	和歌山県立近代美術館						
6-50	藤牧 義夫	つき 『新版画』第12号 第4回展覧会記念号所収	1934(昭和9)	木版	和歌山県立近代美術館						
6-51	藤牧 義夫	『新版画』第14号表紙	1934(昭和9)	木版	和歌山県立近代美術館						
6-52	清水 正博	『新版画』第16号 都市貫流特輯号表紙	1935(昭和10)	木版	和歌山県立近代美術館						

◆第7章 社会のなかで—日本版画協会のころ

7-25	安井 曾太郎	画家とモデル〈安井曾太郎版画集〉	木版	和歌山県立近代美術館
1934(昭和9)	木版	和歌山県立近代美術館		
7-26	碓 伊之助 金鳳花	1931(昭和6)	木版	和歌山県立近代美術館
7-27	碓 伊之助 南仏の田舎娘	1931(昭和6)頃	木版	和歌山県立近代美術館
7-28	鷹山 宇一 月の形象	1933(昭和8)	木版	和歌山県立近代美術館
7-29	逸見 享 サボテンのある風景	1932(昭和7)	木版	和歌山県立近代美術館
7-30	旭 正秀 四人の使徒	1933(昭和8)	木版	和歌山県立近代美術館
7-31	谷中 安規 ムッテル・ショウス(ムッター・ハウス)	1933(昭和8)	木版・手彩	和歌山県立近代美術館
7-32	谷中 安規 ドラゴンズドリーム	1939(昭和14)頃	木版	和歌山県立近代美術館
7-33	前川 千帆 夏の花	1939(昭和14)	木版	輝開
7-34	朝井 清 ぼんぶをおす男	1933(昭和8)	木版	和歌山県立近代美術館
7-35	杉本 義夫 海女	1932(昭和7)	木版	和歌山県立近代美術館
7-36	新田 穰 卓上静物	1944(昭和19)	木版	和歌山県立近代美術館
7-37	宇治山 哲平 段々島と無花果	1936(昭和11)	木版	和歌山県立近代美術館
7-38	斎藤 清 鏡(自画像)	1938(昭和13)頃	木版	福島県立美術館
7-39	水船 六洲 裸婦	1939(昭和14)	木版	和歌山県立近代美術館
7-40	勝平 得之 みろり〈秋田風俗十題〉	1939(昭和14)	木版	和歌山県立近代美術館
7-41	畦地 梅太郎 草津白根山	1940(昭和15)	木版	和歌山県立近代美術館
7-42	川西 英 古道具屋	1941(昭和16)	木版	和歌山県立近代美術館
7-43	平塚 運一 湖へゆく道、信州木崎湖	1933(昭和8)	木版	輝開
7-44	平塚 運一 高野山奥の院	1941(昭和16)	木版	和歌山県立近代美術館
7-45	北川 民次 メキシコの浴み	1941(昭和16)	[小野忠重 摺]	木口木版 和歌山県立近代美術館
7-46	恩地 孝四郎 南海への思念	1942(昭和17)	木版	和歌山県立近代美術館
7-47	杉原 正巳 作品2〈版画集〉	1944(昭和19)頃	木版	和歌山県立近代美術館
7-48	杉原 正巳 作品4〈版画集〉	1944(昭和19)頃	木版	和歌山県立近代美術館
7-49	加藤 太郎 朴	〈版画集〉 1938(昭和13)頃	木版	和歌山県立近代美術館
7-50	加藤 太郎 トンボ	〈版画集〉 1944(昭和19)頃	木版	和歌山県立近代美術館
7-51	平塚 運一 『きつつき』創刊号表紙	1930(昭和5)		
7-52	前田 藤四郎 粉飾術 『きつつき』第3号 静物号所収	1931(昭和6)		和歌山県立近代美術館
7-53	料治 朝鳴 からたちの花 『白と黒』[第1次]第25号表紙	1932(昭和7)	木版	和歌山県立近代美術館
7-54	棟方 志功 貴女行路 『白と黒』[第1次]第26号所収	1932(昭和7)	木版	和歌山県立近代美術館
7-55	棟方 志功 蝶々と女『白と黒』[第1次]第27号所収	1932(昭和7)	木版	和歌山県立近代美術館
7-56	谷中 安規 シネマ『白と黒』[第1次]第28号 特輯新秋号所収	1932(昭和7)	木版	和歌山県立近代美術館
7-57	谷中 安規 髪模様『白と黒』[第1次]第37号表紙	1933(昭和8)	木版	和歌山県立近代美術館
7-58	若山 八十氏 『孔版』創刊号表紙	1942(昭和17)	謄写版	和歌山県立近代美術館
7-59	小泉 與吉 『謄写版』第1巻第2号表紙	1935(昭和10)	謄写版	和歌山県立近代美術館
7-M1	『エッチング』87号(2月号) 表紙掲載作品：長谷川潔 静物(花)	1940(昭和15)		冊子(雑誌) 和歌山県立近代美術館
7-M2	『エッチング』95号(11月号) 表紙掲載作品：笠木實 のぶ	1940(昭和15)		冊子(雑誌) 和歌山県立近代美術館
7-M3	『エッチング』106号(11月号) 表紙掲載作品：駒井哲郎 河岸	1941(昭和16)		冊子(雑誌) 和歌山県立近代美術館
7-M4	『エッチング』111号(4月号)表紙掲載作品：高羽敏 石仏と子供	1942(昭和17)		冊子(雑誌) 和歌山県立近代美術館
◆第8章 版画の戦後—再生、そして世界へ				
8-1	棟方志功 二菩薩釈迦十大弟子	1939(昭和14)	木版(二曲六隻屏風)	千葉市美術館
8-2	棟方志功 二菩薩釈迦十大弟子	1939/48(昭和14/23)	1967(昭和42)摺	木版(六曲一双屏風) 一般財団法人 棟方志功記念館
8-3	斎藤 清 ミルク	1949(昭和24)	木版	福島県立美術館
8-4	斎藤 清 凝視(花)	1950(昭和25)	木版	福島県立美術館
8-5	駒井 哲郎 東の間の幻影	1951(昭和26)		サンドペーパーによるエッチング 福島県立美術館
8-6	駒井 哲郎 海底の祭	1951(昭和26)	メゾチント、ソフトグラウンドエッチング	福島県立美術館
8-7	恩地 孝四郎	フォルム No.14 グロテスク(II)	1952(昭和27)	マルチブロック 和歌山県立近代美術館
8-8	恩地 孝四郎	ポエム No.22 葉っぱと雲	1953(昭和28)	マルチブロック 和歌山県立近代美術館
8-9	山口 源 能役者	1958(昭和33)	木版	福島県立美術館
8-10	品川 工 息吹き	1959(昭和34)	木版	和歌山県立近代美術館



8-11	吉田 政次 地の泉 No.1	1956(昭和 31)	木版	和歌山県立近代美術館	8-36	加納 光於 星・反芻学 II	1962(昭和 37)	イ ンタリオ	福島県立美術館
8-12	上阪 雅人 鉄橋	1950(昭和 25)	木版	和歌山県立近代美術館	8-37	村井 正誠 風	1962(昭和 37)	リトグラフ	和歌山県立近代美術館
8-13	萩原 英雄 石の花(赤)	1960(昭和 35)	木版	和歌山県立近代美術館	8-38	村井 正誠 黒い太陽	1962(昭和 37)	リトグラフ	和歌山県立近代美術館
8-14	吹田 文明 開かれた世界	1967(昭和 42)	木版	和歌山県立近代美術館	8-39	オノサト トシノブ 二つの円 緑・赤	1959(昭和 34)	リトグラフ	和歌山県立近代美術館
8-15	関野 準一郎 ニコライ堂(聖堂)	1950(昭和 25)	和	青森県立美術館	8-40	岩根 豊秀 ひなげし	1951(昭和 26)	謄写版	和歌山県立近代美術館
8-16	関野 準一郎 郊外の景	1948 / 50(昭和 23 / 25)	メ ゾチント	青森県立美術館	8-41	岩根 豊秀 彦根城の石垣	制作年不詳	謄 写版	和歌山県立近代美術館
8-17	関野 準一郎 フィレンツェの屋根	1959(昭和 34)	木版	和歌山県立近代美術館	8-42	福井 良之助 静物	制作年不詳	謄 写版	和歌山県立近代美術館
8-18	長谷川 潔 玻璃球のある静物	1959(昭和 34)	メ ゾチント	福島県立美術館	8-43	福井 良之助 けし(2)	1959(昭和 34)	謄 写版	和歌山県立近代美術館
8-19	長谷川 潔 狐と葡萄(ラ・フォンテーヌ寓話)	1963(昭和 38)	メ ゾチント	福島県立美術館	8-44	若山 八十氏 妖	1963(昭和 38)	謄 写版(和紙孔版)	和歌山県立近代美術館
8-20	浜口 陽三 スペイン風油入れ	1954(昭和 29)	メ ゾチント	和歌山県立近代美術館	8-45	若山 八十氏 浮	1967(昭和 42)	謄 写版(和紙孔版)	和歌山県立近代美術館
8-21	浜口 陽三 パリの屋根	1956(昭和 31)	カラーメ ゾチ ント	和歌山県立近代美術館	8-46	清水 武次郎 白い花	1960(昭和 35)	謄 写版(和紙孔版)	和歌山県立近代美術館
8-22	浜口 陽三 青いガラス	1957(昭和 32)	カラーメ ゾチ ント	和歌山県立近代美術館	8-47	清水 武次郎 曲	1963(昭和 38)	謄 写版(和紙孔版)	和歌山県立近代美術館
8-23	浜口 陽三 19と1つのさくらんぼ	1965(昭和 40)	カラーメ ゾチ ント	和歌山県立近代美術館	8-M1	関野 準一郎 銅版画頒布会第一回作品・聖堂・解 説	1950(昭和 25)	謄 写版	青森県立美術館
8-24	浜田 知明 初年兵哀歌(歩哨)	1951(昭和 26)	エッチング、 アクアチ ント	福島県立美術館(河野保雄コレクション)	8-M2	関野 準一郎 銅版画頒布会第二回作品・郊外の景・ 解説	1950(昭和 25)	謄 写版	青森県立美術館
8-25	浜田 知明 初年兵哀歌(歩哨)	1954(昭和 29)	エッチング、 アクアチ ント	福島県立美術館	8-M3	関野 準一郎 エッチング頒布会十二回完了の為 のお願い	1952(昭和 27)	謄 写版	青森県立美術館
8-26	深沢 幸雄 ダンテ『神曲』(地獄篇)より プルネット・ラティエ ニ	1956(昭和 31)	エッチング、 ディープエ ッチング、 ソフトグラ ンドエッチ ング、ルー レット	和歌山県立近代美術館	◆第9章 版への問い—版画の「現代」				
8-27	深沢 幸雄 めし	1956(昭和 31)	メ ゾチ ント	和歌山県立近代美術館	9-1	横尾 忠則 「腰巻お仙」ポスター	1966(昭和 41)	シ ルクスク リーン	和歌山県立近代美術館
8-28	瑛九 旅人	1957(昭和 32)	リトグラフ	和歌山県立近代美術館	9-2	横尾 忠則 「第6回東京国際版画ビエンナーレ展」ポスター	1968(昭和 43)	オフセ ット	和歌山県立近代美術館
8-29	泉 茂 深夜のセロ弾き	1954(昭和 29)	エッチング、 アクアチ ント	和歌山県立近代美術館	9-3	両角 修 No.13	1972(昭和 47)	木版	和 歌山県立 近代美術 館
8-30	泉 茂 インディアン	1956(昭和 31)	リトグラフ	和歌山県立近代美術館	9-4	百瀬 寿 S-Silver and Gold by Silver and Gold	1986(昭和 61)	シルク スクリー ン	福島県立美術館
8-31	鬘嘸 田園	1956(昭和 31)	リトグラフ	和歌山県立近代美術館	9-5	吉原 英雄 シーソー 1	1968(昭和 43)	リト グラフ、 エッチ ング	和歌山県立近代美術館
8-32	池田 満寿夫 女・動物たち	1960(昭和 35)	ドライポ イント、 アクアチ ント	国立国際美術館	9-6	鬘嘸 レインボー北斎 ポジション A	1970(昭和 45)	シルク スクリー ン、コ ラー ジュ	福島県立美術館
8-33	池田 満寿夫 ヴォーグから来た女	1966(昭和 41)	ドライポ イント、 エッチ ング、 エン グ レー ヴィ ン グ	国立国際美術館	9-7	井田 照一 Stone, Paper and Stone	1976(昭和 51)	リト グラフ (両面 刷)	和歌山県立近代美術館
8-34	菅井 汲 サムライ	1958(昭和 33)	リトグラフ	和歌山県立近代美術館	9-8	木村 光佑 現在位置—存在(A)	1970(昭和 45)	リト グラフ、 シルク スクリー ン	和歌山県立近代美術館
8-35	加納 光於 星・反芻学 I	1961(昭和 36)	イ ンタ リオ	和歌山県立近代美術館	9-9	黒崎 彰 闇のコンポジション A	1970(昭和 45)	木 版	福島県立美術館
					9-10	高松 次郎 英語の単語	1970(昭和 45)	オフ セ ット リ ト グ ラ フ	和歌山県立近代美術館

- 9-11 吉田 克朗 Work 9 1970(昭和 45) シルクスクリーン 和歌山県立近代美術館  
和歌山県立近代美術館
- 9-12 李 禹煥 関係項-B 1979(昭和 54) 木版 和歌山県立近代美術館
- 9-13 李 禹煥 遺跡地にて 2 1984(昭和 59) リトグラフ 福島県立美術館
- 9-14 木村 秀樹 Pencil 2-3 1974(昭和 49) シルクスクリーン 和歌山県立近代美術館
- 9-15 齋藤 智 Untitled C 1976(昭和 51) シルクスクリーン 和歌山県立近代美術館
- 9-16 一原 有徳 ZOP 84 1984(昭和 59) モノタイプ 和歌山県立近代美術館
- 9-17 小枝 繁昭 Still Life on the Table #3 1990(平成 2) シルクスクリーン、アクリル絵具 和歌山県立近代美術館
- 9-18 小林 敬生 蘇生の刻 S63-12 1988(昭和 63) 木口木版、コラージュ 和歌山県立近代美術館
- 9-19 辰野 登恵子 May-7-91 1991(平成 3) リトグラフ 福島県立美術館
- ◆第 10 章 版に託す—私、心、イメージ
- 10-1 清宮 質文 ある空間(蝶) 1962(昭和 37) 木版 福島県立美術館
- 10-2 清宮 質文 九月の海辺 1970(昭和 45) 木版 福島県立美術館
- 10-3 斎藤 清 会津の冬(1) 1970(昭和 45) 木版 福島県立美術館
- 10-4 野田 哲也 日記 1976 年 8 月 19 日 1976(昭和 51) 木版、シルクスクリーン 福島県立美術館
- 10-5 山中 現 第二夜 1984(昭和 59) 木版 福島県立美術館
- 10-6 日和崎 尊夫 KALPA-X 1969(昭和 44) 木口木版 福島県立美術館
- 10-7 日和崎 尊夫 KALPA-夜 1972(昭和 47) 木口木版 福島県立美術館
- 10-8 柄澤 齊 肖像画Ⅳ アルチュール・ランボー 1982(昭和 57) 木口木版 福島県立美術館
- 10-9 柄澤 齊 肖像画Ⅶ シャルル・ボードレー 1983(昭和 58) 木口木版 福島県立美術館
- 10-10 秀島 由己男 風の舟 A 1981(昭和 56) メゾチント 福島県立美術館
- 10-11 菊池 伶司 Writing-Lecture 1968(昭和 43) エッチング、アクアチント 和歌山県立近代美術館
- 10-12 北川 健次 午後 1975(昭和 50) エッチング、アクアチント 和歌山県立近代美術館
- 10-13 清原 啓子 久生十蘭に捧ぐ 1982(昭和 57) / 1988(昭和 63) [深沢幸雄監修による没後刷] エッチング 和歌山県立近代美術館
- 10-14 安部 直人 卵型二態Ⅲ 1990(平成 2) ディープエッチング、メゾチント 福島県立美術館
- 10-15 中林 忠良 転位 '82-地-II (秋) 1982(昭和 57) エッチング、アクアチント 和歌山県立近代美術館
- 10-16 長岡 國人 Homage to 6 Japanese Nobel Prize Winners No. 1 1986(昭和 61) エッチング、フロッタージュ、アクアチント 和歌山県立近代美術館
- 10-17 池田 良二 cape watershed (岬の分水嶺) 1988(昭和 63) フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント 和歌山県立近代美術館
- 10-18 山口 啓介 繭の記憶 1991(平成 3) エッチング 国立国際美術館
- 10-19 藤田 修 Visitor 1993(平成 5) フォトエッチング、エッチング、アクアチント 和歌山県立近代美術館
- 10-20 山本 桂右 光・時間・静寂 No.13 1995(平成 7) リトグラフ 和歌山県立近代美術館
- 10-21 大宮 政郎 ミリオンカラットの友人たちⅢ (宮沢賢治) 1987(昭和 62) エッチング / 綿 福島県立美術館
- 10-22 太田 三郎 POST WAR 46-47 兵士の肖像 1994(平成 6) コピー 和歌山県立近代美術館
- 10-22a ・堀山新太郎(1921-1944) 1992 年 7 月 2 日 朝日新聞東京版夕刊掲載
- 10-22b ・中山成雄(1913-1940) 1992 年 9 月 3 日 朝日新聞東京版夕刊掲載
- 10-22c ・兵藤春次郎(1922-1946) 1992 年 9 月 10 日 朝日新聞東京版夕刊掲載
- 10-22d ・村田弘道(1918-1944) 1992 年 10 月 1 日 朝日新聞東京版夕刊掲載
- 10-22e ・松山孝次(1926-1945) 1993 年 4 月 1 日 朝日新聞東京版夕刊掲載
- 10-22f ・片田彰吾(1915-1944) 1993 年 4 月 8 日 朝日新聞東京版夕刊掲載
- 10-22g ・片田四郎(1917-1945) 1993 年 4 月 8 日 朝日新聞東京版夕刊掲載

#### (4) 福島県立美術館の名画たち



A4 チラシ

会期：令和2年9月12日(土)～11月8日(日) 開催日数49日  
会場：小峰城歴史館（白河市郭内 1-73）  
分野：日本画・洋画・版画  
展示数：48点  
観覧料：一般300(250)円、小・中・高校生100(50)円、障がい者100(50)円 \* ( )内は20名以上の団体料金  
観覧者数：4,244名  
担当：坂本篤史、宮武弘

主催：白河市、福島県立美術館

#### 概要：

福島県立美術館は、2020年9月から3月31日まで、改修工事のため休館中であり、その間、作品3,929点、資料69件（2019年7月現在）にのぼるコレクションを館内で常設展示することができない。福島県の貴重な文化資源を有効に活用してその豊かさと価値、多様性を広く県民と共有するという、福島県立美術館としての機能を中断させることなく継続して果たすために、県内2か所（小峰城歴史館、喜多方市美術館）においてコレクションの移動展を開催した。

白河市の小峰城歴史館では、同地出身の洋画家・関根正二の作品を中心に、彼と同時代を生きた画家たちによる洋画のほか、近世から近代にかけての日本画もあわせて展示した。また令和元年度に白河市指定文化財に登録された関根の《老夫妻像》（白河市教育委員会蔵）が登録後としては初めて公開された。



展示風景

## 出品リスト：

[No./作家名/作品名/制作年/材質技法、形態/寸法(縦×横cm)/所蔵(特記のないものはすべて当館所蔵)]

## ◆関根正二と近代洋画の名品

- 1 関根 正二 死を思う日 大正 4 年 (1915) カンヴァス・油彩 75.8 × 56.4 寄託
- 2 関根 正二 風景 大正 4 年 (1915) 頃 カンヴァス・油彩 60.7 × 45.7 寄託
- 3 関根 正二 牛舎 大正 4 年 (1915) 頃 カンヴァス・油彩 36.4 × 48.6
- 4 関根 正二 [茅葺き農家のある風景] 大正 5 年 (1916) カンヴァス・油彩 36.3 × 51.4 寄託
- 5 関根 正二 菊川橋 大正 5 年 (1916) 紙・インク 37.0 × 57.0
- 6 関根 正二 自画像 大正 5 年 (1916) 頃 紙・インク 27.8 × 19.1
- 7 関根 正二 裏の娘 大正 6 年 (1917) 紙・水彩、パステル、鉛筆 29.4 × 21.7
- 8 関根 正二 井上郁像 大正 6 年 (1917) カンヴァス・油彩 65.0 × 53.0 寄託
- 9 関根 正二 真田吉之助夫妻像 大正 7 年 (1918) カンヴァス・油彩 53.0 × 80.3
- 10 関根 正二 一本杉の風景 大正 7 年 (1918) 頃 カンヴァス・油彩 38.0 × 45.2
- 11 関根 正二 姉弟 大正 7 年 (1918) カンヴァス・油彩 80.5 × 60.5
- 12 関根 正二 信仰 大正 7 年 (1918) 紙・インク、パステル 15.9 × 11.9
- 13 関根 正二 神の祈り 大正 7 年 (1918) 頃 カンヴァス・油彩 68.2 × 40.8
- 14 関根 正二 自画像 大正 7 年 (1918) カンヴァス・油彩 53.0 × 41.0
- 15 関根 正二 村岡黒影宛はがき 大正 7 年 (1918) 2 月 13 日 官製はがき・青インク 14.2 × 8.9
- 16 関根 正二 村岡黒影宛書簡(姉弟) 大正 7 年 (1918) 5 月 20 日 野線紙・青インク 20.7 × 33.2
- 17 「慰められつつ悩む」絵はがき 大正 7 年 (1918) 私製はがき 14.1 × 9.0 寄託
- 18 『信仰の悲み 関根正二 遺作展覧会』目録(兜屋画堂発行) 大正 8 年 (1919) 22.3 × 15.2
- 19 関根 正二 老夫妻像 大正 6 年 (1917) 紙・鉛筆 各 46.5 × 34.0 白河市歴史民俗資料館(特別出品)
- 20 高橋 由一 鐸木西美像 明治 14 年 (1881) カンヴァス・油彩 45.8 × 38.3
- 21 高橋 由一 栗子山昔時景 明治 14 年 (1881) 頃 カンヴァス・油彩 36.1 × 60.9
- 22 藤島 武二 夜の黄唄江 昭和 16 年 (1941) 頃 板・油彩 24.0 × 33.1 河野保雄コレクション
- 23 安井 曾太郎 ターブルの上 明治 45/大正元年 (1912) カンヴァス・油彩 46.2 × 55.1
- 24 上野山 清貢 ムッシュ O の肖像 大正 4 年 (1915) カンヴァス・油彩 65.2 × 53.2
- 25 岸 田劉生 自画像 大正 3 年 (1914) カンヴァス・

油彩 45.7 × 38.3

- 26 長谷川 利行 浅草の女 昭和 10 年 (1935) カンヴァス・油彩 45.5 × 37.9
- 27 川口 軌外 柘榴 昭和 7 年 (1932) カンヴァス・油彩 38.0 × 72.8
- 28 木村 荘八 樹の下に遊んでいる子供 大正 15/昭和元年 (1915) カンヴァス・油彩 60.8 × 80.6
- 29 長谷部 英一 二人の少女 不詳 カンヴァス・油彩 33.5 × 45.6
- 30 村山 槐多 樹木(けやき) 大正 6 年 (1917) 頃 紙・木炭 62.6 × 46.8
- 31 松本 竣介 駅 昭和 17 年 (1942) 板・油彩 38.0 × 45.6

## ◆日本画の名品

- 32 蠣崎 波響 鍾馗・雉子・鴛鴦 文化 9 年 (1812) 絹本著色、軸装(三幅対) 各 99.6 × 38.8
- 33 熊坂 適山 百花の図 嘉永 7/安政元年 (1854) 絹本著色、軸装 140.1 × 85.3
- 34 高久 隆古 山郵馬市図 弘化 5/嘉永元年 (1848) 絹本墨画淡彩、軸装 44.5 × 82.0
- 35 下村 観山 寒空 大正 12 年 (1923) 絹本著色、軸装 44.0 × 94.0
- 36 結城 素明 牡丹図 不詳 絹本著色 36.0 × 102.0
- 37 安田 鞞彦 茶室 昭和 37 年 (1962) 紙本著色 130.6 × 75.2
- 38 小茂田 青樹 農婦 大正 3 年 (1914) 頃 絹本著色、軸装 85.5 × 57.0
- 39 伊東 深水 春光 大正 11 年 (1922) 頃 絹本著色、軸装 140.8 × 47.6
- 40 勝田 蕉琴 花鳥屏風 大正 2 (1913) 頃 絹本著色、二曲一隻屏風 169.0 × 175.0
- 41 湯田 玉水 野塘青松図 昭和 3 年 (1928) 紙本墨画、軸装 94.0 × 149.0
- 42 荻生 天泉 花卉虫鳥類写生図巻 大正 10 (1921) 紙本著色、卷子(二巻) 32.6 × 1486.3/32.4 × 1345.6
- 43 角田 磐谷 岩上双鳩の図 不詳 紙本著色、二曲一隻屏風 147.7 × 147.7
- 44 酒井 三良 水郷の一日 昭和 14 年 (1939) 紙本墨画淡彩、卷子 47.2 × 727.2
- 45 須田 珙中 篝火 昭和 34 年 (1959) 紙本著色、四曲一隻屏風 171.2 × 343.3
- 46 結城 天童 阿武隈川源流 昭和 59 年 (1984) 紙本著色 162.0 × 130.4

## ◆ミニコーナー 亜欧堂田善の銅版画

- 47 亜欧堂 田善 医範提綱内象銅版図 文化 5 年 (1808) 頃 紙・銅版 31.5 × 25.0
- 48 亜欧堂 田善 大日本金龍山之図 不詳 紙・銅版 25.5 × 52.4

(5) 福島県立美術館 世界の名作展



A4 チラシ

会期：令和2年10月18日(日)～11月17日(火) 開催日数27日  
会場：喜多方市美術館（喜多方市押切2）  
分野：西洋絵画・彫刻  
展示数：45点  
観覧料：一般・大学・短大・専門学校生300円、65歳以上75歳未満150円、高校生以下・75歳以上無料  
観覧者数：1,928名  
担当：橋本恵里、伊藤 匡

主催：喜多方市美術館、福島県立美術館

関連事業：

- ・福島県立美術館学芸員によるギャラリートーク  
講師：伊藤 匡（専門員）、橋本恵里（学芸員）  
日時：10月18日(日) ①14:00～15:00 ②15:10～16:10  
喜多方市美術館展示室  
参加者数：①18名 ②10名
- ・出張鑑賞授業  
①10月29日(木) 喜多方市立豊川小学校  
(5年生27名、6年生15名)  
②11月9日(日) 喜多方市立第一中学校（1年生90名）  
③11月11日(火) 喜多方市立山都中学校（1～3年生64名）  
④11月12日(木) 喜多方市立第一中学校（2年生86名）

概要：

喜多方市美術館での移動展では、フランス印象派や、ベン・シャーン、ワイエスらアメリカの画家たち、アメリカに渡って画家として名を遺した日本人作家たちの作品などを中心に展示した。喜多方市で開催する県立美術館所蔵作品展は1999年以来21年ぶりであり、所蔵の海外作品の優品をまとめて一挙で紹介できる好機であった。



展示風景



ギャラリートーク（10/18）

## ◆出品リスト：

[No./作家名/作品名/制作年/材質技法/寸法]

1	岸田 劉生	静物 (白き花瓶と台皿と林檎四個)					
1918	カンヴァス・油彩	45.5 × 53.0					
2	石井 柏亭	水車場	1927	カンヴァス・油彩			
60.9 × 73.1							
3	斎藤 与里	裏磐梯	1953	カンヴァス・油彩			
65.5 × 80.5							
4	カミーユ・コロー	ヴィル・ダヴレー 林をぬけてコロ一家へ向かう池沿いの道	1873	カンヴァス・油彩	50.0 × 65.3		
5	オノレ・ドーミエ	そんじよそこらで、てんやわんや9	1841	紙・リトグラフ	24.3 × 19.6		
6	オノレ・ドーミエ	古代史 14 オデッセウスとペネロペイア	1842	紙・リトグラフ	22.4 × 19.5		
7	オノレ・ドーミエ	古代史 18 時代の名言	1842	紙・リトグラフ	24.5 × 19.3		
8	オノレ・ドーミエ	古代史 40 カリュプソの嘆き	1842	紙・リトグラフ	24.6 × 20.1		
9	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	帽子を被る女	不詳	カンヴァス・油彩	30.0 × 25.5		
10	カミーユ・ピサロ	エラニーの菜園	1899	カンヴァス・油彩	73.0 × 92.0		
11	ポール・ゴーギャン	ブルターニュの子供	1889	紙・水彩、パステル	26.3 × 38.2		
12	ジョルジュ・ルオー	超人	1916	紙・油彩	104.3 × 74.0		
13	ジョルジュ・ルオー	ミセレーレ (1) 神よ、我を憐れみたまえ、御身の大きい慈悲によりて	1923(1948 刊行)	紙・銅版	57.4 × 41.9		
14	ジョルジュ・ルオー	流れる星のサーカス (2) 黒いピエロ	1935(1938 刊行)	紙・銅版	30.3 × 20.5		
15	ジョルジュ・ルオー	流れる星のサーカス (15) バレリーナたち	1934(1938 刊行)	紙・銅版	30.7 × 20.0		
16	マルク・シャガール	少年時代の思い出 (1)	1958	紙・銅版	34.7 × 26.7		
17	マルク・シャガール	少年時代の思い出 (8)	1958	紙・銅版	37.1 × 27.9		
18	マルク・シャガール	死せる魂 (3) 小さな町	1923-1925(1948 刊行)	紙・銅版	22.2 × 28.7		
19	マルク・シャガール	死せる魂 (9) 扉口でのマニーロフとチーチコフ	1923-1925(1948 刊行)	紙・銅版	28.7 × 22.1		
20	マルク・シャガール	死せる魂 (47) プリュエシキンは酒をすすめる	1923-1925(1948 刊行)	紙・銅版	21.3 × 27.8		
21	マルク・シャガール	死せる魂 (96) 夕暮れのトロイカ	1923-1925(1948 刊行)	紙・銅版	21.2 × 27.7		
22	フェルナン・レジェ	サーカス (26)	1950	紙・リトグラフ	42.2 × 64.1		
23	フェルナン・レジェ	サーカス (28)	1950	紙・リトグラフ	28.1 × 22.6		
24	フェルナン・レジェ	サーカス (30)	1950	紙・リトグラフ	31.4 × 26.7		
25	パブロ・ピカソ	二人の裸婦 (1)	1945.11.10	紙・リトグラフ	26.1 × 33.6		
26	パブロ・ピカソ	二人の裸婦 (3)	1945.11.21	紙・リトグラフ	26.0 × 34.3		
27	パブロ・ピカソ	二人の裸婦 (6)	1945.11.26	紙・リトグラフ	25.9 × 34.7		
28	パブロ・ピカソ	二人の裸婦 (9)	1946.01.10	紙・リトグラフ	28.3 × 37.0		
29	パブロ・ピカソ	二人の裸婦 (13)	1946.01.25	紙・リトグラフ	27.5 × 36.7		
30	パブロ・ピカソ	二人の裸婦 (18)	1946.02.12	紙・リトグラフ	32.4 × 42.9		
31	マックス・エルンスト	博物誌 (24) 14 歳以下の稲妻	1926	紙・フロッタージュ、コロタイプ	43.1 × 26.0		
32	マックス・エルンスト	博物誌 (26) 振り子時計の起源	1926	紙・フロッタージュ、コロタイプ	43.2 × 26.3		
33	マックス・エルンスト	博物誌 (29) 光の輪	1926	紙・フロッタージュ、コロタイプ	26.2 × 43.3		
34	アンドリュウ・ワイエス	そよ風	1978	紙・水彩	55.8 × 53.1		
35	アンドリュウ・ワイエス	ガニング・ロックス	1966	紙・水彩	48.1 × 61.1		
36	アンドリュウ・ワイエス	冬の水車小屋	1978	紙・水彩	58.4 × 72.4		
37	ベン・シャーン	選挙人登録・・・投票用紙はあなたの手中の「力」だ	1944	紙・オフセット	94.0 × 69.7		
38	ベン・シャーン	ラッキードラゴン	1960	綿布・テンペラ	214.5 × 122.0		
39	ジョン・スローン	サンタフェからの二人の女	1921	カンヴァス・油彩	60.9 × 51.4		
40	国吉 康雄	婦人と子供	1920	カンヴァス・油彩	101.7 × 61.0		
41	野田 英夫	牛乳ワゴン	1936	カンヴァス・油彩	51.5 × 61.1		
42	清水 登之	十四番街の地下鉄駅	1918	カンヴァス・油彩	50.0 × 61.0		
43	ヘンリー・ムーア	母と子：腕	1980	ブロンズ	64.0 × 79.7 × 46.8		
44	オーギュスト・ロダン	《影》の頭部	不詳(1995 铸造)	ブロンズ	66.3 × 38.0 × 35.0		
45	オーギュスト・ロダン	柱上のフナイユ夫人の胸像	1898-1900(1996 铸造)	ブロンズ	162.5 × 51.0 × 36.5		

◆企画展アンケート結果

アンケート記入方式：会期中毎日、展示室内に置かれたアンケートに観覧者が任意に記入。数値は%で示し、1%未満は四捨五入した。

展覧会名	ジャポニスム	大津絵展	版画の名作
会期 (開催日数)	3/24～4/18 (23日間)	5/19～6/28 (36日間)	7/11～8/30 (44日間)
1-性別			
女性	67.0	51.9	58.6
男性	33.0	48.1	41.4
2-年齢			
10歳未満	3.2	4.0	1.7
10代	6.5	1.3	3.4
20代	6.5	6.7	7.3
30代	6.9	11.4	7.8
40代	11.1	8.1	7.3
50代	23.1	17.4	17.3
60代	26.9	22.8	34.6
70代	15.8	24.8	16.2
80才以上	26.9	3.4	4.5
3-居住地			
福島市	65.8	60.9	50.0
中通り (福島市以外)	24.8	24.8	28.5
会津	4.0	6.0	11.1
浜通り	5.4	8.3	10.4
県外	11.4	14.7	20.9
4-職業			
勤めている	49.1	48.3	47.6
自営	8.6	12.8	8.2
主婦・主夫	18.0	10.7	8.8
学生・児童	11.7	5.4	10.0
就労していない	12.6	22.8	25.3
その他	0	0	0
5-交通手段			
自家用車など	77.1	70.3	74.6
公共交通機関	9.7	17.4	16.8
タクシー	12.3	0	0.5
自転車・徒歩	0.9	12.3	7.6
観光バス・ レンタカー	0	0	0.5
その他	0	0	0
6-来館人数			
1人	48.0	57.7	49.5
2人	39.6	30.8	39.1
3～5人	12.3	9.6	10.3
6～9人	0	1.9	1.1
10人以上	0	0	0
7-情報入手方法			
ポスター	20.8	17.0	19.7
チラシ	14.8	19.4	21.8
美術館ニュース	6.8	9.2	6.7
当館HP	4.9	11.7	10.5
HP(当館以外)	2.6	6.3	8.0

展覧会名	ジャポニスム	大津絵展	版画の名作
会期 (開催日数)	3/24～4/18 (23日間)	5/19～6/28 (36日間)	7/11～8/30 (44日間)
Facebook	0.5	1.5	0.8
Twitter	0.8	1.5	0.8
Instagram	0	0.5	0
新聞	15.6	14.1	15.1
テレビ番組	7.3	3.9	0.8
テレビCM	14.8	1.0	2.5
ラジオ	0.3	0.5	0
人から聞いて	6.5	8.7	7.1
県政番組・ 広報誌等	1.0	1.0	0.8
雑誌・タウン誌	1.6	1.9	1.3
看板	1.6	1.9	2.9
その他	0	0	0.8
8-展覧会の評価			
たいへんよい	67.1	55.1	58.6
よい	29.8	36.5	28.7
ふつう	2.2	5.8	12.7
あまりよくない	0.9	2.6	0
悪い	0	0	0
9-利用回数			
はじめて	8.5	12.3	14.4
数年に1回	19.2	14.3	12.7
年に1～2回	40.6	27.9	34.3
年に3～5回	25.9	37.0	27.1
年に6～9回	4.5	7.1	8.8
年に10回以上	1.3	1.3	2.8
10-展覧会以外の美術館利用			
講演会	11.2	20.5	14.9
美術鑑賞講座	12.7	12.2	11.3
創作プログラム・ ワークショップ	6.1	8.3	8.5
ギャラリートーク	8.6	12.8	14.9
コンサート	9.6	5.8	5.7
レストラン	25.4	23.1	25.5
庭園	26.4	17.3	19.1
その他	0	0	0
11-今後開催を希望する展覧会			
日本画	24.0	28.8	20.0
日本の洋画	7.5	9.6	9.6
海外の美術	26.6	18.3	19.1
版画	3.2	8.7	7.8
彫刻	7.5	7.7	11.3
工芸	15.3	4.8	13.0
書	2.3	1.9	0.9
写真	6.5	10.6	8.7
デザイン	6.5	6.7	7.0
その他	0.6	2.9	2.6

# 美術館観覧者数一覧表

令和2年度観覧者数一覧

令和2年11月30日現在(単位:人)

展覧会名	開催期間	有 料										無 料			観覧者総計
		個		団 体		前売券等		年 間 観 覧 券		有 料 合 計	無 料 ・ 招 待 等	観 覧 者 総 計			
		一般・大学生	高校生	小中学生	小 計	一般・大学生	高校生	小中学生	小 計						
第Ⅰ期～第Ⅱ期 ※4月19日～5月15日臨時休館 移動美術館 ※合計に含めず 「福島県立美術館の名画たち」9/12～11/8 「世界の名作展」10/18～11/17	107日間	438		251	438				0	298	736	414	1,150		
企画観覧券で常設展を観覧	通年											2,759	2,759		
免除者(100/100)学校教育活動	通年											大学	0		
免除者(100/100)学校引率者	通年												0		
免除者(50/100)県又は市町村主催	通年												0		
常設無料入館 (こどもの日)	5月5日												0		
" (県民の日)	8月21日												0		
" (敬老の日)	9月20日												0		
" (文化の日)	11月3日												0		
小中高校生無料入館	通年												0		
"	"												0		
"	"												0		
"	"												0		
小 計		438	0	0	438	0	0	0	0	298	736	3,482	4,218		
<b>1 プダベスト国立工芸美術館名品展</b> ※4月19日～5月10日臨時休館	4/1～4/18 16日間	799	26	33	858	7			7	636	1,683	302	1,985		
<b>2 大津絵展</b>	5/19～6/28 38日間	1,126	8	26	1,160				0	185	1,354	613	1,967		
<b>3 近現代版画の名作2020</b>	7/11～8/30 44日間	2,128	37	32	2,197				0	252	2,455	750	3,205		
小 計		4,053	71	91	4,215	7	0	0	7	642	5,492	1,665	7,157		
年賀状展入館者数													0		
その他													0		
教育普及事業、講演会、コンサート、シンポジウム、館長講座、博物館実習参加者、内覧会など													540		
小 計													540		
合 計		4,491	71	91	4,653	7	0	0	7	642	6,228	5,687	11,915		

※ジャポニスム展のみ、次のように読み替えます。「一般・大学生」→「一般」、「高校生」→「大学・専門」、「小中学生」→「小中高」



## 1 調査研究

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施している。

## (1) 調査活動

令和2年度は、県内の美術品調査と、県内出身作家やゆかりの作家、収集作家（渡辺光徳、斎藤清、李禹煥ら所蔵版画家、関根正二、喜多方美術倶楽部関係作家など）の調査を重点的に行った。

## (2) 研究紀要

福島県立美術館研究紀要第6号を発行した。

- ・B5版81ページ、発行部数600部
- ・執筆者

伊藤 匡「関根正二最後の一年」

増淵鏡子「森田恒友 西山泊雲宛書簡 翻刻（一）」

橋本恵里「報告：視覚障害者との美術鑑賞事業—『触って話して見て楽しむ美術鑑賞ワークショップ』の実践」

荒木康子「報告：コレクション・トークイベント『宮崎進の作品を語る』」

坂本篤史「ジョルジュ・ルオー作《超人》について—ルオーとウォルター・パッチ、ジョン・クインの書簡の分析を中心に」

美術をより深く知る喜びを得る機会を提供する事業として、さまざまな講座を開催している。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、学校と連携しての出張実技講座を行っている。

## 1 館内解説

当館では以下のような館内解説を行っている。

## (1) 団体解説

当館では、解説を予め申し込んだ学校や公民館などの団体に対し、美術館の概要、鑑賞のマナー、代表的な収蔵作品の解説、常設展示や企画展示の概要等のガイダンスを行っている。

令和2年度の団体総数は4団体102人、そのうち解説を行ったのは1団体15人である。

## (2) 質問電話

展示室の各所に「質問電話」を設置し、展示品や美術全般についての観覧者からの質問に学芸員が直接応答するユニークなホットライン・サービスを行っている。

## (3) 解説シート

常設展示室に展示中の作家・作品の解説シートを設置している。

## 2 鑑賞講座

館長講座「古典に帰れ—西洋美術の巨匠たち—ルネサンスからロマン派まで」 ※令和元年度延期講座の振替

第6回「バロック(2)レンブラント、フェルメール」

講師：早川博明（前館長）

日時：令和2年8月29日(土) 10:30～12:00 美術館講義室

参加者数：21名

## 3 創作プログラム

広く県民各層の美術に関する関心をふまえ、美術の創作と鑑賞の一助とする目的で、子どもから大人まで幅広い対象に応じた各種プログラムを実施している。

## ① ガラスフュージングを楽しもう

→新型コロナウイルス拡大防止のため延期（⑧）

日時：令和2年4月19日(日) 10:00～12:00、14:00～16:00

講師：近岡令氏（ガラス作家）

## ② 大津絵描いちゃう？ →中止

日時：令和2年5月30日(土) 13:00～15:00

講師：軸原ヨウスケ氏（デザイナー、アウト・オブ・アート民藝勉強家）

③ミニ大津絵をつくろう！

日時：令和2年6月13日(出)、14日(回) 各日 14:00～16:00  
 講師：白木ゆう美（副主任学芸員）、大北 孝（主任学芸員）  
 会場：美術館エントランスホール 参加者総数：26名



④白黒コピー×モノタイプ

日時：令和2年7月19日(回) 10:00～11:00  
 講師：大北 孝（主任学芸員）  
 会場：美術館実習室 参加者数：3名



⑤建築廃材で小さなまちをつくろうー木製ブックスタンド制作ー

日時：令和2年8月22日(出) 10:00～12:00、14:00～16:00  
 講師：門馬美喜氏（画家）  
 会場：美術館実習室 参加者数：14名



⑥三原色で描く水彩画（入門）

日時：令和2年9月13日(回) 10:30～15:00  
 講師：伊藤将和氏（画家・上越教育大学准教授）  
 会場：福島市アクティブシニアセンター AOOZ（アオウゼ）大活動室4 参加者総数：10名



⑦リトルモンスターを作ろう！

日時：令和2年10月17日(出) 14:00～15:30  
 講師：宮嶋結香氏（画家）  
 会場：福島市子どもの夢を育む施設こむこむ つくろうの部屋  
 参加者数：21名



⑧ガラスフュージングを楽しもう

日時：令和2年10月25日(回) 10:00～12:00、14:00～16:00  
 講師：近岡 令氏（ガラス作家）  
 会場：福島市アクティブシニアセンター AOOZ（アオウゼ）大活動室4 参加者数：22名



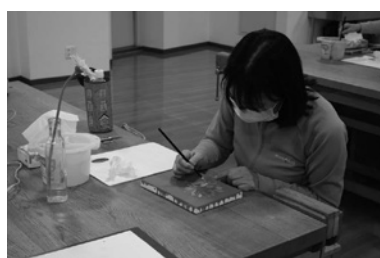
⑨魔法陣！ソーシャルディスタンス！！

日時：令和2年12月12日(出) 13:30～15:30  
 講師：イシザワエリ氏（アートワークショップデザイナー、東北芸術工科大学講師）  
 会場：福島市子どもの夢を育む施設こむこむ つくろうの部屋  
 参加者数：22名



⑩グリザイユ技法で花を描く

日時：令和3年2月13日(出) 10:30～15:00  
 講師：大北 孝（主任学芸員）  
 会場：福島市アクティブシニアセンター AOOZ（アオウゼ）大活動室4 参加者数：6名



①まんまるもじゃもじゃポケットつきバッグをつくろう！

日時：令和3年3月13日(土) 13:30～15:00

講師：鈴木孝昭氏・坂内まゆ子氏 (FRIDAY SCREEN)

会場：福島市子どもの夢を育む施設こむこむ つくろうの部屋

参加者数：18名



4 美術館・学校教育連携事業

(1) 学校連携共同ワークショップ

学校からの要望をもとに平成15年度より開催する連携事業。こどもたちが作家と触れ合う生の機会として、作家・学校・美術館の共同による創作活動を中心にした「出張ワークショップ」を開催している。この事業により相互の協力関係を密にし、新鮮な体験を通してこどもたちの美術や美術館への関心を高めるとともに、通常は美術館を利用しにくい地域へも文化事業の還元をはかる。

令和2年度は、小学校・中学校・高等学校・適応指導教室合わせて12校(参加者延べ226名)で開催した。ワークショップで制作した作品は令和3年1月15日(金)～24日(日)の期間、福島市子どもの夢を育む施設こむこむの企画展示室にて活動中のスナップ写真とあわせて展示した。

①作家：Naomi Horiike (アーティスト)

プログラム：絵の中を泳ぐ

内容：アクションペインティングをテーマに、身体を思う存分使い、自分自身が絵の一部となって作品の主人公となるワークショップ。

開催校・人数：

県立相馬高校・相馬東高校・原町高校 (美術部)	9/19	20名
会津坂下町立坂下中学校 (美術部)	9/27	22名
郡山市立御館中学校 (2年生)	10/5	23名
郡山市立緑ヶ丘中学校 (美術部)	11/7	13名
会津若松市立第一中学校 (美術部)	11/28	18名
会津若松市立第二中学校 (美術部)	11/28	18名



②作家：FRIDAY SCREEN (アートユニット)

プログラム：音・色・かたち

内容：音と色とかたちを組み合わせる美術のワークショップ。

開催校・人数：

福島市総合教育センター (ふれあい教室)	10/1	10名
福島市総合教育センター (ふれあい教室)	10/27	9名
福島市総合教育センター (ふれあい教室)	11/10	11名
郡山市立日和田中学校 (美術部)	10/18	11名
田村市立大越小学校 (6年生)	10/22	27名
二本松市立渋川小学校 (5年生)	11/5	12名
会津美里町公民館	11/14	21名
福島県立小野高等学校 (美術部)	11/21	11名



## (2) 先生と考える美術館ミーティング

小学校図画工作、中学校・高等学校美術の鑑賞指導について講座を開催する福島県教育センターと連携しながら、学校における美術館の活用方法を考える。今年度も昨年度に引き続き、前期(県立美術館)後期(教育センター)の2回に分けて開催した。

<前期> 講義・演習「学校と美術館の連携活動についてⅠ」

演習「鑑賞用教材を活用した鑑賞活動」

日時：令和2年7月31日(金) 10:00～15:45

講師：梅野史代氏(教育センター指導主事)、

大北孝(主任学芸員)、白木ゆう美(副主任学芸員)

参加者：小学校教諭6名、中学校教諭3名、

高等学校教諭1名 合計10名

<後期> 講義・演習「学校と美術館の連携活動についてⅡ」

日時：令和2年10月30日(金) 13:00～14:00

講師：梅野史代(教育センター指導主事)、大北孝(主任学芸員)

参加者：小学校教諭5名、中学校教諭3名 合計8名

## (3) 博物館実習

学芸員資格取得のため実習を希望する大学生を受入れ、カリキュラムを組んで指導を行った。

日時：令和2年8月18日(火)～23日(日)

受講者数：7名



## (3) 「触って、話して、見て楽しむ美術鑑賞ワークショップ」

NPO法人福島県立美術館協力会との共催。移動展「福島県立美術館 世界の名作展」関連事業として、喜多方市美術館にて開催した。見える人、見えない人一緒に、彫刻作品を触ったり、作品について話したりしながら鑑賞をするという企画。当館の観賞用補助教材アートキューブを用いて、彫刻制作に用いる素材を触って確認した後、出品作品のオーギュスト・ロダンの2点とヘンリー・ムーアの1点を対象に、お互いに話をしながら触察によって鑑賞を行った。

日時：令和2年11月3日(火)例

① 10:30～12:00 ② 14:00～15:30

講師：伊藤匡(専門員)、橋本恵里(学芸員)

会場：喜多方蔵の里、喜多方市美術館展示室

参加者数：① 12名 ② 3名(いずれも視覚障がい者と介助者含めて)

## 5 友の会等との連携

例年、友の会が実施している企画展開催時のボランティアやアートチャリティーバザー、実技講座については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年度は実施を見合わせた。

関係団体と連携して実施した活動は、下記のとおりである。

## (1) 「ワークショップマート～おうちを美術館にしよう～」

NPO法人福島県立美術館協力会との共催。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年のようなワークショップ出店ではなく、持ち帰って家で楽しめるワークショップキットの販売とワークショップを行った。

日時：令和2年8月2日(日) 9:30～14:00

企画・ディレクション：FRIDAY SCREEN

会場：美術館庭園

参加者数：約300名

## (2) ミュージアム・コンサート「ラテンジャズでホットな春を！(夏ヴァージョン)」

NPO法人福島県立美術館協力会、福島県立美術館友の会との共催。

日時：令和2年8月8日(土) 19:00～20:30

演奏：鈴木千恵(ヴィブラフォン)、小泉哲夫(ベース)、

伊波淑(ラテンパーカッション)

会場：美術館エントランスホール

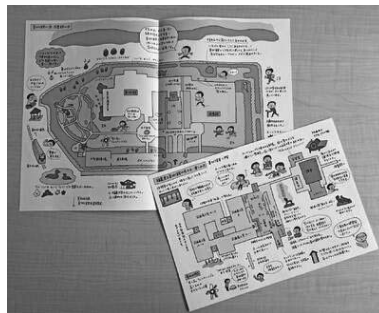
参加者数：約100名



## (4) 「美術館イラストマップ」制作

NPO法人福島県立美術館協力会による制作。

伊達市出身のイラストレーター佐藤ジュンコ氏を起用し、敷地内や館内の見どころなどを紹介。令和3年度以降、館内で配布し、普及事業等で活用していく。



## (5) アートカード『ぼけっとアート』貸出

平成29年度4月より当館所蔵作品80点をカード形式にした鑑賞補助教材『ぼけっとアート』の貸出を行っている。令和2年度の貸出総数は、小学校、中学校、高校、その他教育関係機関を含め、137か所、700セットである。

## 6 その他の事業

### (1) 県立図書館との連携事業「アートな おはなしかい」

「夏をさがそう！」幼稚園児・小学生とその保護者を対象にした、図書館での「よみきかせ」美術館展示室及び実習室の「鑑賞と工作のワークショップ」。

日時：令和2年8月8日(土) 14:00～15:30

会場：図書館、美術館

参加者数：8名



### (2) 委員等

- ・斎藤清画伯顕彰協議会特別幹事（長根由里子館長、荒木康子副館長兼学芸課長）
- ・いわき市美術品選定評価委員会委員（荒木康子副館長兼学芸課長）
- ・郡山市立美術館協議会委員（荒木康子副館長兼学芸課長）
- ・福島県総合美術展覧会運営委員会委員（荒木康子副館長兼学芸課長）
- ・宇都宮美術館美術作品等収集評価委員会委員（増渕鏡子専門学芸員）
- ・相馬市史調査編さん委員（増渕鏡子専門学芸員）
- ・福島市写真美術館運営委員会委員（紺野朋子主任学芸員）
- ・西会津国際芸術村公募展審査員（坂本篤史主任学芸員）
- ・猪苗代湖・裏磐梯湖沼フォトコンテスト審査委員（坂本篤史主任学芸員）
- ・「新しいAIZUの美術展」選考委員（白木ゆう美副主任学芸員）
- ・須賀川市文化財保護審議会委員（伊藤 匡専門員）

### (3) 講師、寄稿、発表、受賞等

- ・福島大学人間発達文化学類「現代アートマネジメント」講師  
令和2年6月12日(金)（増渕鏡子専門学芸員）
- ・筑波大学人文・文化学群「博物館学Ⅲ」講師  
令和2年7月1日(木)～9月30日(木) 7.5時間（増渕鏡子専門学芸員）
- ・福島大学行政政策学類学芸員養成課程「博物館教育論」講師  
令和2年10月1日(木)～令和3年3月15日(月) 全15回（伊藤 匡専門員）
- ・福島県立医科大学「芸術と文化（博物館・美術館にみる芸術と文化）」講師  
令和2年11月25日(木)「亜欧堂田善と蘭方医学」（坂本篤史主任学芸員）  
令和2年12月2日(木)「スペインインフルエンザに倒れた画家 関根正二」（伊藤 匡専門員）  
令和2年12月9日(木)「斎藤清と福島の版画」（紺野朋子主任学芸員）

令和2年12月16日(木)「河野保雄コレクションについて」（白木ゆう美副主任学芸員）

・日本フランス語フランス文学会東北支部大会シンポジウム「フランスにおける文学と美術の交差と共振：想像の源泉としての影響関係をめぐって」講師

令和2年11月28日(土)「アンリ・ルソーの画業におけるジャリとアポリネールの存在」（橋本恵里学芸員）

・山形大学地域教育文化学部「キャリア教育」講師

令和2年12月10日(木)「美術館教育普及の仕事について」（白木ゆう美副主任学芸員）

・放送大学栃木学習センター公開講演会講師

令和3年2月14日(日)「『内』から『外』へ—美術館の発信活動—」（橋本恵里学芸員）

・2020年美連協大賞（美術館連絡協議会）

優秀カタログ賞（美連協展部門）：「もうひとつの日本美術史 日本近現代版画の名作2020」（荒木康子副館長兼学芸課長、紺野朋子主任学芸員、坂本篤史主任学芸員）

優秀カタログ賞（自主展部門）：「もうひとつの江戸絵画 大津絵展」（堀 宜雄専門学芸員）

### (4) 動画配信等による情報発信

新型コロナウイルス感染症拡大により、ギャラリートーク等の企画が一部実施できなくなったことを受け、令和2年4月30日に動画共有サービス「YouTube」に公式チャンネルを開設し、新たな取り組みとして展覧会の見どころを紹介する動画配信を行った。令和2年度に公開した動画は以下のとおり。

- ・福島県立美術館常設展示のご案内（2020年度第Ⅰ期）
- ・「ジャポニスムからアール・ヌーヴォーへ」担当学芸員の押し！
- ・佐藤玄々《天女（まごころ）像》のデジタル測量について～視点の軌跡が生み出す3Dデータ～（企画：福島県立美術館、碧南市藤井達吉美術館／制作：東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻 保存修復彫刻研究室／協力：日本橋三越本店）
- ・「もうひとつの江戸絵画 大津絵展」見どころ紹介
- ・大津絵展ギャラリートーク対談「山内神斧と吾八の時代」
- ・福島県立美術館常設展示のご案内（2020年度第Ⅱ期）
- ・「もうひとつの日本美術史 近現代版画の名作2020」
- ・「福島県立美術館の名画たち—関根正二と洋画・日本画の名品—」
- ・「福島県立美術館 世界の名作展」
- ・「2020 学校連携共同ワークショップ参加校作品展」前期
- ・「2020 学校連携共同ワークショップ参加校作品展」後期

## 第6節 工事関係

### 1 施設・設備の整備

耐震性や展示環境の向上のため、施設・設備の改修工事を実施した。

#### (1) 美術館エレベーター減災化工事

令和2年7月15日～令和3年3月31日

ダイコー（株）



乗用エレベーター：かご上配線

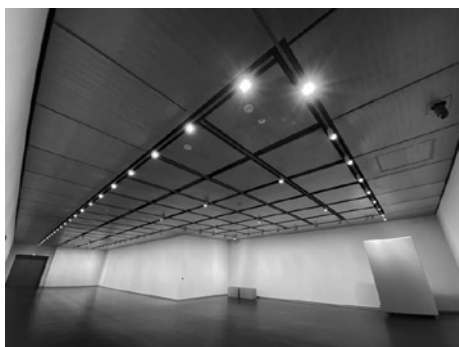


荷物用エレベーター：カゴプラットホーム組立

#### (2) 県立美術館展示室照明改修工事

令和2年9月23日～令和3年3月31日

(株) 大山電気工事

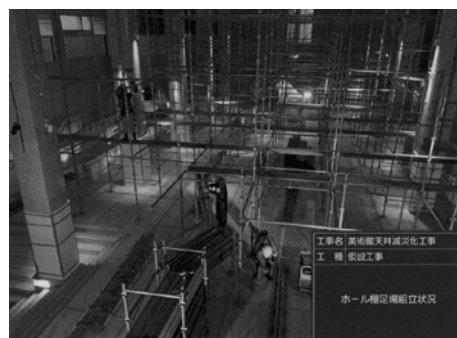


竣工後（企画展示室 A-1）

#### (3) 美術館天井減災化工事

令和2年10月14日～令和3年3月31日

(株) 古俣工務店



ホール棚足場組立状況



耐震天井下地組立て：不陸調整状況

#### (4) 美術館展示室（壁・床）改修工事

令和2年10月16日～令和3年3月31日

国分木材工業（株）



壁クロス工事：シーラー塗布状況



床：ローラー圧着状況

## ◆関係法規

### A 福島県立美術館条例

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第18条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条及び地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項の規定に基づき、県民の美術に対する知識及び教養の向上を図るため、福島県立美術館(以下「美術館」という。)を設置する。

(位置)

第2条 美術館は、福島市森合字西養山1番地に置く。

(業務)

第3条 美術館において行う業務は、次のとおりとする。

- 一 美術館及び美術に関する資料を収集し、保管し、及び展示すること。
- 二 美術に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 三 美術に関する講演会、講習会、映画会、研究会等を開催すること。
- 四 前3号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務を行うこと。

(観覧料)

第4条 美術館の展示品(以下「展示品」という。)を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。

(観覧料の免除)

第5条 知事は、公益上の必要があると認めるときは、規則で定めるところにより、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(観覧料不返還の原則)

第6条 既納の観覧料は、返還しない。ただし、規則で定める場合は、その全部又は一部を返還することができる。

(遵守事項)

第7条 美術館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 一 美術館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 二 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 三 展示品の横写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 四 所定の場所以外において、喫煙および飲食を行わないこと。
- 五 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- 六 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項。

(平11条例92・一部改正)

(入館の規制等)

第8条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当するものに対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 一 前条の規定に違反した者。
- 二 美術館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、または汚損するおそれのある者。
- 三 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者。

(平11条例92・追加)

(職員)

第9条 美術館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(平11条例92・旧第8条繰上)

(委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理その他この条例の施行に関して必要な事項は、教育委員会が定める。

(平11条例92・旧第9条繰上)

附則 この条例は、昭和59年4月1日から施行する。

別表(第4条関係)

(平9条例53・平15条例52・平25条例118・平28条例52・平31条例47・一部改正)

区分	普通観覧料の額 (一人当たり)		特別観覧料の額	年間観覧料の額 (同一人が有効期間内に 利用する場合)
	個人	団体		
一般(大学生を含む。)	280円	220円	その都度知事が定める額	3,600円の範囲内で知事が定める額
高校生及びこれに準ずる者	—	—	その都度知事が定める額	2,160円の範囲内で知事が定める額
中学生、小学生及びこれらに準ずる者	—	—	その都度知事が定める額	1,440円の範囲内で知事が定める額

備考

1 「普通観覧料」とあるのは常設展の展示品のみを観覧する場合の観覧料をいい、「特別観覧料」とあるのは特別の企画による展示品を観覧する場合(常設展の展示品を併せて観覧する場合を含む。)の観覧料をいい、「年間観覧料」とあるのは年間利用に係る普通観覧料及び特別観覧料をいう。

2 「団体」とあるのは、20人以上の団体をいう。

附則(平成9年条例第53号)

この条例は、平成9年4月1日から施行する。

附則(平成11年条例第92号)

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附則(平成15年条例第52号)

この条例は、平成15年4月1日から施行する。

附則(平成25年条例第118号)

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

附則(平成28年条例第52号)

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

附則(平成31年条例第47号)

この条例は、平成31年10月1日から施行する。

### B 福島県立美術館運営協議会条例

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定に基づき、福島県立美術館(以下「美術館」という。)の適正な運営を図るため、福島県立美術館運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(組織)

第2条 協議会の委員(以下「委員」という。)の定数は、10人以内とする。

(委員の任命及び任期)

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

2 委員会の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(平24条例42・一部改正)

(会長及び副会長)

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第6条 協議会の庶務は、美術館において処理する。

(雑則)

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、

会長が協議会に諮って定める。

附 則 この条例は、昭和 59 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 24 年条例第 42 号)

- 1 この条例は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この条例の施行の際現に改正前の福島県立美術館運営協議会条例第三条第一項の規定により任命されている福島県立美術館運営協議会の委員は、その残任期間中は、改正後の福島県立美術館運営協議会条例第三条第一項の規定により任命された福島県立美術館運営協議会の委員とみなす。

**C 福島県立美術館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則**

福島県立美術館条例(昭和 59 年福島県条例第 33 号)第 5 条、第 6 条ただし書及び別表の規定による知事の権限は、福島県教育委員会に委任する。

附 則

この規則は、昭和 59 年 4 月 1 日から施行する。

**D 福島県立美術館条例施行規則**

(休館日)

第 1 条 福島県立美術館(以下「美術館」という。)の定期の休館日は、次のとおりとする。

- 一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に規定する休日(次号において「休日」という。)に当たるときを除く。
- 二 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。
- 三 1 月 1 日から同月 4 日まで。
- 四 12 月 28 日から同月 31 日まで。

2 美術館の長(以下「館長」という。)は、必要があると認めるときは臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(昭 63 教委規則 8・一部改正)

(開館時間)

第 2 条 美術館の開館時間は、午前 9 時 30 分から午後 5 時までとする。ただし、館長は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

(観覧手続)

第 3 条 館長は、福島県立美術館条例(昭和 59 年福島県条例第 33 号。以下「条例」という。)第 4 条の規定により観覧料を納入した者(年間観覧料を納入した者(以下「年間観覧者」という。)を除く。)に対し、観覧券(第 1 号様式)を交付するものとする。

(平 15 教委規則 2・一部改正)

(年間観覧者に係る入館手続)

第 3 条の 2 館長は、年間観覧者に対し年間観覧券(第 1 号様式の 2)を交付するものとし、その有効期間は、年間観覧券の交付の日から起算して 1 年とする。

2 年間観覧者は、入館する際に有効な年間観覧券を提示するものとする。

3 年間観覧券の利用は、同一人に限るものとする。

(平 15 教委規則 2・追加、平 19 教委規則 14・一部改正)

(観覧料の免除及びその手続)

第 4 条 館長は、条例第 5 条の規定により、次の表の上欄に掲げる場合における普通観覧料について、同表の下欄に掲げる額を免除するものとする。

普通観覧料を免除する場合	免除する額
--------------	-------

一 大学生、(これに準ずる者として福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)が別に定める者を含む。)及びその引率者並びに高校生、中学生及び小学生(これらに準ずる者として教育長が別に定める者を含む。)の引率者が、学校教育に基づく活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
二 県又は市町村が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の百分の五十に相当する額(引率者にあつては全額)
三 国民の祝日に関する法律第二条に定めるこどもの日、敬老の日及び文化の日に観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
四 知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証の交付を受けている者が観覧するとき	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
五 その他免除することが公益上適当と認めるとき。	教育長が別に定める金額

2 観覧料の免除を受けようとする者(前項の表の第 3 号又は第 4 号のいずれかに該当する場合に観覧料の免除を受けようとする者を除く。)は、前項の表の第 1 号又は第 2 号に該当する場合にあつては観覧しようとする日の 3 日前まで、第 5 号に該当する場合にあつては 10 日前までに観覧料免除申請書(第 2 号様式)を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の規定により観覧料の免除を承認したときは、観覧料免除承認書(第 3 号様式)を交付するものとする。

(昭 60 教委規則 3・平 4 教委規則 15・平 7 教委規則 14・平 8 教委規則 15・平 8 教委規則 19・平 12 教委規則 15・平 14 教委規則 13・平 15 教委規則 2・一部改正)

(観覧料の返還)

第 5 条 館長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、それぞれ当該各号に定めるところにより、観覧料の全部又は一部を返還するものとする。

一 観覧しようとする者の責めによらない理由により観覧することができなくなったとき(観覧しようとする者が年間観覧者であるときを除く。)全額

二 その他やむを得ない理由があると認めるとき。教育長が別に定める額

2 観覧料の返還を受けようとする者は、観覧料返還申請書(第 4 号様式)に観覧券を添えて、館長に提出しなければならない。

(平 15 教委規則 2・一部改正)

(美術品等の特別利用)

第 6 条 美術館が所蔵し、又は寄託を受けている美術品等を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、館長の承認を受けなければならない。

(平 12 教委規則 15・旧第 7 条繰上)

(教育長への委任)

第 7 条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

(平 12 教委規則 15・旧第 8 条繰上)

附 則

1 この規則は、昭和五十九年四月一日から施行する。

(令二教委規則七・旧附則・一部改正)

2 第三条の二第一項の有効期間中に工事により休館する期間がある場合は、その期間を一年に加算した期間を同項の有効期間とする。

(令二教委規則七・追加)

第 1 号様式(第 3 条関係)

観覧券 (観覧者の区分) (金額) 福島県立美術館	観覧券 (観覧者の区分) (金額) 福島県立美術館
------------------------------------	------------------------------------

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。



第1号様式の2（第3条の2関係）  
（平15教委規則2・追加）

（表）

年間観覧券
福島県立美術館

（裏）

（交付番号）	（観覧者の区分）
（有効期間）	
御利用に際して	
1 福島県立美術館が主催する展覧会のみ有効です。	
2 下記に署名された御本人以外の方は使用できません。	
3 御購入後の紛失等による再発行はいたしません。	
（氏名）	
（学校名）（学年）	
福島県立美術館	

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

第2号様式（第4条関係）

（平3教委規則13・一部改正）

第2号様式(第4条関係) 年 月 日

福島県立美術館長 申請者 住所又は所在地氏名又は名称及び代表者の氏名 印  
観覧料免除申請書

次の理由により観覧料を免除してください。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日 時 分から 時 分まで			
観覧者の種別及び人数	一般	人	その他( )	人
	大学生		( )	
	高校生			
	中学生		引率者	
	小学生		合計	
免除申請の理由				
引率者の職、氏名	氏名			
連絡先及び電話番号	電話( )			
観覧料	免除率	免除金額	免除の根拠	
円	円	円	円	
上記のとおり承認してよろしい。				
館長	副館長	総務課長		主任

(注) 捺印の欄は、記入しないこと。

第3号様式（第4条関係）

（平3教委規則13・一部改正）

第4号様式（第5条関係）

（平3教委規則13・一部改正）

第4号様式(第5条関係) 年 月 日

福島県立美術館長 申請者 住所又は所在地氏名又は名称及び代表者の氏名 印  
観覧料返還申請書

次の理由により観覧料を返還してください。

展覧会の名称				
観覧料の納入月日	年 月 日			
既納観覧料の区分及び金額	区	分	数	金額
			人	円
合計				
返還を申請する理由				
連絡先及び電話番号	電話( )			
観覧料返還率	返還金額	返還の根拠		
円	円	円		
上記のとおり返還してよろしい。				
館長	副館長	総務課長		主任
受付月日	・	・	決裁月日	・

(注) 捺印の欄は、記入しないこと。

第4号様式（第5条関係）

（平3教委規則13・一部改正）

第3号様式(第4条関係) 第 号 年 月 日

福島県立美術館長 印

観覧料免除承認書

観覧料の免除について、次のとおり承認します。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日 時 分から 時 分まで			
観覧者の種別及び人数	一般	人	その他( )	人
	大学生		( )	
	高校生			
	中学生		引率者	
	小学生		合計	
免除申請の理由				
注意事項				
観覧料	免除率	免除金額		
円		円		

附則（昭和60年教委規則第3号）

この規則は、昭和60年4月1日から施行する。

附則（昭和63年教委規則第8号）

この規則は、昭和63年4月1日から施行する。

附則（平成3年教委規則第13号）

1 この規則は、交付の日から施行する。

2 この規則の施行の際現に作成されている改正前の規則に定める様式による用紙は、当分の間、使用することができる。

附 則（平成4年教委規則第15号）

この規則は、平成4年9月1日から施行する。

附 則（平成7年教委規則第14号）

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則（平成8年教委規則第15号）

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則（平成8年教委規則第19号）

この規則は、平成8年10月1日から施行する。

附 則（平成12年教委規則第15号）

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成14年教委規則第13号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成15年教委規則第2号）

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則（平成19年教委規則第14号）

この規則は、平成19年10月1日から施行する。

附 則（令和2年教委規則第7号）

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和3年教委規則第15号）

（施行期日）

1 この規則は、令和3年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 この規則による改正前の福島県教育委員会が管理する公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する規則、学校教育法施行細則、福島県立美術館条例施行規則、福島県立博物館条例施行規則、福島県文化財保護条例施行規則、福島県立高等学校の通学区域に関する規則、福島県立高等学校学則、福島県奨学資金貸与条例施行規則、福島県立学校の管理運営に関する規則、福島県高等学校定時制課程及び通信制課程修学資金貸与条例施行規則、福島県立中学校学則及び福島県立特別支援学校学則（以下これらを「改正前の規則等」という。）に規定する様式については、この規則の規定による改正後の福島県教育委員会が管理する公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する規則、学校教育法施行細則、福島県立美術館条例施行規則、福島県立博物館条例施行規則、福島県文化財保護条例施行規則、福島県立高等学校の通学区域に関する規則、福島県立高等学校学則、福島県奨学資金貸与条例施行規則、福島県立学校の管理運営に関する規則、福島県高等学校定時制課程及び通信制課程修学資金貸与条例施行規則、福島県立中学校学則及び福島県立特別支援学校学則（以下これらを「改正後の規則等」という。）に規定する様式にかかわらず、当分の間、所要の調整をして使用することができる。

3 この規則の施行の際現に改正前の規則等に基づき提出、通知又は作成されている届出書等の書面は、それぞれ改正後の規則等に基づき提出、通知又は作成されている届出書等の書面とみなす。

## E 福島県立美術館組織規則

（この規則の目的）

第1条 この規則は、福島県立美術館（以下「美術館」という。）の組織に関して必要な事項を定めることを目的とする。

（課）

第2条 美術館に次の課を置く。

総務課

学芸課

（事務分掌）

第3条 総務課においては、次の事務を行う。

- 一 館内事務の総合調整及び企画調査に関すること。
- 二 公印の管理に関すること。
- 三 人事に関すること。

四 文書の收受、発送、編集及び保存に関すること。

五 予算の編成、経理及び執行に関すること。

六 物品の調達及び処分に関すること。

七 財産の管理に関すること。

八 観覧料の徴収に関すること。

九 福島県立美術館運営協議会に関すること。

十 前各号に掲げるもののほか、他課の所掌に属しない事務に関すること。

2 学芸課においては、次の事務を行う。

一 美術品及び美術に関する資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。

二 美術に関する調査及び研究に関すること。

三 美術に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。

四 美術に関する解説書、年報、調査研究報告書等の作成に関すること。

五 美術に関する相談、情報提供その他美術教育の普及に関すること。

六 国立美術館、公立美術館その他の教育機関及び美術関係団体との連絡提携に関すること。

七 前各号に掲げるもののほか、美術に関する専門的事項に関すること。

（館長）

第4条 美術館に館長を置く。

2 館長は、上司の命を受け、美術館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

（副館長）

第5条 美術館に副館長を置く。

2 副館長は、館長を補佐し、美術館の事務を整理する。

（課長）

第6条 美術館の課に課長を置く。

2 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理し、所属職員を指揮監督する。

3 前項に規定するもののほか、課長は、課の事務を点検する。

（平25教委規則11・一部改正）

（学芸員等）

第7条 美術館に主任専門学芸員、専門学芸員、主任学芸員、副主任学芸員及び学芸員を置く。

2 主任専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の高度な学芸事務を処理する。

3 専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の学芸事務を処理する。

4 主任学芸員は、上司の命を受け、担任の学芸事務を処理する。

5 副主任学芸員は、上司の命を受け、高度な学芸事務をつかさどる。

6 学芸員は、上司の命を受け、学芸事務をつかさどる。

（主任主査その他の職）

第8条 美術館に、第4条から前条までに規定する職のほか、必要に応じ、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職の職務は、それぞれ同表の当該下欄に掲げるとおりとする。

職	職務
主幹	上司の命を受け、特に指示された事務を掌理する。
事務長	上司の命を受け、副館長を補佐し、美術館の事務を処理する。
主任主査	上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理し、並びに担当する事務を取りまとめ、及び整理する。
主査	上司の命を受け、担任の事務を処理する。
副主査	上司の命を受け、高度な事務をつかさどる。
主事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
専門員	上司の命を受け、担任の専門的業務に従事する。

（平14教委規則18・平25教委規則8・令2教委規則5・一部改正）

附 則

この規則は、昭和59年4月1日から施行する。

附 則（平成14年教委規則第18号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成 25 年教委規則第 8 号）  
この規則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。  
附 則（平成 25 年教委規則第 11 号）  
この規則は、公布の日から施行する。  
附 則（令和 2 年教委規則第 5 号）  
この規則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

## F 福島県立美術館収集評価委員会設置要綱

（設置）

第 1 条 福島県立美術館に収蔵する美術品及び資料（以下「美術品等」という。）の収集及び評価について審議するため、福島県立美術館収集評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（組織等）

第 2 条 委員会は 5 人以内の委員をもって構成し、委員は学識経験者のうちから福島県立美術館長（以下「館長」という。）が委嘱する。

2 委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長及び副委員長は委員の互選により選出する。

3 委員長は委員会を代表し会務を掌理する。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

（任期）

第 3 条 委員の任期は 2 年とする。但し、再任を妨げない。

2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（会議）

第 4 条 委員会は、必要のつど館長が招集する。

2 委員会は、美術品等の収集及び評価について審議し、その結果を館長に報告するものとする。

3 委員会は、必要に応じ職員その他の者を出席させて意見を聴くことができる。

（庶務）

第 5 条 委員会の庶務は、福島県立美術館において処理する。

（その他）

第 6 条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員長が定める。

附則 この要綱は、昭和 55 年 4 月 1 日から施行する。

改正 昭和 59 年 4 月 1 日、昭和 61 年 4 月 1 日

## G 福島県立美術館における美術品等の貸出し及び写真撮影等に関する取扱要領

1 趣旨

（1）この要領は、財産の交換・譲与・無償貸付等に関する条例（昭和 39 年福島県条例第 22 号）第 7 条、福島県財務規則（昭和 39 年福島県条例第 17 号。以下「財務規則」という。）第 156 条、福島県立美術館条例（昭和 59 年福島県条例第 33 号）第 7 条及び福島県立美術館条例施行規則（昭和 59 年福島県教育委員会規則第 12 号）第 7 条の規定により、福島県立美術館（以下「館」という。）が所蔵し、又は寄託を受けている美術品及び美術資料（以下「美術品等」という。）の貸出し及び写真撮影等（以下「撮影」という。）の取り扱いに関する基準及び手続きを定めるものとする。

（2）美術品等が福島県美術品等取得基金（以下「基金」という。）所有のものであるときは、昭和 59 年 12 月 28 日付 59 教財第 513 号、福島県教育庁財務課長通知により、美術品等の貸出しの手続きは館長の依頼により基金管理者が行うものとするが、美術品等の貸出しの基準及び撮影については、この要領を準用するものとする。

2 美術品の貸出し

（1）貸出しの基準

ア 美術品等の貸出しは、国立、公立及び私立の美術館または博物館、報道機関、その他館長が特に必要と認めたものに対して行うものとする。

イ 美術品等の貸出期間は、1 年を超えてはならない。

ウ 美術品等の利用目的及び管理上の理由から貸出しをすることが適当でないとき、貸出しを行わないものとする。

（2）貸出しの手続き

ア 学芸課は、美術品等の貸出しをする場合には、貸出しを受けようとする者（以下「借受者」という。）から物品借受申請書（財務規則第 102 号様式。以下「申請書」という。）を提出させるものとする。ただし、借受者の利用目的が展覧会の展示である場合には、次の書類を提出させなければならない。

（ア）展覧会の趣旨及び企画内容を明記した書類

（イ）美術品等が寄託を受けているものである場合には、寄託者の貸出しを承認する旨の書類

（ウ）その他必要と認める書類

イ 学芸課は、借受者から申請書の提出を受けたときは、美術品等の利用目的、利用期間及び利用場所等について十分に検討を加え、貸出しの適否を審査するものとする。

ウ 学芸課は、この要領 2 の（2）のイの審査の結果、美術品等の貸出しをすることが適当と認めるときは、物品貸付調書（財務規則第 10 号様式）により当該貸出しについて館長の決裁を受けるとともに、総務課に関係書類を送付するものとする。

エ 総務課は、この要領 2 の（2）のウの書類の送付を受けたときは、速やかに福島県教育庁生涯学習領域（以下「生涯学習領域」という。）に対し美術品等の貸出しについて必要な措置の請求（別紙様式第 1 号）をしなければならない。

オ この要領 2 の（2）のアからエまでの規定は、美術品等が基金所有のものである場合に準用する。

（3）貸出しの決定

ア 総務課は、生涯学習領域から美術品等の貸出しについて必要な措置が完了した旨の通知を受けたときは速やかに学芸課に対して、その旨連絡するとともに関係書類を送付するものとする。

イ 学芸課は、この要領 2 の（3）のアの通知を受けたときは借受者に対して、貸出し承認の通知（別紙様式第 2 号）をするものとする。

ウ 美術品等が基金所有のものであるときは、当該美術品等の貸出しの決定及び借受者に対する貸出し承認の通知は、基金管理者が行うものとする。

エ 美術品等の貸出しは、無料とする。

（4）貸出しの条件

美術品等の貸出しをする場合には、次の条件を付すものとする。

ア 美術品等は利用目的以外の用途に利用しないこと。

イ 美術品等の利用権を第 3 者に譲渡しないこと。

ウ 美術品等は常に善良な管理者の注意をもって管理保管すること。

エ 美術品等の棄損・亡失等が生じた場合は、速やかにその旨を館に報告し、その指示により損害を賠償し、又はこれを原状に回復すること。

オ 美術品等の輸送、その他貸出しに要する経費は、借受者が負担すること。

カ 図録作成等のため美術品等の写真撮影をする場合は、この要領 3 により別途手続を行うこと。

キ 美術品等の搬出または搬入に対して借受者は責任者を立会させること。

ク その他必要と認めること。

（5）美術品等の引渡し

ア 館長（物品管理者）は、美術品等の貸出しを実行するときは、当該美術品等の現状を確認し、総務課長（物品取扱員）に対し、貸付物品払出通知書（財務規則第 102 号様式）により、その引渡しを指示するものとする。

イ 総務課長（物品取扱員）は、館長（物品管理者）から貸出し美術品等の引渡しの指示を受けたときは、借受者に対して当該美術品等の受領を証する書面と引換えに、これを引渡すものとする。

ウ 総務課長（物品取扱員）は、美術品等を引渡ししたときには物品貸付台帳（財務規則第 140 号様式）に所定の事項を記載し整理するものとする。

エ 美術品等の引渡し場所は原則として館とする。

（6）美術品等の貸付引受け

この要領 2 の（5）のアからエまでの規定は、貸出しを行った美術品等が返納された場合の受入れの手続きについて準用する。この場合「美術品等の貸

出しを実行」とあるのは「貸出しを行った美術品等を引受け」と、「貸付物品払出通知書」とあるのは「貸付物品受入通知書」と、「引渡し」とあるのは「引受け」とそれぞれ読み替えるものとする。

### 3 美術品等の撮影

#### (1) 撮影承認の基準

- ア 美術品等の撮影は国立、公立及び私立の美術館または博物館、報道機関、出版社、その他館長が特に必要と認めたものに対して承認するものとする。
- イ 撮影により損傷を生ずるおそれがある美術品等は撮影を認めないものとする。
- ウ 撮影の時期が美術品等の管理上、適当でないと認められる場合は、その時期を変更し、若しくは撮影を認めないものとする。

#### (2) 撮影承認の手続

- ア 学芸課は、美術品等の撮影の承認をする場合には、撮影を希望する者(以下「撮影者」という。)から美術品等撮影承認願(別紙様式第3号。以下「承認願」という。)を提出させるものとする。
- イ 美術品等が寄託を受けているものである場合には、寄託者の撮影を承認する旨の書類を承認願に添付させるものとする。
- ウ 学芸課は、撮影者から承認願の提出を受けたときは、撮影の目的、場所、時期、対象美術品等について十分に検討を加え、承認の適否を審査するものとする。
- エ 学芸課は、この要領3の(2)のウの審査の結果、美術品等の撮影を承認することが適当と認めるときは、当該撮影の承認について館長の決裁を受けるものとする。
- オ 美術品等の撮影料は無料とする。

#### (3) 撮影承認の通知

学芸課は、この要領3の(2)のエにより撮影承認の決定をしたときは、撮影者に対して撮影承認の通知(別紙様式第4号)をするものとする。

#### (4) 撮影の条件

美術品等の撮影を承認する場合には、次の条件を付すものとする。

- ア 美術品等の撮影は館の職員の指示に基づいて行うこと。
  - イ 撮影により美術品等を損傷させないこと。
  - ウ 撮影した写真等は、撮影承認を受けた目的以外に使用しないこと。
  - エ 撮影の目的が著作権法の適用を受けることとなるときは、必要に応じ、あらかじめ著作権者の了承を得ること。
  - オ 撮影承認を受けた美術品等の写真を出版物に掲載したときは、当該出版物を館に提出すること。
  - カ その他必要と認めること。
- (5) 補則
- ア 撮影の場所は、原則として館とする。
  - イ 撮影が美術品等の管理上適当でないと認めるときは、館が所有する原版の使用を認めるものとする。
  - ウ 過去に撮影した写真等の撮影承認の目的外使用については、この要領の適用を受けるものとする。
  - エ 館所有の原版を複製して使用する場合は、当該複製版をすべて提出することとする。
  - オ 館所有の原版を使用する際、誤って損傷、亡失させたときは、再撮影に係わる実費を当該申請者に請求することができるものとする。

### 4 適用

この要領は昭和60年2月9日から適用する。

(平成9年9福美第65号により一部改正)

## H 福島県立美術館美術作品等寄託要領

### (趣旨)

1 この要領は、福島県立美術館(以下「館」という。)における美術作品および美術資料(以下「美術品等」という。)の寄託に関し、必要な事項を定めるものとする。

### (寄託の申し出)

2 福島県立美術館長(以下「館長」という。)は、美術品等の所有者に依頼

して寄託を受けようとする場合には、寄託同意書(別記様式第1号)によって所有者の同意を得なければならない。

(2) 館長の依頼によらないで美術品等の寄託をしようとする者は、寄託申請書(別記様式第2号)を館長に提出し、その承認を受けなければならない。(受託)

3 館長は、所有者の合意、もしくは所有者からの申込みのあった美術品等の寄託が館の事業のため必要があると認めるときは、これを無償で受託することができる。

(受け入れおよび返還)

4 館長は、所有者から寄託された美術品等を受領したときは、所有者に対して受託証書(別記様式第3号)を交付するものとする。

(2) 所有者は寄託した美術品等(以下「寄託品」という。)の返還を受けようとするとき、返還を受けようとする日の一ヶ月前に返還申請書(別記様式第4号)を館長に提出しなければならない。

(3) 館長は、この要領4の(2)により、所有者に対して寄託品の返還をしようとするときは、受託証書と引き換えに、これを所有者に返還するものとする。

(4) 寄託品の返還を受けようとする者が所有者の代理人であるときは、委任状その他これを証する書面を館長に提出しなければならない。

(寄託期限)

5 美術品等の寄託期間(以下「寄託期間」という。)は2年とする。ただし、特別な理由があるとき、館長はこの期間を短縮することができる。

(寄託期間の更新)

6 館長は所有者の承諾を得て寄託期間を更新することができる。

(2) 寄託期間の経過後、所有者から寄託品の返還の請求がない場合は、寄託期間を更新したもののみなす。

(3) 館長は、この要領6の(1)および(2)により寄託期間を更新したときは、所有者に対し更新した受託証書を交付するものとする。

(所有者の変更等)

7 売買、相続等により寄託品の所有者に変更があったとき、または所有者の氏名、名称もしくは住所等に変更があったときは、所有者(所有者が変更した場合は変更後の所有者)は、所有権の移転その他氏名、名称等を証する書類を受託証書に添えて館長に提出し、受託証書の書き換えを受けなければならない。

(受託証書の再交付)

8 所有者は、受託証書を亡失し、または著しく破損したときは、これらの事実を証するにたる書類(破損の場合は、その受託証書)を添えて、速やかに館長に受託証書の再交付を申請しなければならない。

(寄託品輸送経費等の負担)

9 所有者は寄託品の搬入または返還に要する経費等を負担するものとする。ただし、館長が特にその必要がないと認めた場合は、この限りでない。

(寄託品の展示等)

10 館は、寄託品について、展示、研究および撮影等を行い、その結果を公刊することができる。

(2) 館職員以外の者がこの要領10の(1)の行為をしようとするときは、「福島県立美術館における美術品等の貸出しおよび写真撮影等に関する取扱要領」に定めるところにより、所定の手続きを経なければならない。

(寄託品の保存)

11 館長は、寄託品の保存管理およびその取扱いについては、館に所蔵する美術品に準じて行う。

(2) 館は、寄託品を亡失し、または損傷した場合は、その補償をするものとする。ただし、天災、その他不可抗力による場合は、この限りでない。

(その他)

12 この要領に定めるもののほか、美術品等の寄託に関して必要な事項は、館長が定める。

この要領は、昭和60年4月1日より施行する。

## ◆予算

### 【2020年度予算内訳】

歳入

科目(款・項・目・節)	最終予算額(千円)
使用料及び手数料	4,063
└ 使用料	4,063
└ 行政財産使用料	384
└ 土地使用料	33
└ 建物使用料	351
└ 教育使用料	3,679
└ 美術館使用料	3,679
財産収入	1,379
└ 財産売払収入	1,379
└ 物品売払収入	1,379
諸収入	779
└ 雑入	779
計	6,221

歳出

科目(款・項・目・節)	最終予算額(千円)
教育費	786,636
└ 教育総務費	646
└ 事務局費	629
└ 報酬	0
└ 共済費	629
└ 財務管理費	17
└ 交際費	17
└ 社会教育費	785,990
└ 社会教育総務費	396,259
└ 工事請負費	396,259
└ 美術館費	389,731
└ 報酬	72
└ 報償費	561
└ 旅費	3,002
└ 需用費	66,817
└ (食糧費)	(18)
└ 役務費	7,490
└ 委託料	114,672
└ 使用料及び賃借料	9,596
└ 工事請負費	159,430
└ 負担金、補助及び交付金	28,091
└ 公課費	0
計	786,636

## ◆施設・設備

## 【建築の概要】

設計 大高建築設計事務所

施工 鹿島建設株式会社仙台支店（建築・外観）

敷地面積 60,500㎡

建築面積 6,471.5㎡

延床面積 9,680.7㎡

建物構造 鉄筋コンクリート造（一部S造・2階建）

総工費 約49億円（本体、外構含む）

## 【設備の概要】

## 電気設備

1- 受変電設備：受電力 1,100W

2- 動力設備

3- 電灯・コンセント・照明（調光設備：各展示室、調光装置：講堂・講義室各1台）

4- 自家発電機設備

5- 避雷針

6- 電気時計

7- 火災報知設備

8- 防火扉・防煙設備

9- 拡声設備

10- インターホン設備

11- ITV 設備

12- 防犯設備

13- ビデオ設備

14- 蓄電池設備

15- 電話設備

## 空気調和設備

1- 熱源設備：

展示室・収蔵庫系統＝空気熱源スクルーヒートポンプ、  
120RT＋熱回収ヒートポンプ30RT 組合せ制御方式、冷水槽  
300㎡、温水槽250㎡

一般系統・図書館系統＝灯油だき冷温水発生器150RT 2台

2- 空調設備：単一ダクト方式

展示室4系統、収蔵庫3系統、ケース内4系統、一般系統7  
系統（一部フロアコイル併用）

3- 換気設備：50系統

4- 排煙設備：機械排煙6系統

5- 床暖房：2系統

6- 自動制御設備：中央監視盤、温湿度監視盤

## 給排水衛生設備

1- 熱源：都市ガス（厨房・実習室・工作修復室）／他は全て電  
器煮沸器を使用

2- 消化系：ハロン消火設備（収蔵庫3系統：共用機械室）／消  
火栓設備（消火ポンプ1台、屋内消火栓14台、動力ポンプ1台）

3- 燻蒸設備：ガスによる殺虫滅菌剤で燻蒸後吸着装置通過、規  
定濃度以下にして大気放出

4- 給水：受水槽45t（加圧給水）／直結給水

5- 排水：屋内は汚水・雑排水の分流式（外部で合流後、市下水  
道公共マスに接続）

## 昇降機設備

1- 乗用エレベーター：油圧式、750kg 11名乗り1台

2- 荷物用エレベーター：油圧式、最大積載量3t 1台

3- 乗用エレベーター：油圧式、600kg 9名乗り1台

## 【内部仕上げの概要】

1- エントランスホール

床：御影石バーナー仕上げ（一部長尺塩ビシート張）

壁：栓練付石綿ケイカル板

天井：栓練付石綿ケイカル板

その他：一部床暖房設備

2- 収蔵庫

床：パーケットブロック、ぶな素地

壁：米杉、矢羽根板張

天井：米杉、本実目透張

その他：収納棚、絵画収納ラック

3- 企画展示室

床：長尺塩ビシート張

壁：合板捨張の上に準不燃合板、特注クロス張

天井：栓練付パネル

その他：大型可動壁（幅8,770mm×高3,770mm、11枚）

固定ケース前可動壁：（幅1,600mm×高4,050mm、延長約  
72m）

固定ケース：（A-2、A-3、B：総延長72.3m）

4- 常設展示室

床：タフテッドループカーペット

壁：常設A- 栓練付ケイカル板

常設B- 大理石空積、水磨き仕上げ

常設C・D- くるみ練付ケイカル板

天井：常設A- 栓練付パネル

常設B・C・D- くるみ練付パネル

その他：固定ケース（常設A、16.2m）

5- 講堂

床：タイルループカーペット

壁：くるみ練付石綿ケイカル板

天井：ビニールクロス張

その他：座席数246（うち車椅子席4）／ステージ幅12m×  
奥行3.2m

6- 講義室

床：タイルカーペット

壁：くるみ練付石綿ケイカル板

天井：岩綿吸音板

7- 実習室

床：エポキシ系塗床

壁：モルタル金ゴテVP

天井：岩綿吸音板

8- 軽食喫茶室

床：長尺塩ビシート張

壁：くるみ練付パネル、粒状岩綿吸音材（一部）

その他：テーブル44席

9- その他

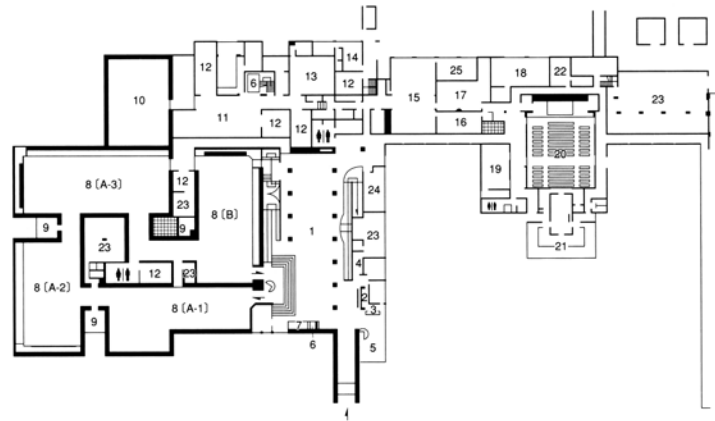
搬出入口：ホイストクレーン2.8t／テーブルリフター

写真室：電動スクリーン

## ◆施設配置図

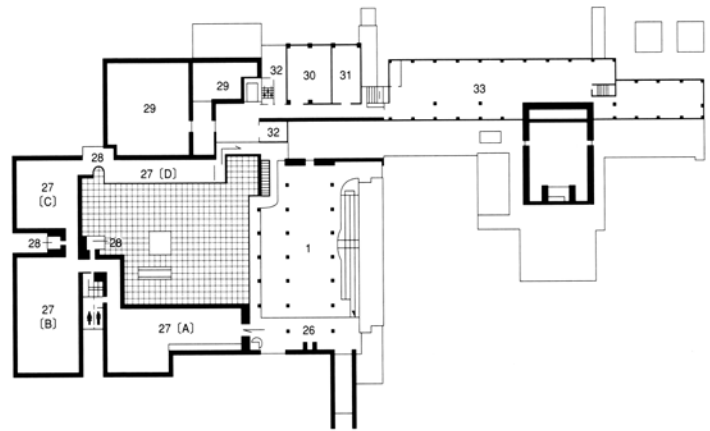
### 【1階】

- |              |           |
|--------------|-----------|
| 1. エントランスホール | 14. 警備室   |
| 2. 受付案内      | 15. 事務室   |
| 3. ブックショップ   | 16. 応接室   |
| 4. ロッカー室     | 17. 研究図書室 |
| 5. 図書コーナー    | 18. 実習室   |
| 6. エレベーター    | 19. 講義室   |
| 7. ビデオコーナー   | 20. 講堂    |
| 8. 企画展示室     | 21. 軽食喫茶室 |
| 9. 休憩室       | 22. 中央監視室 |
| 10. 収蔵庫 A    | 23. 機械室   |
| 11. 荷解梱包室    | 24. 館長室   |
| 12. 倉庫       | 25. 副館長室  |
| 13. 写真室      |           |



### 【2階】

- |             |
|-------------|
| 26. ロビー     |
| 27. 常設展示室   |
| 28. 休憩室     |
| 29. 収蔵庫 B・C |
| 30. 工作修復室   |
| 31. 会議室     |
| 32. 倉庫      |
| 33. 機械室     |



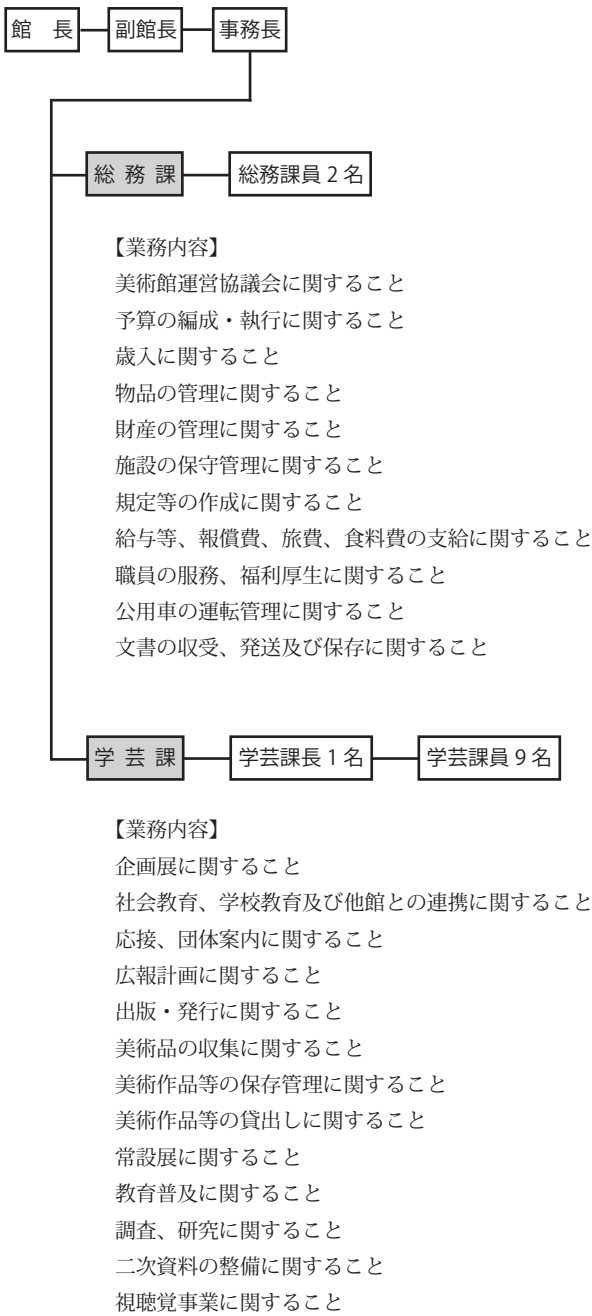
## ◆部門別専有面積 (\*は県立図書館と共用)

<b>サービス部門</b>	<b>1223.8m<sup>2</sup></b>
エントランスホール	817.3m <sup>2</sup>
受付案内	(ホールに含む)
ブックショップ	(ホールに含む)
ロッカー室	(ホールに含む)
図書コーナー	(ホールに含む)
ロビー	202.1m <sup>2</sup>
*軽食喫茶室	179.0m <sup>2</sup>
授乳室・救護室	25.4m <sup>2</sup>
<b>展示部門</b>	<b>3064.4m<sup>2</sup></b>
企画展示室 A (A-1,2,3)	1380.8m <sup>2</sup>
企画展示室 B	431.1m <sup>2</sup>
	(企画展示室合計 1811.9m <sup>2</sup> )
常設展示室 A	403.1m <sup>2</sup>
常設展示室 B	359.1m <sup>2</sup>
常設展示室 C	143.8m <sup>2</sup>
常設展示室 D	132.8m <sup>2</sup>
	(常設展示室合計 1038.8m <sup>2</sup> )
展示用具室	141.2m <sup>2</sup>
展示用具室 2	72.5m <sup>2</sup>
<b>収蔵部門</b>	<b>1365.3m<sup>2</sup></b>
収蔵庫 A	280.2m <sup>2</sup>
収蔵庫 B	368.7m <sup>2</sup>
収蔵庫 C	105.1m <sup>2</sup>
一時保管庫	51.8m <sup>2</sup>
収蔵庫前室	57.6m <sup>2</sup>
搬出入口	65.7m <sup>2</sup>
荷解梱包室	188.8m <sup>2</sup>
梱包倉庫	77.7m <sup>2</sup>

荷扱人控室	29.6m <sup>2</sup>
燻蒸室	33.3m <sup>2</sup>
工作修復室	106.8m <sup>2</sup>
<b>普及部門</b>	<b>654.6m<sup>2</sup></b>
*講堂	498.6m <sup>2</sup>
講義室	73.9m <sup>2</sup>
実習室 (準備室含む)	82.1m <sup>2</sup>
<b>研究部門</b>	<b>187.2m<sup>2</sup></b>
研究図書室	88.7m <sup>2</sup>
写真室	98.5m <sup>2</sup>
<b>管理部門</b>	<b>1832.7m<sup>2</sup></b>
応接室	48.0m <sup>2</sup>
副館長室	34.0m <sup>2</sup>
事務室 (総務課・学芸課)	174.0m <sup>2</sup>
会議室	73.3m <sup>2</sup>
館長室	43.2m <sup>2</sup>
事務機械室	16.0m <sup>2</sup>
警備室	54.7m <sup>2</sup>
更衣室	8.7m <sup>2</sup>
受付控室	15.4m <sup>2</sup>
給湯室	4.4m <sup>2</sup>
倉庫	33.0m <sup>2</sup>
*機械室	1266.4m <sup>2</sup>
車庫	61.6m <sup>2</sup>
<b>その他(化粧室・廊下・階段等)</b>	<b>1330.8m<sup>2</sup></b>

# ◆組織図・職員名簿

## 1. 組織図



## [外部機関]

美術館運営協議会 10名

収集評価委員会 5名

## 2. 職員名簿 (2021年3月31日現在)

名誉館長	酒井 哲朗 (2016.4.1-)
館長	長根由里子 (2020.4.1-)
副館長兼学芸課長	荒木 康子 (1990.4.1-2021.3.31)
事務長	小山田八重子 (2020.4.1-)
総務課 主査	高橋奈央子 (2017.4.1-2021.3.31)
総務課 同	嶋原 由夏 (2018.4.1-)
総務課 専門員	玉木 文夫 (2016.4.1-2021.3.31)
学芸課 専門学芸員	堀 宜雄 (1989.4.1-)
学芸課 同	増渕 鏡子 (1993.4.1-)
学芸課 主任学芸員	宮武 弘 (1992.4.1-)
学芸課 同	大北 孝 (2018.4.1-)
学芸課 同	紺野 朋子 (2012.4.1-)
学芸課 同	坂本 篤史 (2014.4.1-)
学芸課 副主任学芸員	白木ゆう美 (2014.4.1-)
学芸課 学芸員	橋本 恵里 (2017.4.1-)
学芸課 専門員	伊藤 匡 (2017.4.1-)



## □利用案内

### 1. 開館時間

9時30分～17時（最終入館は16時30分まで）

※夜間開館を行うことがあります。

### 2. 休館日

1) 月曜日（祝祭日をのぞく）

2) 祝祭日の翌日（土日をのぞく）

3) 年末年始（12月28日～1月4日）

※都合により臨時休館を行うことがあります。

### 3. 観覧料

#### 1) 常設展

一般・大学生：280円（220円）、高校生以下：無料

※（ ）内は20名以上の団体料金

#### 2) 企画展 その都度料金が変わります。

※企画展の料金で常設展もご覧になれます。

※企画展のみの観覧券は発行していません。

※ふくしま教育週間（11月1日～7日、ただし休館日は除く）

中は、小・中・高校生は企画展料金も無料。

※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は企画展料金が無料

（身体障害者手帳・療育手帳1種、精神障害者保険福祉手帳

1級をお持ちの方は付き添いの方も無料）

#### 4. 常設展無料

1) 子供の日（5月5日）、県民の日（8月21日）、

敬老の日（9月第3月曜）、文化の日（11月3日）

2) 身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方（それぞれ第1種または1級の方は付き添いの方も無料）

3) 小・中・高校生（団体の場合、引率者も無料）

#### 5. 常設展減額免除

常設展料金無料：大学生が、学校活動の一環で観覧するとき

常設展料金半額：公民館や公共団体が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき

※事前申請が必要です。いずれも引率者は無料となります。

#### 6. 年間観覧券

常設展示・企画展示ともに、購入より一年間有効

（一般・大学生3,000円／高校生1,800円／小・中学生1,200円）

#### 7. 交通案内

1) J R 福島駅（東口）より

電車：福島交通飯坂線「美術館図書館前駅」下車、徒歩2分

バス：9番バス乗り場より、福島交通もりん2コース「県立美術館入口」下車、徒歩4分

タクシー：約5分

2) 自家用車

東北自動車道・福島飯坂ICより約15分、福島西ICより約20分 ※駐車場150台収容

## 福島県立美術館年報 令和2年度・2020

2022年2月25日 発行

編集・発行 福島県立美術館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

電話 024-531-5511

ファックス 024-531-0447

ホームページ <https://art-museum.fcs.ed.jp>

印刷

株式会社プロセス印刷



リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。